

GR

AS

AD

GSA

<https://nihon-u-gsa.com>

日本大学大学院芸術学研究科

芸術の新たな地平を切り拓く。



【芸術学研究科 教育研究上の目的】

21世紀の芸術は、すべての領域における融合を必然としている。芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究と想像力を養い、併せて専門及び学際的課題を含む応用領域の研究を行っている。専門分野の更なる研究と創作等を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することで、幅広い知識と技術を持った、次代の芸術をリードする人材を養成する。

近年の芸術は、各分野がそれぞれ深化し、より高度な専門性が要求されるようになっていきます。

同時に、各分野のクロスオーバーする部分も大きくなるとともに、これまでの芸術の各領域を超えてマルチプル化しています。単独分野の研究を超えて、各分野が複雑にかかわり合うようになってきており、単独の芸術の深化をはかるだけでは十分といえない領域が多くなってきています。

本研究科は、以上のような芸術の現状を視野に置きながら、芸術の理論と歴史の研究と想像力を養い、併せて専門および学際的課題を含む応用領域の研究を行うことを目的としています。

このような理念を基に、博士前期(修士)課程は昭和26年に設置した文芸学専攻に加えて、平成5年に映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の4専攻を設置し、芸術の理論と高度な表現力を涵養することを主眼に構成しています。また、平成7年に開設された博士後期課程芸術専攻では、さらに自立した研究活動と高度な活動に従事するのに必要な表現能力と豊かな学識を持った人材の育成を目標としています。

Recently each field of art has become increasingly specialized, and students must acquire a higher level of knowledge and skills.

At the same time, each field of art has spread beyond its traditional range and borders between fields have become blurred.

The graduate school of art provides an opportunity to study the theory and history of art and to develop creativity while also developing skills in other applied areas.

Based on these ideas, the Literary Arts Master Course started in 1951 and the four other master courses (Image Arts, Fine Arts and Design, Musical Arts, and Performing Arts) became available in 1993. The doctoral course that started in 1995 offers an even higher level of research and study, and educates students to acquire deep knowledge and artistic expression.

The Message from Hiroshi Kawakami,, Head of the Graduate School of Art



川上 央

日本大学大学院芸術学研究科長

学ぶ人たちへのメッセージ

日本大学大学院芸術学研究科は、昭和26年の文芸学専攻に始まり、平成5年の映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の増設へと、芸術研究の領域を広げてきました。そして平成7年には、博士後期課程芸術専攻を創設し、当研究科が目的とする総合的な芸術研究の場を整えました。学部8学科を基盤とした5専攻の芸術学研究科は、人類が培ってきた芸術分野をさらなる高みへと導くための研究を目的としています。芸術学研究科が提供するものは、芸術創作、そしてその創作を支える研究の場です。

本研究科博士前期課程のカリキュラムの特徴は、これまで培われてきた芸術研究に併せ、先端的な研究を実現できることです。5専攻による芸術研究はそれぞれの専門分野をより高みに導くために機能しており、多様な研究分野の教員とともに、多くの叡智を結集させることができます。そのような学習の成果は、表現はもとより、学術論文として査読付きの学内雑誌に投稿し、広く、世に発信することが可能です。

博士後期課程のカリキュラムは、前期課程までに培った研究をさらに発展させ、研究者として十分な研究成果を作り出し、学術雑誌や博士論文として、自らの研究を普遍的な知見として社会に還元させる内容となっています。これまでも多くの芸術学の博士学位取得者を輩出してきましたが、その多くは博士後期課程での研究をさらに発展させ、芸術領域の研究をリードしていく人材として現在も様々な研究機関で活躍しております。

そして一番大切なことは、芸術を大学院で学ぶということは、芸術の素晴らしさを社会に還元し、芸術によって世の中をリードしていく人材になってもらいたいということです。創作や研究をするだけでなく、作品や論文を世の中にどんどんと公開し、我々が追求している芸術が、社会、さらには人類にとって必要不可欠なものであることを強く認識してもらうことが大学院での学びの一番重要なことだと考えています。

The Graduate School of Art of Nihon University has expanded its field of artistic research since the establishment of the Course of Literary Arts in 1951, followed by the addition of Image Art, Fine Art and Design, Musical Arts, and Performing Arts in 1993. In 1995, in order to achieve the objective of the Graduate School, the Doctoral Course in Arts was established to provide a place for comprehensive artistic research. The Graduate School of Arts, with its five majors based on the eight undergraduate departments, aims to take the field of arts cultivated by humankind to a higher level. The Graduate School of Arts provides a place for artistic creation and the research that supports that creation.

The Master of Arts curriculum brings students and faculty member from diverse fields together. Students study the cumulation of research in the arts up until now as well as conducting their own cutting edge research within the 5 major artistic fields to raise their own respective fields of specialization to new heights. The results of such studies can be widely disseminated to the world. by submitting them as academic papers to peer-reviewed journals. The curriculum of the doctoral program is designed to further develop the research developed up in the Masters curriculum, to produce fully realized researchers, and broadcast the results of research to society as universal knowledge in the form of academic articles and doctoral dissertations. We have produced many doctoral degree holders in the arts, many of whom have further developed their research in the doctoral program and are still active in various research institutions as leaders in the field of the arts. The most important thing to remember is that studying art in graduate school means giving back to society the splendor of art, and we want our students to become human resources who will lead the world through art. I believe that the most important thing about studying at a graduate school is not only to create art and conduct research, but also to make our works and theses available to the world at large, so that people will strongly recognize that the art we are pursuing is indispensable to society.

72年の歴史を持つ
芸術系総合大学院

72年の歴史を重ねる日本大学大学院芸術学研究科は、昭和26年に修士課程文学専攻からスタートしました。専門分野の更なる研究と創作を行うとともに、隣接領域の芸術と触れ合い、広い視野をもって芸術を理解することを目的として、平成5年度より映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の4専攻を増設し、学部8学科を基礎とした大学院として大きな一歩を踏み出しました。更に、平成7年度からは、博士後期課程芸術専攻を開設し、芸術系総合大学院として幅広い知識と技術を持った人を育成しています。

C O N T E N T S

芸術学部 College of Art	芸術学研究科 Master Course	芸術学研究科 Doctoral Course	芸術学研究科 Graduate School of Art	1
学部 【8学科】	博士前期課程 【5専攻】	博士後期課程 【1専攻】		
文芸	文芸学		—— 文芸学専攻 Literary Arts	4
写真			—— 映像芸術専攻 Image Arts	5
映画	映像芸術			
放送			—— 造形芸術専攻 Fine Art and Design	6
美術	造形芸術			
デザイン			—— 音楽芸術専攻 Musical Arts	7
	音楽芸術			
音楽			—— 舞台芸術専攻 Performing Arts	8
	舞台芸術			
演劇			—— 芸術専攻 The Arts	9
		芸術		
			教員 Faculty Members	10 49
			校舎等案内図 Guide Maps & INDEX	50

(令和5年9月現在)

Literary Arts Course

新しい創造力は、広い視野から生まれる。

文芸学専攻は、他の4専攻設置の科目を含め、幅広い視点から、創作・評論・文芸学・ジャーナリズムに関する研究を行うことが可能です。

授業科目	授業担当
A 理論部門	
文芸学特論 I	上田 薫 植月恵一郎
文芸学特論 II	上田 薫
哲学特論	伊藤博明
芸術心理学特論	野村康治
文芸情報学特論	ジュリアン・マニング
マスコミュニケーション論	藤代裕之
メディア論	阿久澤騰
文芸史特論	山内 淳
芸術社会学特論	三宅理一
文芸表現特論	浅沼 璞 山本雅男

【文芸学専攻 教育研究上の目的】

現代文学を研究・創作の両面から考え、隣接ジャンルとの関係で幅広くとらえて文学の未来を探らせる。文学のみならず広義の文化研究の領域でも新研究を求めている。そのためのあらゆる試みを可能にして、文壇・論壇・学界の新しい担い手を養成する。

文芸学専攻

This course was founded in 1951 and many talented people have graduated from it over the past half century. The course offers not only artistic theory and philosophy, but also the study of literature and literary theory. Moreover, students can also study journalism, communication, and creative writing.



文芸学専攻は、昭和26年に設置され、半世紀以上にわたり多くの人材を送り出しています。

文芸学専攻は、芸術学や芸術哲学を基礎とし、文学や文芸理論の研究、文芸作品の研究、作家研究を中心としたカリキュラムが組まれているのが特徴です。さらに、ジャーナリズムやコミュニケーションを対象とした研究・教育を行うとともに、創作実践および創作研究も取り入れていることは、他の文学専攻と異なった特徴のひとつです。

B 研究・創作部門

外国文芸特殊研究	ソコロワ山下聖美 ジュリアン・マニング
日本文芸特殊研究	上田 薫 ソコロワ山下聖美
文芸創作特殊研究	青木敬士 楊 逸
外国文芸特論 I	堀 邦維 山内 淳 山本雅男
外国文芸特論 II	堀 邦維 山内 淳
日本文芸特論 I	ソコロワ山下聖美 上坪裕介 谷村順一 清水 正
日本文芸特論 II	ソコロワ山下聖美 上坪裕介 谷村順一 清水 正
文芸創作特論 I	青木敬士 楊 逸
文芸創作特論 II	青木敬士 楊 逸

C 関連領域部門

芸術学特論	上田 薫 川崎賢子 渡部葉子
リサーチ特殊研究 I	晏 妮
リサーチ特殊研究 II	吉野大輔
映画史特論	志村三代子 相内啓司
放送史特論	鈴木康弘
日本美術史特論 I	大熊敏之
日本美術史特論 II	田口文哉
西洋美術史特論 I	出羽 尚
西洋美術史特論 II	出羽 尚
日本音楽史特論 ※	平野 昭
西洋音楽史特論	法月敏彦
演劇史特論	

D 連携研究部門

連携理論研究 I	
連携理論研究 II	
連携表現研究 I	
連携表現研究 II	
学位論文・作品	

※は令和5年度開講せず

Image Arts Course

柔軟な感性、深い探究心が、映像芸術の新時代をとらえる。

【映像芸術専攻 教育研究上の目的】

今日の情報環境の中で役割が拡大してきている写真、映画、TV等各専門領域・専門分野の深化・総合化を図る。映像の各分野の歴史研究や作品研究、さらに各メディアの総合化の実験、他の芸術領域との統合を図るなど、高度な創作活動、理論的研究を通じて、より新しく専門的な表現実験に意欲的に取り組む人材、専門的な教育研究に従事する人材の養成と新たな総合的研究領域の形成を図る。



映像芸術専攻

Today image arts are becoming increasingly important forms of artistic expression and sources of information. Not only changes in the media such as photography, film, television and digital gadgets, but also a fusion of digital image processing technologies and communication technologies is expanding the scope of possibilities in audio-visual space. This course aims to develop an overall conceptual framework for image arts, encompassing these image-based media. The main concept of this course is that each image is essential for various media, and artistic images connect people with society. Image is regarded as a technological artistic expression and as a social function of communication. Therefore, education and research in this major requires knowledge of natural science, professional techniques and creative activities.

今日の芸術表現および情報環境の中で、映像の持つ役割は大きくなっています。写真、映画、テレビ、インターネット配信、モバイル機器などのメディアの変化とデジタル映像処理技術や通信技術との融合で視聴覚空間は拡大しています。映像芸術専攻は、こうした映像のさまざまなメディアを総合化した理念でとらえています。また、現在のメディアの中心は映像であるということを基調とし、人と社会をつなぐ芸術メディアをデザインする研究と創作活動を通じて専門的知識を追究することを目的としています。映像は、技術によって成立する芸術表現であり、表現内容だけでなく、表現方法も日々変化しています。本専攻では、それを踏まえ科学的知識、専門的表現技術および創作・研究を重要視し国際的にも地域的にも映像芸術に貢献できる人材の育成を目指したカリキュラムを配置しています。

芸術学部の写真・映画・放送学科の各領域を一つにし、映像分野における芸術創造の研究機関の役割を果たすという構想のもと、映画・映像メディアの研究と創作を行っています。

授業科目	授業担当
A 理論部門	
映像特論	鳥山正晴
写真史特論	三井圭司
映画史特論	志村三代子
放送史特論	相内啓司
映像構成特論	鈴木康弘
映像技術特論 ※	相内啓司
映像音響特論	手塚昌明
映像教育研究 ※	眞道正樹
B 演習・実習部門	
映像表現研究 I	田中里実 上倉 泉 齊藤裕人 鳥山正晴 松島哲也
写真特殊研究 I	西垣仁美
映画特殊研究 I	古賀 太 志村三代子
放送特殊研究 I	兼高聖雄
映像メディア特殊研究 I	奥野邦利
映像作品特殊研究 I	佐藤英裕 鳥山正晴 小林 偉 鈴木康弘
映像技術特殊研究 I ※	浅井 譲
映像表現研究 II	田中里実 服部一人 大谷尚子 清水和貴 松島哲也 増田治宏 青木研次 近森真史 花柳貴答 福田卓郎 宮澤誠一

写真特殊研究 II	高橋則英 西垣仁美
映画特殊研究 II	古賀 太 増田治宏 晏 妮 山田 均 兼高聖雄
放送特殊研究 II	小林 偉
映像メディア特殊研究 II	片淵須直 加藤亮介 瀬島久美子
映像作品特殊研究 II	横田正夫 佐藤英裕 茅原良平 金 龍郎 小林 偉 鈴木康弘 中町綾子 星野 裕 森中愼也 谷 昭佳 寺脇 研 秋元貴美子
映像技術特殊研究 II	上倉 泉 玉木則順 安部 裕 落合賢一 河野純一

C 関連領域部門
芸術学特論

リサーチ特殊研究 I	上田 薫 川崎賢子
リサーチ特殊研究 II	渡部葉子
文芸学特論 I	晏 妮 吉野大輔
文芸学特論 II	上田 薫 植月恵一郎
哲学特論	上田 薫
芸術心理学特論	伊藤博明
文芸情報学特論	野村康治
マスコミュニケーション論	ジュリアン・マニョ
メディア論	藤代裕之 阿久澤騰
文芸史特論	山内 淳
芸術社会学特論	三宅理一
造形特論	大西若人 山中敏正
建築造形特論	三宅理一
デザイン史特論 I	森 香織 小林昭世
デザイン史特論 II	森 香織 小林昭世
建築デザイン史特論 I	伏見 唯
建築デザイン史特論 II	伏見 唯
日本美術史特論 I	大熊敏之
日本美術史特論 II	田口文哉
西洋美術史特論 I	出羽 尚
西洋美術史特論 II	出羽 尚
音楽芸術特論 I	笠羽映子
音楽芸術特論 II	平野 昭
日本音楽史特論 ※	平野 昭
西洋音楽史特論	岩宮真一郎
情報音楽特論	大寺雅子
音楽心理学特論	小林直弥
舞台芸術特論	法月敏彦
演劇史特論	宮尾慈良
民俗芸能特論	松澤慶信
舞踊史特論	丸茂祐佳
古典劇特論 ※	堀 邦維
映像文献原典購読	堀 邦維

D 連携研究部門

連携理論研究 I	連携理論研究 I
連携理論研究 II	連携理論研究 II
連携表現研究 I	連携表現研究 I
連携表現研究 II	連携表現研究 II
学位論文・作品・制作	

※は令和5年度開講せず

Fine Art and Design Course

知識の蓄積は、創造の可能性を広げる。

【造形芸術専攻 教育研究上の目的】

デザイン、美術、美学美術史の分野における専門家を養成する。創作研究、作品分析研究、歴史研究を多角的に追求し、平面、立体、映像等表現の伝統的及び現代的技法を習得する。芸術の根源的な営為への想像力を馳せる力を養う一方で、文献学の基礎的方法も学ぶ。国際的な視野を持ち、社会との連携も視野に入れつつ、IT時代に即応した先端的表現領域や、造形関連分野境界領域での表現の独創性も追求する。



宋羅偉「大楠」(日本画)

造形芸術専攻



中里亮吾「明鏡止水」(木彫着彩)

The primary goal of this course as an extension of the undergraduate course is to foster artistic as well as intellectual ability. It is assumed that the former is strengthened and given direction by the latter. Although training students in skills and technical knowledge in their respective fields of painting, sculpture, printmaking and design disciplines including communication, industrial and architectural designs— along with the theory of plastic art that encompasses them— is important, creative interactions among these fields is also strongly encouraged. This course aims to endow students with sensitivity to traditional culture as well as to the age of information and globalism, a prerequisite for the creation of visual culture in the future.

造形芸術専攻では、造形芸術に関する知識の修得とともに、高度な専門領域の研究と技術の修得を行います。

授業科目	授業担当		
A 理論部門			
造形特論	大西若人 山中敏正	造形理論研究 II	鞍掛純一 寺内隼子 池田光弘
建築造形特論	三宅理一	造形理論研究 I	笠井則幸 森 香織 佐藤 徹 長瀬浩明 若原一貴 大熊敏之 出羽 尚 山中敏正
日本美術史特論 I	大熊敏之	造形理論研究 II	嶋村有里子 瀧崎正武 吉岡正人
日本美術史特論 II	田口文哉	版画特殊研究 I	作田富幸 八木なざさ 作田富幸
西洋美術史特論 I	出羽 尚	版画特殊研究 II	飯田竜太
西洋美術史特論 II	出羽 尚	彫刻特殊研究 I	藤井 匡 海崎三郎
デザイン史特論 I	森 香織 小林昭世	彫刻特殊研究 II	山本守和 松本 有
デザイン史特論 II	森 香織 小林昭世	デザイン特殊研究 I	大庭英治 瀧崎正武
建築デザイン史特論 I	伏見 唯	デザイン特殊研究 II	吉岡正人 野口玲一 西尾 彩 鷹尾俊一 大槻孝之 肥田不二夫
建築デザイン史特論 II	伏見 唯	デザイン特殊研究 III	伊藤 寛 木村政司 伊藤 寛 小林昭世
美術教育研究 I	金澤健一	造形理論研究 I	
美術教育研究 II	金澤健一	造形芸術研究 I (絵画・版画)	上田 薫 川崎賢子 渡部葉子 晏 妮 吉野大輔 上田 薫 植月恵一郎 伊藤博明 ジュリアン・マニング 鳥山正晴 三井圭司 志村三代子 相内啓司 鈴木康弘 笠羽映子
B 演習・実習部門			
造形芸術研究 I (絵画・版画)	笹井祐子 福島唯史 瀬島 匠 鞍掛純一 笠井則幸 佐藤 徹 長瀬浩明 森 香織 若原一貴 鞍掛純一 笹井祐子 瀬島 匠 福島唯史 坪井麻衣子 大庭英治 斉藤里香 作田富幸 渡邊有葵 吉岡正人	絵画作品研究 I	
造形芸術研究 I (彫刻)		絵画作品研究 II	
造形芸術研究 I (デザイン)		版画作品研究 I	
		版画作品研究 II	
		彫刻作品研究 I	
		彫刻作品研究 II	
		デザイン作品研究 I	
		デザイン作品研究 II	
		デザイン作品研究 III	
		デザイン作品研究 IV ※	
		デザイン実務研究 ※	
		C 関連領域部門	
		芸術学特論	
		リサーチ特殊研究 I	
		リサーチ特殊研究 II	
		文芸学特論 I	
		哲学特論	
		文芸情報学特論	
		映像特論	
		写真史特論	
		映画史特論	
		放送史特論	
		音楽芸術特論 I	
		日本音楽史特論 ※	
		西洋音楽史特論	
		情報音楽特論	
		音楽心理学特論	
		舞台芸術特論	
		演劇史特論	
		民俗芸能特論	
		古典劇特論 ※	
		芸術心理学特論	
		芸術社会学特論	
		造形文献原典購読 ※	
		D 連携研究部門	
		連携理論研究 I	
		連携理論研究 II	
		連携表現研究 I	
		連携表現研究 II	
		学位論文・作品・制作	

研究活動を通じて生まれた「知」と、「知」に支援された「感性」の両者を合わせもつ人材の育成こそが、学部課程の発展形としての博士前期課程の主たる教育目標です。より高度な専門性の涵養をめざす一方では、造形専攻を構成する絵画、彫刻、版画、地域芸術、造形理論、及びコミュニケーション、インダストリアル、建築のデザイン各分野が、領域をこえて、創造的な交流をはかるための多様な機会も用意されています。伝統の蓄積と、情報化・国際化という時代の趨勢の中で、各自がテーマ設定と方法論の構築を通じて、いかにして創造の糧として取り込むか。ここに芸術創造の優れた担い手の養成をめざす造形芸術専攻の不断の目標があります。

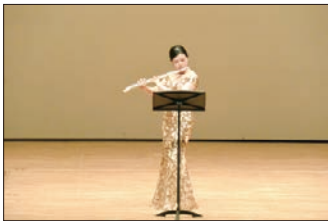
※は令和5年度開講せず

Musical Arts Course

時代に先駆けた音楽人を目指す。

【音楽芸術専攻 教育研究上の目的】

音楽は、芸術文化の中で重要な部分を形成するばかりでなく、社会がますます複雑化し、多様化するにつれて、演劇、舞踊、映画、放送などといった諸分野との結びつきも、さらに密接になってきている。文化の国際化にともなう、まったく新しい形の活動も、めざましい。現実を見据え、いっそう高度な演奏、創作、研究を実践し、あるいは教育に当たることのできる人材を養成する。



音楽芸術専攻



The Musical Arts major comprises the musical performance fields of piano, vocal music, strings, winds, and percussion instruments, and the thesis fields of composition, theory, and music informatics. The historically deep domain of musical arts has developed into a modern artform in combination with other arts, such as theater, cinema, and broadcasting. At Nihon University College of Art, each artform related to the modern art of music is transforming and taking a new form. The Musical Arts major fosters independent and creative individuals who excel in their respective specialities, while also studying the history and theory of music. Nihon University College of Art is a center for fusing expertise in other fields to develop multi-disciplinary new art forms.

多様化するニーズに応えるため、より高度な音楽的感性と、技法の向上の研究を行っていきます。

授業科目	授業担当
A 理論部門	
音楽芸術特論Ⅰ	笠羽映子
音楽芸術特論Ⅱ	平野 昭
日本音楽史特論※	
西洋音楽史特論	平野 昭
情報音楽特論	岩宮眞一郎
音楽教育特論	江間孝子
音楽心理学特論	大寺雅子



音楽芸術専攻は演奏系のピアノ・声楽・弦管打楽器及び論文系の作曲・理論・情報音楽の分野から成り立っている。歴史的に深い音楽芸術は、他の美術・演劇・映画・放送などと結びついて、現代の芸術に発展してきた経緯がある。この日芸において、結びついてきたそれぞれの芸術が、新しい芸術へと生まれ変わろうとしている。歴史的芸術の本質を理論的に研究し再現しながら、他の領域の専門性との融合で、新しい総合芸術に育てあげることができる日芸の音楽芸術は、それぞれの専門で秀でている教師陣と共に、自主創造できる人材を育成している。

B 演習・実習部門

作曲特殊研究	伊藤弘之 齊田正子
声楽特殊研究	高久 暁
器楽特殊研究	田代幸弘 萩原貴子
音楽学研究	伊藤弘之
音楽教育研究	大寺雅子
情報音楽研究	川上 央 三戸勇気
音楽理論研究Ⅰ	伊藤弘之 大寺雅子 川上 央 高久 暁 三戸勇気
音楽理論研究Ⅱ	岩宮眞一郎 伊藤弘之 大寺雅子 川上 央 高久 暁 三戸勇気 吉野大輔 岩宮眞一郎
音楽表現研究Ⅰ	伊藤弘之 齊田正子 田代幸弘 萩原貴子 吉田行地 脇岡洋平 佐々木 伸 袴田和泉 本田聖嗣 松本 明
音楽表現研究Ⅱ	伊藤弘之 齊田正子 田代幸弘 萩原貴子 吉田行地 脇岡洋平 原田 圭 田村由貴絵 二ツ木千由紀 楊 麗貞
音楽作品研究	齊田正子 今泉 久 楊 麗貞
指揮研究	今泉 久

C 関連領域部門

芸術学特論	上田 薫 川崎賢子 渡部葉子
リサーチ特殊研究Ⅰ	晏 妮
リサーチ特殊研究Ⅱ	吉野大輔
造形特論	大西若人 山中敏正 鳥山正晴
映像特論	相内啓司
映像構成特論	手塚昌明
映像音響特論	眞道正樹
放送史特論	鈴木康弘
演劇史特論	法月敏彦
舞踊史特論	松澤慶信 丸茂祐佳 宮尾慈良
民俗芸能特論	大熊敏之
日本美術史特論Ⅰ	山口文哉
日本美術史特論Ⅱ	出羽 尚
西洋美術史特論Ⅰ	出羽 尚
西洋美術史特論Ⅱ	山内 淳
文芸史特論	伊藤博明
哲学特論	北岡晃子
音楽文献原典購読	

D 連携研究部門

連携理論研究Ⅰ	
連携理論研究Ⅱ	
連携表現研究Ⅰ	
連携表現研究Ⅱ	
学位論文・作品・制作	

Performing Arts Course

舞台芸術を学び、創造力を育成する。

【舞台芸術専攻 教育研究上の目的】

演劇の実践教育及びその芸術表現を基盤に、戯曲、演出、舞台美術の空間表現と、演技、舞踊など身体表現の教育研究を主眼とする。ことに、映像メディアを活用した身体表現や創作実験の場の提供による表現など創造的研究を行う。従来の西洋演劇を中心にした学問体系のみならず日本の伝統芸能、民族芸能等を基盤として、これらの歴史研究、調査研究を実施し、高度な専門知識と実践的能力を有する人材を養成する。

舞台芸術専攻

The field of "performing arts" covers every artistic form using the human body as a medium of expression. This major gives students opportunities to learn the practical methods of, and to research, dramatic literature, directing, stage design, ethnic/folk performances, and the educational / therapeutic use of the performing arts. It is powerful, authentic expression from the heart that moves people and deepens research. This major welcomes students with brave, frontier spirits.



舞台芸術におけるより高度な研究には、固定概念に捉われず常に社会を観察する洞察力が必要です。先人たちが何を理想とし、また何を創造してきたのか、内外の歴史を知りそれを広く自らの研究領域に活用しなければなりません。言わば「温故知新」の姿勢が必要で、確固たる理論の研究や歴史への理解に加え、常に開拓者の精神で望む創造への挑戦は、理論研究であれ、それに基づく実践的研究であっても本質的に何も違いはありません。社会のニーズにあった研究者の育成はもちろん、修士制作を通し、専攻での研究成果を活かした様々なシーンで活躍できる優れた表現者の育成も行っています。

また、舞台芸術における、高度な理論および創造の研究・教育を目標に置いた授業を行っています。

授業科目	授業担当
A 理論・歴史部門	
舞台芸術特論	小林直弥
演劇史特論	法月敏彦
舞踊史特論	松澤慶信
	丸茂祐佳
	宮尾慈良
民俗芸能特論	
古典劇特論 ※	
応用演劇特論	櫻井 歆
	小沢 徹
アート・マネジメント特論	奥山 緑
B 演習・実習部門	
舞台表現研究	中野成樹
	松永雅彦
	松山 立
	加藤みや子
舞踊特殊研究	小林直弥
	范 旅
戯曲特殊研究	川村 毅
舞台演出特殊研究	山口英峰
	藤崎周平
	神永光規
舞台美術特殊研究	大久保恵児
	千早正美
古典演劇特殊研究 ※	
民俗芸能特殊研究	小林直弥
応用演劇特殊研究	奥山 緑
	櫻井 歆
C 関連領域部門	
芸術学特論	上田 薫
	川崎賢子
	渡部葉子
リサーチ特殊研究 I	晏 妮
リサーチ特殊研究 II	吉野大輔
メディア論	阿久澤騰
映像特論	鳥山正晴
造形特論	大西若人
	山中敏正
音楽芸術特論 I	笠羽映子
音楽芸術特論 II	平野 昭
映画史特論	志村三代子
	相内啓司
放送史特論	鈴木康弘
映像音響特論	眞道正樹
音楽心理学特論	大寺雅子
演劇文献原典購読	植木恵一郎
D 連携研究部門	
連携理論研究 I	
連携理論研究 II	
連携表現研究 I	
連携表現研究 II	
学位論文・作品・制作	

※は令和5年度開講せず

The Arts Course

研究心は、さらに高度な芸術を求める。

【芸術専攻 教育研究上の目的】

近年の芸術は、異なった分野・領域の芸術が、先端的なメディア等を介しながらクロスし、さらに密接な関係が成立している。専門の分野をより深く研究することを目的としつつ、どの分野からでも自らの研究に必要な他分野も研究し、新たな表現と理論の開発にも有効に機能するよう、芸術の学問と創作研究を確立し、自立した研究活動と高度な専門的活動に従事するに必要な高度な表現研究能力と豊かな学識を持った人材を養成する。

In recent artistic circumstances, fields of art have expanded beyond their traditional domains and are closely related through advanced media. The five master

芸術専攻

courses (Literary Arts, Image Arts, Fine Arts and Design, Musical Arts and Performing Arts) are united into one doctoral course. Students are able to study more specialized fields and interrelated fields as necessary. In the doctoral course students are encouraged to develop new artistic expression and theories. This course also offers working people the chance to study for doctoral degrees based on Act fourteen of the special law for the establishment of the graduate school. Working people can study during the day or in the late evening. Graduates from the master courses and doctoral course are engaged in educational and research institutions. Some of them continue their research in highly specialized fields, and others develop new fields.

授業科目	授業担当		
A 理論・歴史研究領域		B 表現研究領域	
芸術学特殊研究	大熊敏之 伊藤博明 川崎賢子	映像表現特別研究	奥野邦利 齊藤裕人 鳥山正晴 松島哲也 鈴木康弘 中町綾子 星野 裕 森中慎也 宮澤誠一 鞍掛純一 笹井祐子 瀬島 匠 笠井則幸 佐藤 徹 森 香織 長瀬浩明 楊 逸
映像理論特殊研究		造形表現特別研究	
写真史特殊研究 ※			
映画史特殊研究	古賀 太		
写真技術特殊研究 ※			
映像技術特殊研究	上倉 泉 大熊敏之 小林昭世 山中敏正 大熊敏之	造形表現特別研究	
造形理論特殊研究			
美術史特殊研究			
デザイン史特殊研究 ※			
文芸理論特殊研究	山本雅男	文芸表現特別研究	
文芸史特殊研究	上田 薫 清水 正	舞台表現特別研究 ※	
		音楽表現特別研究	齊田正子 田代幸弘 萩原貴子 楊 麗貞
舞台芸術理論特殊研究 ※			
演劇史特殊研究 ※			
メディア・コミュニケーション特殊研究	上田 薫 瀬島久美子		
音楽理論特殊研究	高久 暁 笠羽映子 寺脇 研		
音楽史特殊研究			
芸術教育特殊研究			
		C 特定研究領域	
		芸術研究特別演習	ソコロフ山下聖美 楊 逸 奥野邦利 鳥山正晴 松島哲也 古賀 太 兼高聖雄 大熊敏之 瀬島 匠 福島唯史 笹井祐子 森 香織 伊藤弘之 川上 央 高久 暁 田代幸弘 萩原貴子

学位論文

※は令和5年度開講せず

近年の芸術環境は、異なった分野・領域の芸術が、先端的なメディア等を介させながらクロスオーバーしており、互いに密接な関係を結んでいます。博士後期課程の専攻を1専攻とし、博士前期課程の文芸学専攻、映像芸術専攻、造形芸術専攻、音楽芸術専攻、舞台芸術専攻の5専攻を総合化したのは、そういった現代の芸術環境があつてのことです。そして、それは自らの専門分野の探究を目的としながら、他分野の研究を視野に入れて、新たな創造理論を構築する場として機能しています。社会人の入学枠を設け(大学院設置基準第14条による教育方法の特例)、昼夜開講制を取り入れたことも大きな特色です。すでに博士前期または修士課程を修了し、教育・研究機関や企業に従事しながら、より高度な芸術の専門領域について研究を継続したり、フィールドを越えて新たな芸術研究に取り組もうとする新進の研究者への門戸が開かれています。

Literary Arts

GSA

Faculty Members

Literary Arts

Image Arts

Fine Art and Design

Musical Arts

Performing Arts

The Arts



青木敬士

専任

生年月日
昭和45年08月15日生

略歴
平成05年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成17年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部准教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
メディア芸術論・SF小説論：印刷された「紙面」と表示される「画面」の二面においてテキスト表現の進化を研究している。また、人工音声合成技術が肉体のしぐみに依拠しない声を発するにもかかわらず、人がそこにキャラクターを感じてしまう現象を可視化する創作も行う。人類が自らを含む環境を把握するために、環境から切り離すことができた最初のテクノロジーを「文字」とするならば、ポーカーロイド等の人工音声文化の広がりは、一見「声の文化」的な姿をみせつつも「文字の文化」の本質を具象化するものであり、今後の文学にSF的な世界観の広がりを付与することになると考えられる。その行く末を見据えた研究を続けている。

研究業績
「SF小説論講義——SFが現実には追い越されたって本当ですか」江古田文学会、2016年
「世界はゴミ箱の中に」現代図書、2005年
「アミドロイド～合成音声による「朗読」に架空の肉体を与える装置」芸術学部紀要創作編38

社会活動
江古田文学会常任理事
デジタルアーカイブ学会会員
人工知能学会会員



上田 薫

専任

生年月日
昭和39年04月07日生

略歴
昭和63年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成02年03月
日本大学芸術学部芸術研究所修了
平成03年04月
日本大学芸術学部副手
平成07年04月
日本大学芸術学部助手
平成10年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成17年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
思想・哲学(アラン論、森有正論、一遍上人論)
ライフワークとしてのアラン研究を続けながら、森有正の「経験と体験」や、一遍上人の「遍歴」というテーマで研究している。

研究業績
著書
「布切れの思考—アラン哲学に倣いて—」
「感性の哲学 アラン」
「コゴトへの思索—森有正論—」
共著
「一遍上人と遊行の旅」

社会活動
江古田文学会編集長



久保陽子

専任

生年月日
昭和48年07月07日生

略歴
平成08年03月
学習院大学文学部英米文学科 卒業
平成10年03月
学習院大学大学院人文科学研究科イギリス文学専攻博士前期課程 修了
平成13年03月
学習院大学大学院人文科学研究科イギリス文学専攻博士後期課程単位取得満期退学
平成13年04月
東京理科大学 非常勤講師
平成14年04月
中央大学 兼任講師
平成17年04月
学習院大学文学部英米文学科 助教
平成20年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
イギリスとアイルランドの文学・文化。主に18世紀以降の女性たちの執筆活動や教育活動、芸術的関わりを含む社会活動について研究。ジェイン・オースティンを始めとするイギリスの家庭小説や結婚を描いた作品、フランス革命に影響を受けたジャコニン派の女性作家の作品、カントリー・ハウスでの地主の生活を描いた作品など。フェミニズムやジェンダー思想、及びアイルランド表象の様々な形を芸術作品に読み込むことを試みている。

研究業績
「西洋文学にみる異類婚姻譚」(共著)、小鳥遊書房、2020年。
「ジェイン・オースティン研究の今—同時代のテクストも視野に入れて」(共著)、彩流社、2017年。
「イギリスを知るための50章」(51巻執筆)、明石書店、2016年。
「イギリスの今—文化的アイデンティティ」(第四版)](共訳)、世界思想社、2013年。
「二つのケルト—その個別性と普遍性」(共著)、世界思想社、2011年。

社会活動
イアシル・ジャパン(国際アイルランド文学協会日本支部) 会員
日本アイルランド協会 会員
日本オースティン協会 会員



ジュリアン・マニング 専任

生年月日
昭和39年05月16日生

略歴
1986年ロンドン・メトロポリタン大学卒業(近代史および政治哲学)
1992年ロンドン大学東洋アフリカ研究所(SOAS)修士課程修了(日本研究)
1998年シェフィールド大学東アジア研究所(SEAS)修士課程修了(日本研究)
2011年シェフィールド大学東アジア研究所(SEAS)博士課程修了(在日ブラジル人の文化的アイデンティティに関する)

研究領域
日本の主流的なエスニック・アイデンティティのイデオロギーはどのように日本社会・政治文化と、さらに、在日マイノリティ・グループに影響をあたえるか。特に戦後日本社会・文化の歴史的な発展を調査。それから、一般的に、文化・カルチャーと多文化主義の概念は何か? 最近、今までの多文化主義の一つの欠点は個人より、団体のアイデンティティが優先されている。個人と団体アイデンティティはどのように関係性を研究している。

研究業績
「21世紀とノーベルト・エライアス」(共)成文堂
「Nikkeijin in Japan: A Challenge to Nationalist Discourses of Identity」日本大学精神文化研究所紀要第37集
「スティグマシャカイがくについて」日本大学精神文化研究所紀要第39集
「ノーベルト・エライアスという社会学者における、グローバリ化、スポーツ、文化と歴史の始点からみる」(共)DTP出版社
「多文化主義と多文化社会」(共)DTP出版社

社会活動
エスニシティとナショナルイズム学会(ASEN)委員
日本移民学会 委員



ソコロワ山下聖美 専任

生年月日
昭和47年08月26日生

略歴
平成07年03月
日本女子大学文学部英文学科卒業
平成12年04月
日本大学芸術学部副手
平成13年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了。博士(芸術学)取得
平成14年04月
日本大学芸術学部助手
平成19年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成23年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
・宮沢賢治、夏目漱石を中心とした日本近代文学
・林芙美子、樋口一葉、平塚らいてう、尾崎翠、野上弥生子、群ようこなどを中心とした近現代女性作家研究
・文学における共感覚
特に最近では林芙美子の研究に専念している。

研究業績
『女脳文学特講 芙美子・翠・晶子・らいてう・野枝・弥生子・みすゞ』三省堂
『新書で入門 宮沢賢治のちから』新潮新書
『賢治文学「呪い」の構造』三修社
『一●●年の坊っちゃん』D文学研究会
『検証・宮沢賢治の詩(2)』鳥影社
『宮沢賢治を読む』D文学研究会

社会活動
日本近代文学会会員



楊 逸 (百木逸楊) 専任

生年月日
昭和39年06月18日生

略歴
平成07年03月
お茶の水女子大学文教育学部地理学科卒業
平成21年04月
関東学院大学文学部客員教授
平成24年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成27年04月
日本大学芸術学部特任教授
平成28年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
創作・比較文学
言語と生活習慣などによる「異」は、価値感や思想にどう影響を与え、またどう表現されるべきかについて研究し、異文化を一つのディテールとして創作活動をしている。授業では「外向けの目」を重視して指導している。

研究業績
「ウンちゃん」文藝春秋社 文学界新人賞受賞
「時が滲む朝」文藝春秋社 芥川賞受賞
「孔子さまへの進言」文藝春秋社
「楊逸が読む『聊斎志異』」明治書院
「すき・やき」新潮社
「流転の魔女」文藝春秋社
「蚕食鯨吞」岩波書店
「エーゲ海に強がりな月が」潮出版社
未来型ウェブ芸誌「トゥヌーヴ」主催

社会活動
日本ペンクラブ会員
日本文芸家協会会員
お茶の水地理学会会員



上坪裕介 専任

生年月日
昭和55年06月17日生

略歴
平成16年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成18年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了
平成22年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程修了(博士(芸術学))
平成22年04月
日本大学芸術学部助手
平成25年04月
日本大学芸術学部助教
平成27年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成31年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
博士論文のテーマである庄野潤三の研究を継続しつつ、第三の新人の作家(特に小沼丹、小島信夫、安岡章太郎、吉行淳之介、遠藤周作、島尾敏雄)を中心に研究。その他に、三浦哲郎など「私小説」に関する考察。

研究業績
「庄野潤三研究―場所論的考察」江古田文学74号
「庄野潤三の本 山の上の家」(共著)夏葉社
「庄野潤三の世界」(共著)徳島県立文学書道館
「三浦哲郎「忍ぶ川」試論」日本大学芸術学部紀要58号
「多種多様な作家たち―庄野潤三から第三の新人を紐解く」三田文学108号
「山の上の物語 庄野潤三の文学」松柏社

社会活動
日本近代文学会会員
帝塚山派文学会運営委員
江古田文学会常任理事

Literary Arts



谷村 順一

専任

生年月日
昭和48年06月01日生

略歴
平成10年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成10年04月
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程入学
平成12年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了
平成12年04月
日本大学芸術学部副手
平成17年11月
日本大学芸術学部臨時職員
平成19年09月
法政大学文学部日本文学科兼任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部助教
平成25年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成30年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
文芸同人雑誌掲載作品で扱われるテーマや発
行動向の分析を通して、現代日本文学の潮流
について考察している。

研究業績
『季刊文科』同人雑誌季評 2014冬～2022夏』
鳥影社
『同人雑誌季評』『季刊文科』（平成26年01月
から）鳥影社
『同人雑誌』『文藝年鑑2017』『文藝年鑑2018』
『文藝年鑑2019』日本文藝家協会編 新潮
社

社会活動
日本文学協会



阿久澤 騰

非常勤

生年月日
昭和48年07月21日生

略歴
平成10年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
平成13年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程修了
平成16年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程満
期退学
平成17年02月
英国バーミンガム大学大学院アメリカ研究科
修士課程修了（ロータリー財団 国際親善奨学
生）
平成16年04月
日本大学芸術学部文芸学科助手
平成21年06月
株式会社アイブリット広報・宣伝マネージャー
平成21年10月
特定非営利活動法人ヘルスケア・デザイン・
ネットワーク 企画広報室
平成22年11月
有限会社ビジョンブリッジ 広報マネージャー
平成23年12月
株式会社ファランクス 経営企画室
平成28年05月
株式会社I&S BBDO PRマネージャー
令和元年7月
フランクリン・コヴィー・ジャパン株式会社
マーケティング・チーム・マネージャー

研究領域
メディアにおける文化政治学、カルチュラル・
スタディーズ
マーケティング・広報などビジネスにおけるメ
ディア活用

研究業績
On the Representation of the
Japanese in the World's Columbian
Exposition (University of Birmingham)
『メディア・リテラシー』共著、静岡学術出版、
2008年
『芸術・メディアの視座』共著、タイケン、2005年

社会活動
外国人向け日本語学習教材の企画・制作
ニブリーエンタープライズ株式会社 アドバ
イザリーボード



浅沼 璞 (浅沼 博)

非常勤

生年月日
昭和32年04月15日生

略歴
昭和51年03月
法政大学文学部日本文学科卒業
昭和62年06月
大谷学園専任教諭
平成14年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成15年04月
法政大学文学部日本文学科兼任講師
平成17年04月
武蔵野大学文学部兼任講師
平成26年04月
放送大学東京文京学習センター兼任勤講師
平成30年04月
日本大学芸術学部教授
令和05年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
近世における俳諧連歌を中心に研究活動を行
っている。わけでも談林俳諧の雄・井原西鶴
の独吟連句と浮世草子との相関関係を長く
テーマとしてきた。また近現代俳句に関しても
「連句への潜在的意欲」という視点から考
察を続けている。
近年は中世連歌へ逆行し、これまでの研究の
パースペクティブの拡張を試みている。

研究業績
『可能性としての連句』ワイス出版
『中層連句宣言』北宋社
『「超」連句入門』東京文献センター
『西鶴という方法』鳥影社
『西鶴という鬼才』新潮社
『西鶴という俳人』玉川企画
『俳句・連句REMIX』東京四季出版(第12回
日本詩歌句随筆評論大賞受賞)
『塗中録』左右社

社会活動
俳文学会会員
日本近世文学会会員
日本連句協会会員
法政大学国文学会会員
江古田文学会理事



伊藤 博明

非常勤

生年月日
昭和30年04月14日生

略歴
昭和52年03月
北海道大学文学部哲学科 卒業
昭和54年03月
北海道大学大学院文学研究科修士課程哲学専
攻 修了
昭和59年～昭和61年
フィレンツェ大学留学(イタリア政府給費留学生)
昭和61年03月
北海道大学文芸院文学研究科博士後期課程
単位取得退学
昭和61年04月
北海道大学文学部哲学科助手
昭和63年04月
埼玉大学教養学部講師
以降、同大学教養学部助教授、教授、教養学部
長、副学長
平成30年04月
専修大学文学部教授
令和3年04月
専修大学大学院文学研究科長

研究領域
思想史・芸術論、とりわけ、ルネサンスからバ
ロックにおける、イメージとテキストの関係を
めぐる諸問題。

研究業績
『象徴と寓意』(「アートギャラリー10」集英社)
『ルネサンスの神秘思想』(講談社学術文庫)
『ヨーロッパ美術における寓意と表象』(あり
な書房)
『綺想の表象学』(ありな書房)、
『ルネサンス』(『哲学の歴史4』、編著、中央
論新社)

社会活動
日本学術会議連携会員



植月 恵一郎

非常勤

生年月日
昭和31年01月22日生

略歴
昭和54年03月
神戸大学理学部地球科学科卒業
昭和57年03月
千葉大学人文学部人文学科卒業
昭和60年03月
立教大学大学院博士前期課程修了
昭和63年03月
学習院大学大学院博士後期課程満期退学
平成元年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成07年04月
日本大学芸術学部助教授
平成13年04月
日本大学芸術学部教授
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域
イギリス文学の自然文化誌を研究対象にしている。特にイギリス・ルネサンスからロマン派までの200年くらいの間に書かれた韻文を中心に、そこに描かれた自然観の変遷、庭園・楽園表象、動物・植物表象、エコロジカルな観念などを中心に分析している。文学ジャンルと言えば、牧歌、農耕詩、風景詩なども含む。最近では児童文学も視野に入れて研究を進めている。キース・トマスの『人間と自然界—近代イギリスにおける自然観の変遷』を超えることが目標である。

研究業績
『博物誌の文化学—動物篇』共著、弓プレス、2003年。
『農耕詩の諸変奏』共著、英宝社、2008年。
『ロマン主義エコロジーの詩学』共著、鶴見書店、2015年。
『旅と文化—英米文学の視点から』共著、鶴見書店、2018年。
The Expanding World of the Gothic From England to America. joint work, Asahi Press, 2020.

社会活動
イギリス・ロマン派学会理事
欧米言語文化学会顧問



清水 正

非常勤

生年月日
昭和24年02月08日生

略歴
昭和46年03月
日本大学芸術学部文芸学科卒業
昭和55年04月
日本大学芸術学部助手
昭和57年03月
日本大学芸術学部専任講師
昭和63年04月
日本大学芸術学部助教授
平成06年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
平成31年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
ドストエフスキーの全作品、宮沢賢治の童話作品を研究、批評してきた。近年はつげ義春、浦沢直樹、望月峯太郎、業田良家、白土三平、日野日出志などの漫画作品に関する批評、また北野武、今村昌平、宮崎駿などの映画作品に関する批評、暗黒舞踏家土方巽についての批評、グリム童話や阿部定に関する批評も展開してきた。最近興味をもっている日本の作家に遠藤周作・志賀直哉・萩原朔太郎・椎名麟三、林芙美子などがいる。これらの作家をドストエフスキーとの比較において論じている。

研究業績
『清水正・ドストエフスキー論全集』D文学研究会
『つげ義春を読む』現代書館
『宮沢賢治とドストエフスキー』創樹社
『今村昌平を読む』鳥影社
『ウラ読みドストエフスキー』清流出版

社会活動
D文学研究会主宰
日本文芸家協会会員



野村 康治

非常勤

生年月日
昭和41年03月28日生

略歴
昭和63年03月
日本大学文理学部心理学科卒業
平成02年03月
日本大学大学院文学研究科博士前期課程修了
平成08年03月
日本大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学
平成09年04月～平成13年03月
日本大学文理学部助手
平成13年04月～平成29年03月
日本大学文理学部非常勤講師
平成22年09月
沖縄県立芸術大学非常勤講師
平成27年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成29年04月～令和03年03月
松蔭大学講師

研究領域
認知心理学ならびに感覚・知覚心理学的なアプローチにより主に映像表現に関する研究を専門とする。アマチュアの写真撮影に関する実態と意識調査、アニメーションに関する印象評定調査などを行ってきた。現在は映像に限らず、広く芸術表現に関する心理学的諸問題に関心を持っている。

研究業績
著書
『アニメーションの心理学』(共著)誠信書房
(『アニメーションの心理学的研究』執筆担当)
『アニメーションの事典』(共著)朝倉書店
(『アニメーションの発達心理学(2) 子供向けアニメーション』、『友情と恋愛のアニメーション』、『アニメーションにおける「動き」表現の検討』執筆担当)
論文
『ビデオ撮影時における時間評価』心理学研究 第68巻第3号
『写真撮影時の記憶について—静物を被写体として—』(共著)日本大学心理学研究 第23号
『アニメーションにおける「歩き」表現の検討』(共著)アニメーション研究 第6巻第1号

社会活動
日本アニメーション学会理事



堀 邦維

非常勤

生年月日
昭和29年07月13日生

略歴
昭和55年03月
早稲田大学第一文学部英文学科卒業
昭和57年03月
早稲田大学文学研究科英文学専攻修士課程修了
昭和61年03月
早稲田大学文学研究科英文学専攻博士課程満期退学
昭和63年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授
令和02年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域
現代ユダヤ文化・比較文学
現代の欧米文化全般を広く研究。ここ20年ほどはユダヤ系知識人を中心に近現代文化の変遷を追う。その傍ら、比較文学の視点から戦後日本文学を研究している。

研究業績
『ユダヤ人と大衆文化』(単著)ゆまに書房
『ニューヨーク知識人—ユダヤ的知性とアメリカ文化』(単著)彩流社
『マージナリア—隠れた文学／隠された文学』(共著)鶴見書店
『ノルベルト・エリアスと21世紀』(共著)成文堂
『現代の英米作家100人』(共編著)鷹書房弓プレス

社会活動
比較思想学会会員
日本ユダヤ学会会員
日本英語文化学会会員

Literary Arts



三宅理一

非常勤

生年月日
昭和23年12月23日生

略歴
昭和47年05月
東京大学工学部建築学科卒業
昭和49年03月
東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
昭和54年12月
パリ・エコール・デ・ポザール卒業
昭和56年03月
東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
(工学博士)
平成02年04月
芝浦工業大学工学部教授
平成11年09月
慶應義塾大学大学院政策メディア研究科教授
平成20年10月
パリ国立工芸院教授
平成24年04月
藤女子大学副学長
平成29年04月
東京理科大学客員教授

研究領域
建築史・地域計画・デザイン理論
建築デザインの美学を中心とした芸術理論が専門である。主に西洋の環境デザインが中心であるが、西洋から日本、そして中東と世界的な規模で、社会・環境・都市の中における芸術表現を研究している。

研究業績
「世紀末建築」(全6巻) 講談社
「エビキュリアンたちの首都」学藝書林
「都市と建築コンペティション」(全7巻) 講談社
「秋葉原は今」芸術新聞社
「パリのグランド・デザイン」中央公論新社
「限界デザイン」TOTO出版
「安藤忠雄 - 建築を生きる」みすず書房

社会活動
日仏工業技術会理事
瀋陽市栄誉市民
日本エテオピア協会理事
日本建築学会建築博物館幹事
日本建築文化保存協会理事
都市化研究室理事



山内 淳

非常勤

生年月日
昭和26年10月29日生

略歴
昭和51年03月
早稲田大学第一文学部仏文科卒業
昭和60年12月
ディジョン大学(現ブルゴーニュ大学)文学部
大学院博士課程修了(文学博士号取得)
昭和63年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授
令和04年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
長い間フランスは、自らのアイデンティティをローマに求めてきたが、一方ではケルトの民としての伝統は途切れることなく受け継がれてきた。たとえばトリスタンとイゾー、アーサー王、蛇姫メリュジーンなどをはじめとするケルト系の伝説は、シャトーブリアン、ノディエ、ネルヴァルなどのロマン派をはじめ、20世紀のブルースト、フルトン、グラックなどを深く魅了した。現代に続くケルトの精神を、フランス人作家の作品の中に見ていきたい。

研究業績
Le Peuple chez Charles Nodier (Université de Dijon (Bourgogne))
啓蒙のユートピア(共訳) 法政大学出版局
フランス民話 プルターニユ幻想集(共訳) 社会思想社
フランス怪奇民話集(共訳) 社会思想社
二つのケルト その個性性と普遍性(編著) 世界思想社
プルターニユ古謡集パルガス=プレイス(監訳) 彩流社
西洋文学にみる異類婚姻譚(監修) 小島遊書房

社会活動
比較文明学会



山本雅男

非常勤

生年月日
昭和25年07月25日生

略歴
昭和49年03月
中央大学文学部哲学科卒業
昭和51年03月
日本大学大学院文学研究科修士課程修了
昭和55年03月
日本大学大学院文学研究科博士課程満期退学
昭和55年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成06年04月
静岡県立大学国際関係学部助教授(大学院兼任)
平成09年10月
日本大学芸術学部助教授
平成14年04月
日本大学芸術学部教授
平成31年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
現代のイギリス社会や文化の核心部分は18世紀に形づくられたと考えられる。とりわけ社会生活や文化活動の末端にまで浸透している階級性の端緒を、当時のジェントルマン層の動向に焦点を当てつつイギリス文化の全体像を見通そうとしている。文化の現象と基層を貫く基本的構造の分析が当面の課題である。近代文化の批判的考察を通し、文化基礎論の構築を目指す新たな視点を模索中である。

研究業績
「ヨーロッパ「近代」の終焉」 講談社
「タービー脚のイギリス」 PHP 研究所
「競馬の文化誌」 松柏社
「近代文化の終焉」 彩流社
「イギリス文化と近代競馬」 彩流社
「倫敦路地裏犯科帖」(翻訳) 東洋書林
「英国競馬事典」(編訳) 競馬国際交流協会

社会活動
日本シェイクスピア協会会員
日本スポーツ社会学会会員
日本ウマ科学会会員
(社)日英協会会員
日本文藝家協会会員
日本中央競馬会委員会委員
(公財)競馬国際交流協会評議員

Image Arts



秋元貴美子

専任

生年月日
昭和45年04月06日生

略歴
平成06年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
平成08年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士前期課程映像芸術専攻 修了
平成11年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程芸術専攻 単位修得退学
平成28年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
写真表現研究・写真表現文化研究・写真教育

研究業績
(作品)
「化生する光景」ポートレートギャラリー／2012年10月
「Malta はちみつ色の街」ピクトリコギャラリー表参道／2021年2月
「Malta 時を刻む」ピクトリコギャラリー両国／2021年10月
「Malta 名もなき風景」ソニーイメージングギャラリー／2021年12月
「都市と自然のエレメンツ」池田記念美術館／2022年1月
(論文)
「土門拳、そのリアリズムとメンタリティ」(日本大学芸術学部紀要論文篇2015年10月)
「高等学校における次世代写真部活動の模索と可能性」(日本大学芸術学部紀要第70号2019年11月)

社会活動
日本写真家協会会員



佐藤英裕

専任

生年月日
昭和37年12月04日生

略歴
1985年03月
早稲田大学法学部卒業
1996年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修了
1999年03月
日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻満期退学
2000年04月
日本大学芸術学部助手
2004年04月
日本大学芸術学部専任講師
2008年04月
日本大学芸術学部准教授
2014年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
現代写真表現研究、及び写真の表現構造研究

研究業績
・写真に於ける視覚経験の構造に関する一考察 日本写真芸術学会誌第6巻第1号
・写真における作者の存在とその機能に関する一考察 日本写真芸術学会誌第10巻第2号
・写真表現における記憶の機能に関する一考察 日本写真芸術学会誌第17巻第1号
・現代写真作品表現にみる「リアル」と「オリジナル」の変容に関する一考察 日本写真芸術学会誌第21巻第1号
・写真史及び写真論におけるモダニズムとポストモダニズムの相違に関する一考察 日本写真芸術学会誌第22巻第1号

社会活動
日本写真芸術学会理事
日本映像学会会員



田中里実

専任

生年月日
昭和35年05月25日生

略歴
平成17年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
平成19年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻博士前期課程修了
平成21年01月
日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士後期課程中退
平成21年04月
日本大学芸術学部助教
平成24年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成28年04月
日本大学芸術学部准教授
令和03年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
写真表現研究・写真表現・写真技術史
19世紀の写真技法の研究とその再現を試み、初期写真技法が写真表現へ与えた影響を考察研究している。また現代において19世紀写真技法を用いた写真表現に取り組んでいる。

研究業績
個展
・「a flower is not a flower」練馬区立美術館
・「鉄・彫・写」星と森の詩美術館
・「SKY III 日本大学芸術学部写真学科教員 作品展」ソニーイメージングギャラリー銀座
・「Salt and Egg」GALLERY STORKS 論文
・「舎密局必携」前篇三付録「撮形術ボトガラヒー」現代語訳ー
日本写真芸術学会誌ー第17巻・第1号ー
・「遠西奇器術」直写影鏡ダゲウロテービーー現代語訳ー
日本大学芸術学部 紀要第56号

社会活動
日本写真学会員
日本写真学会理事
日本写真芸術学会員



西垣仁美

専任

生年月日
昭和36年06月07日生

略歴
昭和59年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和61年03月
日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻修了
平成02年04月
日本大学芸術学部助手
平成07年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成14年04月
日本大学芸術学部助教授(現 准教授)
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
近代および現代写真の写真思潮、表現研究。20世紀以降の写真作品の表現と作者の思想研究。過去の作品研究と同時に現代写真を日本の作家を中心に研究している。研究が主であるが創作活動も作家の心を考えるために継続している。

研究業績
学術論文
・マン・レイの写真作品における現代性の考察(日本写真芸術学会誌第17巻第2号)
評論
・「2022年写真の動向」10写真芸術 日本写真学会誌第86巻第3号(2005年～2023年毎年執筆)

出版
・「50冊で学ぶ写真表現入門」(共著)日本カメラ社、2019年
・「超」写真表現力 カメラワークの新思考法」(共著)青弓社、2019年
・「写真の百科事典」(共著)朝倉書店、2014年作品発表
・日本大学芸術学部写真学科女子卒業生有志の会 あじさい会写真展に出品(1984年～2022年)
・日本大学芸術学部紀要〈創作篇〉に発表(1987年～2023年)
・ソニーイメージングギャラリー企画写真展「わたしのともだち～写真家と愛しい存在の物語～」に出品(2021年)

社会活動
日本写真芸術学会副会長、日本写真学会会員
日本映像学会会員、(公社)日本写真協会会員

Image Arts



服部一人

専任

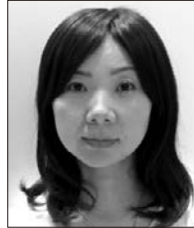
生年月日
昭和36年05月07日生

略歴
昭和59年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
昭和59年04月
(株)日本デザインセンター入社
制作局写真部フォトグラファー
平成05年04月
独立行政法人国際協力機構(JICA)により
ケニア国ナイロビ市ケニア国立博物館へ派遣
平成14年12月
タイ国チェンマイ山岳民族博物館、アユタヤ
歴史研究センターへ派遣
平成27年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成31年04月
日本大学芸術学部准教授
令和02年04月
金沢大学国際文化資源学センター客員准教授
令和04年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
スナップショットを題材にしたドキュメンタリー
リーフォトの実践と創作
銀塩写真(モノクロ・カラー)による写真表現
の研究。特に階調再現を重視したファイン
プリント制作技術の探求。
タイ北部、ラオス北部の少数民族を対象とし
た写真、動画による映像人類学研究。

研究業績
[民族誌映像]
・「ソクラン 新年を迎える儀式 タイ
チェンマイ」2012(金沢大学共同制作)
[写真展]
・「6×6 Portraits」2022/ギャラリストークス
・「初めての旅」2021/ギャラリストークス
・「Days in Africa」2020/ギャラリストークス
・「駅・雑踏・トラム」2019/ソニーイメージ
ングギャラリー

社会活動
日本写真芸術学会理事
(公社)日本写真協会会員



大谷尚子

専任

生年月日
昭和48年11月27日生

略歴
平成09年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成10年04月
日本大学芸術学部副手
平成15年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成22年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画演技。主に映像と演劇の演技の特徴、相違
について俳優の視点から実践に基づき研究し
ている。また、映画俳優論についての研究も
行っている。さらには俳優にとって必要不可
欠である発声、発音について、人体構造の仕組
みに基づき、無理のない発声や発音、滑舌法の
研究を行っている。

研究業績
「とことろ所沢探偵社」(ケーブルテレビメディ
アアッティ所沢(現J:COM) 太田ひばり役
「土井さんの不幸」(劇場用映画 女子女子
over8) 幸江役
「それぞれの立場 それぞれの気持ち ~職
場で考えるダイバーシティと人権~」(東映教
育ビデオ) 岡真理子役
「即身仏を訪ねてー涅槃の考古学」ナレーショ
ン
「我が町我がふるさとところざわまつり」ナ
レーション
日本弁護士連合会「あなたの安心のために」
ナレーション
トランス☆プロジェクト第6回公演「カミング
アウト」出演
劇団おしゃれ大学第8回公演「リア王」ゴネリ
ル役

社会活動
言語聴覚士(病院、福祉施設において言語、コ
ミュニケーション指導)
日本言語聴覚士協会会員
国際パフォーマンス学会会員
言語発達障害研究会会員



奥野邦利

専任

生年月日
昭和44年04月18日生

略歴
平成05年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究所映像芸術専攻修了
平成07年04月
日本大学芸術学部補助員
平成08年04月
日本大学芸術学部副手
平成10年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成15年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成23年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
メディアアートを中心とした映像表現
1960年代に登場したビデオアートが、現在の
メディアアートへと拡大して行くプロセスに
光を当て、エレクトロニクスとアートの関係、
マスメディアとパーソナルメディアの関係、コ
ンテキストと物語の関係などを探求してい
る。創作としてはシングルチャンネルのビデ
オ作品の他、インスタレーションも手掛けてお
り、近年はコンサートや演劇とのコラボレ
ーションにも積極的にアプローチしている。

研究業績
評論
「映像領域におけるデジタル化と前衛」映像学
102号(2019)
創作
オムコバス映画「見るということ」(共同監督)
山形国際ドキュメンタリー映画祭・企画上映
(2009)
映像作品「喪失の記憶」(監督)
ブルックリン国際映画祭正式上映(2010)
実験映画・ビデオフェスティバル イン ソウル
正式上映(2010)

社会活動
日本映像学会理事
日本アニメーション学会会員
日本映画テレビ技術協会会員



上倉 泉

専任

生年月日
昭和47年03月20日生

略歴
平成06年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成16年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画技術、おもに映画の録音の研究。各国のエ
ンジニアとディスカッションをしながら映画
のアナログサウンドトラック、シアンダイトラ
ックの研究を主に行い、さらに年間数十本の映
像作品を制作している。

研究業績
「アナログシアンダイトトラックの再生に関する
諸問題」(映画テレビ技術誌)
「ふるさとをください」富永憲治監督 ジェー
ムス三木脚本 文部科学省選定映画 ステレ
オ/モノミックスミキサー
「喪失の記憶」録音・ミキサー
「Pray for Japan Film」Stu Levy監督 ミ
キサー
「Little kyota Neon Hood」Satsuki Okawa
監督 ミキサー
「旅するボール」Jリーグ20周年記念特別
ショートフィルム 大川五月監督 ミキサー

社会活動
日本映画テレビ録音協会会員
日本映像学会会員
日本映画テレビ技術協会評議員
ISO(国際標準化機構) / TC36国内委員



古賀 太

専任

生年月日
昭和36年06月15日生

略歴
昭和61年03月
九州大学文学部仏文学科卒業
昭和62年03月
早稲田大学文学部大学院芸術学専攻修士課程
中退
昭和62年04月～平成05年09月
国際交流基金勤務
平成05年10月～平成21年03月
朝日新聞社勤務(文化事業部企画委員及び文化部記者)
平成09年04月～平成16年03月
東京大学非常勤講師(表象文化論)
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画史の新たな読解をテーマとする。現在は、初期映画の図像学的解釈や海外における日本映画の評価の歴史、戦時中の日本映画及び外国映画などを調査中。
また映画興行や映画祭など映画上映のマネージメント面からの研究をサブテーマとする。

研究業績
主な著書
『永遠の映画大図 イタリア名画120年史』集英社
『美術展の不都合な真実』新潮社
『映画伝来』(共著)岩波書店
『魔術師メリエス』(翻訳)フィルムアート社
『リュミエール元年』(共訳)筑摩書房
『日本映画史叢書(15) 日本映画の誕生』(共著)森話社
『日本映画の海外進出』(共著)森話社
『日本戦前映画論集』(共著)ゆまに書房
『戦時下の映画』(共著)森話社
その他、朝日新聞社において「ジャン・ルノワール、映画のすべて」「イタリア映画祭」など20以上の映画祭を企画・運営。

社会活動
フランス政府より国家功労勲章シュヴァリエ(騎士)章
イタリア政府より「イタリアの星」勲章カヴァリエーレ(騎士)章
日本映像学会理事



齊藤裕人

専任

生年月日
昭和40年12月25日生

略歴
平成02年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
平成07年04月
日本大学芸術学部助手
平成10年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程満期退学
平成10年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成15年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専門分野: 映画演出・映画制作
物語の構成や画面構成、カメラワークなどにおける映画演出の研究を主として、映画制作の創作的なあり方を研究テーマとしている。また、ドキュメンタリーや短編映画など長編劇映画以外の分野に関する研究を行っており、様々な映像制作法を考察することもテーマの一つである。

研究業績
『酒中日記』劇映画(編集)
『こころ豊かに』PRビデオ(構成・演出・編集)
『幸せの黄色い自転車』広報ビデオ(構成・演出・編集)
『星になったおじいちゃん』ビデオ作品(共同脚本・監督・編集)
『Gyraton』ミュージッククリップ(ライブアクションディレクター)
『シネマ・ヨーロッパ#1～6』テレビ番組(日本語版監修)

社会活動
日本映像学会会員
美学学会会員



清水和貴

専任

生年月日
昭和54年05月08日生

略歴
平成14年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成18年04月
日本大学芸術学部助手
平成19年04月
日本大学芸術学部助手
平成23年04月
日本大学芸術学部助教
平成26年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成30年04月
日本大学芸術学部准教授
令和04年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
創作を主とし映画制作における演出・編集を研究テーマとしている。

研究業績
作品
『米粒の神さま』短編映画(脚本・監督・編集)
SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2009
国内コンペティション短編部門ノミネート
『いい日々を届けてくれる人がいる』ショートムービー(脚本・監督・編集)
一般社団法人日本新聞協会 第22回新聞配達に関するエッセーコンテスト受賞作品の映像化
『いつでも どこでも』ショートムービー(脚本・監督・編集)
一般社団法人日本新聞協会 第23回新聞配達に関するエッセーコンテスト受賞作品の映像化
『飛べ! タコタ』劇場用映画(編集)
2013年劇場公開
『ソノ国境15歳の夏』劇場用映画(編集)
2015年劇場公開

社会活動
日本映画テレビ技術協会会員
日本映像学会会員



志村三代子

専任

生年月日
昭和44年03月01日生

略歴
平成13年03月
早稲田大学文学研究科演劇映像専修修士課程卒業
平成17年04月～平成19年03月
早稲田大学演劇博物館演劇研究センター客員研究助手
平成18年07月～平成18年12月
コロンビア大学東アジア言語学科客員研究員
平成21年03月
早稲田大学文学研究科演劇映像専修博士後期課程単位取得満期退学
平成22年06月
博士(文学)号取得(早稲田大学)
平成27年04月～令和03年03月
都留文科大学文学部比較文化学科准教授
令和03年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
日本文学と日本映画の相関関係、特に1920年代から現代までのメディア・ミックスに関する動向と、菊池寛、川端康成、松本清張など映画界に深く関わった作家と映画界との関係を中心に研究。他には映像メディアに表れた日米関係、とりわけ占領期以後の日本映画のなかのハワイ表象に注目している。

研究業績
単著
『映画人・菊池寛』藤原書店
共編著
『日活ロマンポルノ 性の美学と政治学』水声社
『渋谷実 巨匠にして異端』水声社
『大学的富士山ガイド』昭和堂
『川島雄三は二度生まれる』水声社
『リメイク映画の創造力』水声社
『淡島千景 女優というプリズム』青弓社
主要論文
『冷戦初期における米国防務省の映画製作 - 「二世部隊」の製作協力をめぐって』
[Intelligence] 15号、2015年、20世紀メディア研究会
平成23年11月
第7回河上肇賞受賞
社会活動
日本映像学会理事
日本近代文学学会会員
昭和文学学会会員

Image Arts



玉木則順

専任

生年月日
昭和37年07月20日生

略歴
昭和62年03月
京都教育大学教育学部特修理学科卒業
以後、中学校理科教員、プラネタリウム解説員、CG制作会社、ノンリニア編集機メーカー、海外映像機器の輸入代理店を経て、国内の撮影所、放送局、ポストプロダクションのデジタルシステムの構築に関わる
平成23年04月
日本大学芸術学部特任教授
平成23年09月
日本映画大学非常勤講師
平成26年04月
日本大学芸術学部任期制教授

研究領域
ポストプロダクションのデジタル技術全般
フィルムが作り上げた色彩表現の遺産をデジタル技術で引き継ぐとともに、その先の表現の可能性について、カラーマネージメント技術を基盤に人間の知覚特性（記憶色）に適合した手法を考察している

研究業績
東宝スタジオ 新ポストプロダクションセンター構築(映像&ネットワーク担当)
REDカメラ・RAW現像ソフトウェア
「simple@post」プロトタイプ制作
「Avidでの24p編集と音処理」録音166号
「Avidでの24p編集—最近の動向—」録音170号



鳥山正晴

専任

生年月日
昭和36年05月14日生

略歴
昭和60年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成03年04月
日本大学芸術学部助手
平成07年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成12年04月
日本大学芸術学部助教授
平成18年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画を主とする映像作品の演出と研究、及びそれに関わるシナリオの創作。古今東西の映画作家たちの映画演出法の共通点を、作家と観客という枠組みの中でアプローチしている。また、映画を専攻しはじめた頃から実験映画/アヴァンギャルドムービーを研究し、それまでの資料等をもとに、それらを系統的に分類し、演出手法・内包するメッセージ等の研究をしている。

研究業績
シナリオ「もりもりほっくん」
東映テレビ・フジテレビ放映
PRビデオ(19分)「モクネット21 ニつ井」
構成脚本・演出
ドキュメンタリー(20分)「震災の記憶、記憶の未来—語りの底力」構成・演出・編集
論文
「映像ストーリー配信サービスの現状と今後」
(日本大学芸術学部紀要第69号)
「マンブルコア映画はどこに向かうのか?〜ジョー・スワンバークの映画を中心に〜」(日本大学芸術学部紀要第71号)
・Global Chinese Univ. Student Film and Television Festival (香港) 審査員(2009年)
・2009 Taipei Country Film Festival, International Student Film Golden Lion Award (台湾) 審査員(2009年)

社会活動
日本映像学会理事
日本映画テレビ技術協会員



増田治宏

専任

生年月日
昭和55年1月28日生

略歴
平成14年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成18年04月
日本大学芸術学部助手
平成19年04月
日本大学芸術学部助教
平成21年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成24年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画製作における撮影、照明、映画技術を研究しているが、創作を主にしている。撮影機材、機器の発達により、新たな映像表現へのアプローチをしている。

研究業績
短編映画
「青い魚」「夢に向かって」の撮影。
「米粒の神様」の照明。
コマーシャル
東京弁護士会コマーシャル撮影
日本新聞協会
「いい日々を届けてくれる人がいる」撮影・グレースディング
「いつでもどこでも」撮影・グレースディング
「見てくれる人がいる」撮影・グレースディング
ドキュメンタリー
「A Hundred-year Journey of the Family」
カラーコレクション担当。
映画
「酒中日記」カラーグレースディング担当。
他PRビデオ、記録映像、撮影、カラーコレクション担当。

社会活動
日本映画撮影監督協会会員
映画テレビ技術協会理事
日本映像学会会員



松島哲也

専任

生年月日
昭和35年05月11日生

略歴
昭和57年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和57年04月
映画テレビ制作会社ティンダーボックス入社
平成05年03月
フリーとなり、映画、テレビドラマ、ドキュメンタリーの監督、脚本に従事
平成11年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成18年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映画演出及び脚本表現研究
劇場用映画の脚本・監督を行っている。
多様化する映像メディアの作術・演出術を研究しながら、進化を遂げるデジタルシネマの制作も行っている。
テレビドラマの変遷を研究し、新たな企画立案から制作・プロデュースに至る表現研究を行っている。

研究業績
作品
テレビドラマ「めくもり」
日本テレビ火曜サスペンス劇場
劇場用映画「新しい風」
松竹全国公開作品 ヒューストン国際映画祭
グランプリ
テレビドラマ「親子弁護士の探偵帖」
TBS月曜ドラマスペシャル
劇場用映画「ゴヤーちゃんぶるー」
東京都写真美術館公開作品
劇場用映画「ソ満国境15歳の夏」
全国公開作品

社会活動
日本映像学会員
日本映画監督協会常務理事



安部 裕

専任

生年月日
昭和42年05月09日生

略歴
平成03年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成03年04月
株式会社共同テレビジョン入社
取材技術部配属 カメラマン
平成08年07月
アトランタ五輪 フジテレビ取材団カメラマン
平成09年10月
フジテレビ報道局取材撮影部に出向
報道カメラマン
平成10年04月
共同テレビジョン映像取材部
テレビカメラマンとしてドキュメンタリー、情報、バラエティー番組に從事
平成26年04月
日本大学芸術学部准教授
令和03年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
テレビ番組をテーマにした映像技術・音響技術・照明技術の研究及び最新システムを利用した放送技術全般の研究

研究業績
『ザ・ノンフィクション』フジテレビ、撮影多数
『めざましテレビ』『とくダネ!』フジテレビ、撮影多数
『NONFIX～松下浩二の卓球』フジテレビ、企画・演出・撮影
「放送番組における、簡易スタジオシステムー考察」芸術学部紀要第61号
「フジテレビの報道番組・情報番組から見る簡易IP中継技術」芸術学部紀要第66号
大地の芸術祭「日芸フィスティバル」奴奈川放送局開設
「東日本大震災取材備忘録～災害取材に挑むカメラマンの辛苦」映画テレビ技術誌
「日本のテレビ放送はどこへ向かうのか」日本映像学会報

社会活動
日本映像学会理事
文化庁芸術祭執行委員会委員
日本映画テレビ技術協会会員



兼高聖雄

専任

生年月日
昭和35年02月02日生

略歴
昭和57年03月
慶應義塾大学文学部心理学専攻卒業
昭和59年03月
慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了
平成02年03月
慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了(社会学博士取得)
平成02年04月
尚美学園短期大学専任講師
平成05年04月
尚美学園短期大学助教授
平成12年04月
尚美学園大学総合政策学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
現実の放送表現とその効果について、受け手の心理プロセスを軸にして考えている。できるだけ表現そのものについて、コミュニケーションの枠組みからとらえている。また、メディアによる表現全般や文化・社会現象について、実証的な社会心理学の手法で研究している。

研究業績
「広告表現の制作プロセスの心理学的検討」放送と表現Vol.1
「受け手の特性から見た広告メッセージのリーチについて」放送と表現Vol.2
「広告コミュニケーションにおける受容者の自己過程について」広告科学Vol.27
「若年層の広告接触と消費態度」平成国際大学論集3
「活字表現の印象：書体・字体・サイズの効果」尚美学園短期大学研究紀要10

社会活動
放送批評懇談会会員
FMナックファイブ番組審議委員



茅原良平

専任

生年月日
昭和55年02月27日生

略歴
平成14年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成14年04月
日本大学芸術学部副手
平成18年04月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻入学
平成20年03月
同上修了
平成20年04月
日本大学芸術学部助教
平成24年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成29年04月
日本大学芸術学部准教授
令和05年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
ラジオ番組、ラジオドラマを中心に、音響演出、作品制作、作品研究を専門としている。また、ラジオの社会的機能の変遷、番組の功績を辿り、後世への教訓を見出す中で、ラジオの将来や可能性を考えるラジオ史の研究もしている。

研究業績
JFN38局「バス旅スト」演出
ニッポン放送×日藝100周年特別記念番組の企画制作
「ラジオがもたらしたラジオのイメージチェンジ」放送と表現Vol.26
「サラウンド研究(1)、(2)、(3)」芸術学部紀要第49号、51号、54号
「若者向けラジオ番組研究(1)、(2)、(3)」芸術学部紀要第64号、67号、71号
「ラジオと[Z世代]ラジオと「シニア世代」」GALAC2022年11月号
「ラジオにおける生放送の本質とは再認識される[生]の価値」GALAC2023年05月号

社会活動
放送批評懇談会会員(理事、報道活動部門委員長)
日本音響学会会員



金 龍郎

専任

生年月日
昭和35年07月09日生

略歴
昭和60年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成09年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成18年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
令和03年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
テレビ番組の企画構成および放送表現と人権の研究。各種番組作品の企画構成に着目し、表現手法・演出手法、制作のスタンス、番組枠としての特徴等を検証・考察している。また、「表の自由」「報道の自由」と人権との調整について、主に差別表現や報道被害の事例研究を通してガイドラインを探っている。

研究業績
「興行としての格闘技イベントとそのテレビ中継に関する一考察」芸術学部紀要第40号
「報道の品性に関する一考察～報道不信の要因として」芸術学部紀要第43号
「スタジオ・ドキュメンタリー番組の可能性に関する一考察」芸術学部紀要第49号
「ドキュメンタリー番組におけるナレーションの演出的側面」芸術学部紀要第64号
「テレビならではの旅の魅せ方と「旅番組」の実相」芸術学部紀要第70号
創作(ゲームソフト、番組企画構成等)
「バス旅スト」TOKYO FM
「アंक2～ツタンカーメン王の謎」レイ・コーポレーション
「新格闘技伝説」TBS、東宝ビデオ
「小椋佳 青春のかほり・ほのかに」NHK衛星第二
「木内みどりの元気診断」日本テレビ 等多数

社会活動
日本映像学会会員

Image Arts



小林 偉

専任

生年月日
昭和38年10月07日生

略歴
昭和62年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成05年11月～
有限会社オンリーユー所属
構成作家として様々なメディア、ジャンルの番組を担当
平成11年04月～平成14年03月
情報学園日本ジャーナリスト専門学校非常勤講師
平成23年04月～令和05年03月
日本大学芸術学部放送学科非常勤講師
平成26年04月～平成29年03月
日本ウェルネススポーツ大学非常勤講師
令和05年04月～
日本大学芸術学部放送学科教授

研究領域
主に放送番組全般の企画・構成分析／研究。
構成作家としての実務経験も活かし、バラエティ、ドキュメンタリー、ドラマ、スポーツなど様々なジャンルの番組を内容面、視聴率など数字面と多面的に考察。“テレビ離れ”が叫ばれている現状とその行く末について研究を行う。

研究実績
「GET SPORTS」(テレビ朝日)
「ドラマあるあるリサーチ」(NHK総合)
「トークング ウィズ 松尾堂」(NHK-FM)
など多数のテレビ・ラジオ番組企画・構成
映画「ただいま、つなかん」構成
「月刊ザ・テレビジョン」連載
「東洋経済オンライン」WEB連載
「JBpress」WEB連載
「ドラマQ」(著書/T2出版)
「踊る！お仕事ドラマ」(共著/同文書院)など

社会活動
日本脚本家連盟会員



鈴木康弘

専任

生年月日
昭和33年09月06日生

略歴
昭和57年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和63年04月
日本大学芸術学部助手
平成04年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助教授
平成15年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
映像演出、映像作品制作及び作品研究。
研究テーマとして扱っている作品分野は、ドキュメンタリーやテレビドラマである。ドキュメンタリーについては、テレビ・ドキュメンタリーの問題と可能性について探っている。また、映像人類学や映像文化の視点からのアプローチも試みている。テレビドラマについては、テレビの発展史を概観しながら社会との相関関係を考察している。

研究業績
「テレビ・ドキュメンタリー論再考～知のドキュメンタリーの構築に向けて～」
日本大学芸術学部紀要第37号
「編集技法指南～映像編集の基本的な考え方を学ぶ」12回シリーズ 写真工業出版社
「日本のテレビ放送におけるドキュメンタリー番組の位置」日本大学芸術学部紀要第60号
ドキュメンタリー作品
「秘境の村のくらし～パキスタン・シムシャール村～」NHK教育テレビ
「道と電気が変えた村の風景～秘境の村は近代化をどう受け入れるか～パキスタン・シムシャール村」、『カンテムス少年少女合唱団』、
「入善四季物語」、『カンテムスファミリー～その成功と秘密に迫る～』ほか

社会活動
ハンガリー音楽教育の取材活動およびそれに関するドキュメンタリー作品等ビデオ作品の制作(日本ハンガリー合唱交流委員会)
日本映像学会会員



中町綾子

専任

生年月日
昭和46年08月生

略歴
平成06年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
平成08年03月
日本大学大学院芸術学研究科映像芸術専攻修士前期課程修了
平成08年04月
日本大学芸術学部助手
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成16年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
テレビ番組の分析、脚本研究。
主として、テレビドラマの脚本領域、および映像(演技、演出、ストーリーを含む)を分析・読解する。テレビドラマは制作される時代の影響を強く受けるメディアである。時代的な背景、あるいは表現技法(技術)を前提として、そこに表現されるメッセージを読み解く。

研究業績
「演劇年鑑」(日本演劇協会/共著、小学館)
「なぜ取り調べにはカツ丼が出るのか？」(メディアファクトリー新書)
「ニッポンのテレビドラマ21の名セリフ」(弘文堂)
「テレビドラマに見る食の諸相」『放送と表現』
「日本のテレビドラマにおけるメロドラマ概観」日本大学芸術学部紀要
「あのドラマこのセリフ」日本経済新聞(連載)

社会活動
国際ドラマフェスティバルin Tokyo 東京ドラマアワード審査委員長
日本マス・コミュニケーション学会
放送批評懇談会
BS朝日番組審議委員



星野 裕

専任

生年月日
昭和36年04月24日生

略歴
昭和60年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和60年04月
第一企画株式会社入社 CMプランナー、コピーライター、プロデューサー
平成元年08月
株式会社電通入社 CMプランナー
その後クリエイティブディレクター、シニアクリエイティブディレクター
平成17年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成25年04月
株式会社電通クリエイティブX 執行役員
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
広告ビジネスにおけるコミュニケーション全般。現場経験を活かした視点からの考察を得意とする。
放送広告の表現と社会的役割の変遷に関する研究、広告表現のクリエイティブなアイデア発想の源泉についての研究などを行う。

研究業績
カタログハウス「通販生活」
再春館製菓所「ドモホルンリンクル」
イトーヨーカドー「いってみヨーカドー！」
ニベア花王「ニベアクリーム」など
わかりやすく広告効果の高いテレビCM等広告作品を多数企画、制作。
ACC賞、電通賞、読売広告大賞、カンヌ国際広告祭銀賞、IBA等国内外広告賞多数受賞。
日本大学芸術学部創設100周年記念産官学連携プロジェクト推進。

社会活動
日本広告学会
日本映像学会
一般財団法人こまつ里山SDGs倶楽部顧問



森中 慎也

専任

生年月日
昭和35年08月05日生

略歴
昭和60年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和60年04月
札幌テレビ放送株式会社入社
アナウンサーとして主に情報番組、ニュースに
従事。
平成25年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
現代マスメディアにおけるテレビ報道分析お
よび情報番組の音声表現法の考察による現代
キャスター論。テレビ史。

研究業績
日本テレビ系列共同制作『ズームイン!!
朝!』『ズームイン! SUPER』『ズームイン!
サタデー』、『第1回北方領土ビザなし渡航』
取材・報道、『第4回世界陸上競技選手権シ
ュットアウト大会』取材・報道
「東日本大震災」NNN取材班にて報道
『生放送～最高権力者との6分間～』放送と
表現 Vol.18
産学共同制作番組TOKYO FM「バス旅スト」
メンバーナリディー

社会活動
日本映像学会会員



加藤 亮介

専任

生年月日
昭和55年12月19日生

略歴
平成15年03月
日本大学商学部会計学科卒業
平成17年03月
日本大学大学院商学研究科博士前期課程会計
学専攻入修了 修士(商学)
平成21年03月
日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程芸術
学専攻修了 博士(芸術学)

CGデザイナー(フリーランス)を経て
平成19年02月-平成20年03月
MTV Japan 株式会社
平成21年01月-平成24年03月
株式会社テレビ朝日メディアブックス入社
/株式会社テレビ朝日常駐
業務領域: デジタルコンテンツディレクター・
プロデューサー/ウェブマスター等
平成24年04月
日本大学芸術学部等 非常勤講師
平成27年04月
十文字学園女子大学人間生活学部 専任講師
令和02年04月
十文字学園女子大学社会情報デザイン学部 准教授
令和03年04月
日本大学芸術学部 准教授

研究領域
1. 教育工学、2. メディア・リテラシー学
1. 教育におけるICT活用の可能性について研
究。近年は、ICT活用による、「対話的学び」
と「芸術的創造性」の関係について研究。
2. メディア産業、メディア・コミュニケーション
の変遷を踏まえた、若年層のメディア・リテラ
シー養成における実践的研究。

研究業績
・「対話的な学びを支援するVR型教材の開発
と評価」, 教育情報研究, 第35巻第3号, 2020
(筆頭筆者)(日本教育情報学会 論文賞受賞)
・「社会的コンピテンシー育成を目指した映
像制作・発信型プロジェクト学習モデルの
検証」, 十文字学園女子大学紀要, 第48集1
号, 2018 (筆頭筆者) 等

社会活動
日本教育情報学会, 広報委員, 2022年04月



相内 啓司

非常勤

生年月日
昭和24年06月12日生

略歴
昭和48年03月
東京藝術大学美術学部絵画科(油画) 卒業
平成16年03月
放送大学大学院文化科学研究科修了
平成19年03月
東京大学大学院総合文化研究科 超域文化科
学専攻後期博士課程 単位取得満期退学
昭和63年03月
女子美術大学造形科 非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部 非常勤講師
平成12年04月
多摩美術大学造形表現学部 非常勤講師
平成17年04月
早稲田大学川口芸術学校 客員教授
平成18年04月
京都精華大学芸術学部メディア造形学科教授
平成25年04月
京都精華大学大学院芸術研究科・研究科長
令和02年04月 京都精華大学 名誉教授

研究領域
芸術としての映像表現の研究、映像芸術制作

研究業績
受賞
東京国際ビデオビエンナーレ 審査員特別賞
CVKNHK ビジネスビデオコンテスト 優秀賞
キャンノン・イメージランドフォーラム 金賞
神奈川県芸術祭・映像コンクール 最優秀賞
論文
「ビル・ヴィオラ『ミレニアムの五天使』、一
遍在する「問い」とレイヤー構造について(その
隣、天使、ことば、映像(イメージ))」(-273℃映
像芸術研究所)
「い(ま)えIN BETWEEN- 存在とイメージ
の境域」(ミストラルジャパン)
「メディアアートの世界」(国書刊行会)
「21世紀における芸術の役割」(未来社)

社会活動
2005年「25FPS ザクレブ国際実験映画祭」
日本プログラム企画・キュレーター
2013年「瀬戸内国際芸術祭」能舞台「水軍女
王」舞台美術・プロデューサー
日本映像学会会員、表象文化論学会会員、日本
アニメーション協会会員



青木 研次

非常勤

生年月日
昭和33年01月31日生

略歴
昭和55年03月 日本大学芸術学部映画学科
卒業。昭和60年より放送作家として数多くの
テレビ番組を手がける。
平成10年より映画脚本を手がける。
平成19年より日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
映画映像に於ける脚本という言語による表現
についての分析、研究。コンストラクション
とテーマの関係性についてのプロット論。スト
リーとドラマツルギーの関係性についての研究
分析。

研究実績
映画
「独立少年合唱団」ベルリン国際映画祭アル
フレート・パウアー賞受賞作
「いつか読書する日」モントリオール映画祭
審査員特別賞受賞作 菊島隆三賞 ヨコハマ
映画祭脚本賞 芸術選奨文部科学大臣新人賞
「家路」新藤兼人賞受賞作
「友だちと歩こう」
テレビ
「私立探偵濱マイク」(読売テレビ)
「青い眼の少年兵」(NHK)
「この街の命に」(WOWOW) 日本民間放送連
盟賞最優秀ドラマ など
著作
小説「独立少年合唱団」(角川書店)
シナリオ本「いつか読書する日」(愛育社)

社会活動
協同組合日本シナリオ作家協会会員
日本脚本家連盟会員

Image Arts



浅井 譲

非常勤

生年月日
昭和31年11月02日生

略歴
1980年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
1980年04月
(株)ポラ化粧品入社 宣伝部制作室フォト
グラファー
2002年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
2004年01月
ポラ化成工業(株)デザイン研究所 転籍
2004年03月
ポラ化成工業(株)デザイン研究所 退社
2004年04月
日本大学芸術学部助教
2007年04月
日本大学芸術学部准教授(呼称変更)
2009年04月
日本大学芸術学部教授
2022年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域
写真表現研究・広告写真研究

研究業績
・浅井譲写真展「対話」愉しむ写真へ
銀座コダックフォトサロン2004-5/26～6/1
・浅井譲写真展「対話」愉しむ写真へⅡ
銀座コダックフォトサロン2007-6/6～12
・浅井譲写真展
「take a picture」愉しむ写真へ
富士フィルムフォトサロン(東京)
2011・4/22-28
・Jing展(グループ展)
桜・夏・いろ色・特別展・エトセトラ展
Space Jing (渋谷・神宮前)2015-3～2020-3
2021-8～
・「SKYⅢ 日本大学芸術学部写真学科教員
作品展」ソニーイメージングギャラリー銀座
2020-12/4～10
・日本大学芸術学部紀要(創作篇)29～33号・
35号～39号・41号～43号・45号

社会活動
公益社団法人日本広告写真家協会 正会員
日本写真芸術学会



晏 妮

非常勤

生年月日
昭和28年06月25日生

略歴
中国清華大学外国語学部を卒業後、中国国際
旅行社と中国電影家協会での勤務を経て来
日。早稲田大学大学院文学研究科博士前期課
程修了(文学修士)、一橋大学大学院社会学研
究科博士後期課程修了(社会学博士)後、慶応
義塾大学、明治学院大学などで非常勤講師を
やりながら、一橋大学大学院社会学研究科特
任講師、客員教授を務めた。2015年に日本
映画大学特任教授となり、現在に至っている。

研究領域
映画史、映像学、表象文化を主な研究領域とし
ている。近年、特に比較映画史を学科にまた
がって多角的な視野によってアプローチする
研究に力を注いでいる。これまでタブー視さ
れてきた戦時の日中映画交渉の諸様相を思想
史、東アジアの戦時文化、歴史人物の交渉およ
びジェンダーなどの隣接分野の文脈において
交錯的に検証している『戦時日中映画交渉史』
は、このような学際的研究の代表作と言える。
また、新しい映像作品を批評する執筆活動も
行っている。

研究業績
著書
単著『戦時日中映画交渉史』(岩波書店)
共編著『ポスト満洲 映画論 日中映画往還』
(人文書院)
共編著『戦時下の映画 日本・東アジア・ドイ
ツ』(森話社)
共著『男たちの絆、アジア映画 ホモソーシャ
ルな欲望』(平凡社)
共著『映画は文学をあきらめない』(水曜社)

社会活動
『戦時日中映画交渉史』は2010年度芸術選奨
文部科学大臣賞(評論等部門)受賞
2005年-2021年『キネマ旬報』文化映画年度
ベストテン選考委員
日本映像学会、日本現代中国学会会員



落合賢一

非常勤

生年月日
昭和24年08月04日生

略歴
昭和47年03月
日本大学芸術学部放送学科卒業
昭和54年04月
日本大学芸術学部助手
昭和56年04月
日本大学芸術学部専任講師
昭和63年04月
日本大学芸術学部助教授
平成07年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和02年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
テレビ映像技術全般が専攻分野であるが、そ
の中で特にテレビ映像の記録及び保存技術を
主な研究対象としている。VTRやHD、メモ
リーに代表されるテレビ映像の保存技術は長
期保存に疑問がある。テレビ映像は文化遺産
として極めて価値が高い。従って、その保存性
は長期間、安定なものでなければならないと
考えている。
さらに、4K、8Kなどの高画質化が、テレビ
番組制作や、視聴者にどのような変革や影響
をもたらしているかについても研究中である。

研究業績
著書
「新版ニューメディア用語辞典」(共著)
「図解テレビ制作ハンドブック」(共訳)
「科学技術用語辞典」(共著)
論文
「音声情報記録とその保存性についての一考
察」日本大学芸術学部紀要

社会活動
映像メディア情報学会会員



片渕須直

非常勤

生年月日
昭和35年08月10日生

略歴
昭和58年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
在学中の昭和56年から演出・脚本で多くのア
ニメーション作品に携わる。
平成18年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成25年04月
東京藝術大学大学院映像研究科 非常勤講師
平成30年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域
アニメーション作品の制作に当たり、歴史的
な史料研究をまず行い、それを土台に敷く方
法論について。
「アニメーションはなぜ動いて見えるのか」と
いうことを知覚心理学と連結した観点で考
え、日本のみならず海外のアニメーションの
「動きの見え方」について網羅的に考察する。

研究業績
テレビアニメーション
『名探偵ホームズ』脚本
『名犬ラッシー』監督
『BLACK LAGOON』監督・脚本
アニメーション映画
『アリーテ姫』監督・脚本
『マイマイ新子と千年の魔法』監督・脚本
『この世界の片隅に』監督・脚本
『この世界の(さらにつももの)片隅に』監
督・脚本

社会活動
日本映像学会
日本アニメーション学会
日本アニメーション協会



川崎賢子

非常勤

生年月日
昭和31年08月02日生

略歴
昭和54年03月31日
東京女子大学文理学部卒業
昭和56年03月31日
東京女子大学大学院文学研究科修了 文学修士
平成16年4月01日
早稲田大学政治経済学術院非常勤講師（現在に至る）
平成24年04月01日
日本映画大学教授（平成29年3月31日まで）
平成28年03月31日
立教大学において博士号取得。博士（文学）
平成29年04月01日
立教大学特任教授（令和04年03月31日まで）
令和03年07月01日
清華大学日本研究センター客員研究員（現在に至る）

研究領域
日本近現代文学文化、演劇、映画。貫戦期（日中戦争、太平洋戦争、GHQ占領期、冷戦期）における、モダニズム文化の植民地（旧満洲国、上海租界など含む）への越境と表現者の移動を主たるテーマとする。キーワードは検閲、プロパガンダ、インテリジェンス、ジェンダー／セクシュアリティなど。映画研究のキーワードは山内光／岡田桑三、李香蘭／山口淑子／シャーリー・ヤマグチ。

研究業績
『彼等の昭和：長谷川海太郎・溝二郎・瀧・四郎』平成6年、白水社、サントリー学芸賞受賞。
『岡田桑三 映像の世紀：グラフィズム・プロパガンダ・科学映画』平成14年、平凡社、原田健一と共著。
『尾崎翠 砂丘の彼方へ』平成22年、岩波書店、学位論文。
『もう一人の彼女 李香蘭／山口淑子／シャーリー・ヤマグチ』平成31年、岩波書店。
『宝塚：変容を続ける「日本モダニズム」』令和4年、岩波現代文庫。

社会活動
財団法人日中イノベーションセンター 主席研究員（令和3年7月1日 現在に至る）
早稲田大学エクステンションセンター講師
20世紀メディア研究所（早稲田大学現代政治経済研究所内）編集委員



河野純一

非常勤

生年月日
昭和26年08月16日生

略歴
昭和49年03月
横浜国立大学工学部応用化学科卒業
昭和51年03月
東京大学大学院工学系研究科修士課程合成化学専攻修了
昭和51年04月
小西六写真工業(株)入社（社名変更）
昭和55年08月～昭和56年08月
米国ニュージャージー州立大学化学科研究員
平成23年08月
コニカミノルタ(株)退社
平成26年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
ハロゲン化銀写真感光材料及び現像処理剤と画像保存性

研究業績
・写真銀画像の劣化のメカニズムと化学修復について2005年11月写真学会画像保存セミナー
・写真資料の保存2003年11月（社）日本図書館協会編
・改訂 写真工学の基礎－銀塩写真編－1998年10月（社）日本写真学会編 コロナ社刊
・新時代の写真の化学1997年03月日本化学会科学教育講習会、化学と教育45（3）
・写真の保存・展示・修復1996年05月 日本写真学会画像保存研究会編 武蔵野クリエイティブ刊
・カラー写真感光材料の保存性について1990年11月写真学会画像保存セミナー
・Image Stability of Color Paper 1990年06月 IS&T第3回画像保存シンポジウム

社会活動
日本写真学会会員



眞道正樹

非常勤

生年月日
昭和43年03月21日生

略歴
平成01年03月
日本映画学校卒業
平成01年04月
東映東京撮影所で音響効果の仕事始める
平成13年06月
東映東京撮影所仕上センター課長代理
平成22年04月
東映デジタルセンター室長代理
平成23年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
映画制作における音響分野の役割

研究業績
・音響効果担当作品
『静かなるドン』
『今日から俺は！』
『ゼイラム2』
『ハカイダー』
『あぶない刑事 リターンズ』
『鉄と鉛』
『新・湘南爆走族 荒くれKNIGHT』
『ねじ式』
『共犯者』
『あぶない刑事 フォーエバー』
『無頼 人斬り五郎』
『修羅伝説 極道の地獄』
・東映東京撮影所仕上センター課長としてポストプロダクションのデジタル化デジタルセンターの立ち上げ
ツークン研究所の立ち上げ
・執筆
『予告編とシネアートのデジタル上映について』（『録音』185号）
『2015 NAB Show レポート』（月間『放送技術』）
『G Suiteを使った映像制作』（『録音』216号）

社会活動
日本映画・テレビ録音協会会員



瀬島久美子

非常勤

生年月日
昭和25年06月26日生

略歴
1973年03月
東京音楽大学芸術学士取得卒業
2006年～2007年
名古屋学芸大学講師
2008年～2014年
名古屋学芸大学特任教授

研究領域
現代美術としての音・映像・情報の研究。

研究業績
1970年代：音・映像によるArt & Designの企画制作多数。
1980年代：Sound Designのためのオブジェ企画制作展示
1988-1992年映像空間から建築、都市へと活動領域を拡げ、都市開発、商業地形成事業に参画
1990年代：音・映像・情報のInstallation研究。「Installation Age」展、インスタレーションシリーズ「EIZO EXPLORER」展、「Video Art The First 25years」など。
2000年代：日韓共催FIFAワールドカップ記念文化催事映像制作
「愛・地球博」瀬戸日本館ギャラリーのキュレーション

社会活動
1989：通産省デザインイヤー企画調整委員
1993：東京都「東京フロンティアへの市民参加の有効実施に関する調査」研究委員
1996～2000：農林水産省日本農村システム協会地域活性化情報映像検討委員会専門委員
1999：地域創造アドバイザー会議アドバイザー
1986～ 日本映像学会会員
2018～2019：日本映像学会監事

Image Arts



高橋則英

非常勤

生年月日
昭和28年12月09日生

略歴
昭和53年03月
日本大学芸術学部写真学科卒業
平成02年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助教授
平成14年04月
日本大学芸術学部教授
平成23年04月
東京大学史料編纂所画像史料解析センター
客員教授
平成26年04月
東京大学史料編纂所画像史料解析センター
共同研究員
平成31年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授・日本大学上席研究員

研究領域
写真史および画像保存。19世紀の発明から今日へと至る歴史的経過の分析を通じて写真の本質と価値を研究する。写真史は幕末の導入期から明治における発展期に至る日本初期写真史に重点を置く。初期写真技法の復元再生の研究も実施。同時に記録や芸術作品として歴史的に貴重な写真画像を次世代に確実に継承するため、その保存方法や保存環境、修復などの研究を継続して行う。

研究業績
『文化財としてのガラス乾板—写真が紡ぎなおす歴史像』(共編著) 勉誠出版、2017年
『写真技法と保存の知識 デジタル以前の写真—その誕生からカラーフィルムまで』(翻訳監修) 青幻舎、2017年
『レンズが撮らえた 日本人カメラマンの見た幕末明治』(編著) 山川出版社、2015年
『E・ブラウン・ジュニアのタゲレオタイプ』(研究論文)『日本写真芸術学会誌』、1998年
『写真の保存・展示・修復』(日本写真学会画像保存研究会編著) 武蔵野クリエイイト、1996年

社会活動
日本写真芸術学会会長
文化庁文化審議会専門調査委員



谷 昭佳

非常勤

生年月日
昭和44年04月05日生

略歴
平成06年03月
九州産業大学芸術学部写真学科卒業
平成08年03月
九州産業大学大学院芸術研究科写真専攻修了
平成10年04月
植田正治写真美術館学芸員
平成12年06月
東京大学史料編纂所史料保存技術室(写真担当)、令和05年より技術専門員、現在に至る
平成19年09月
オランダ・ライデン大学客員研究員(文化庁・新進芸術家海外留学制度(長期研修)による)
平成28年09月
日本大学芸術学部写真学科非常勤講師

研究領域
写真資料学、写真史、文化財写真、画像保存、写真表現
歴史、技術、保存修復など多角的な視点から捉えた写真資料学の構築を研究テーマとしている。写されている内容を読み取るだけでは成立しない写真表現の領域、つまり「写真とは何か」について、写真の研究資源化に関する方法論とその実践から探究している。

研究業績
著作
Japan In Early Photographs : The Aimé Humbert Collection (共編著) Arnoldsche、2018
『高精細画像で甦る150年前の幕末・明治初期日本 プルガー&モーザーのガラス原板写真コレクション』(責任編集) 洋泉社、2018
個展
『Photo Map』Ancien Cinema (ルクセンブルク)、2009
『忘却曲線』銀座・大阪二コンサロン、2003
受賞
公益社団法人日本写真協会「2020年日本写真協会賞芸賞」受賞

社会活動
日本写真芸術学会会員
一般社団法人日本写真学会会員
公益社団法人日本写真家協会「日本写真保存センター」諮問調査委員会委員



近森眞史

非常勤

生年月日
昭和33年01月10日生

略歴
昭和57年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和57年04月
フリーランスの撮影助手
平成07年06月
フリーランスの撮影監督
平成11年04月
日本大学芸術学部映画学科非常勤講師

研究領域
商業映画の撮影を手掛けながら、映画における芸術性を探ってみる。近年のデジタル化による表現手法の多様性と原点であるモノクロフィルムにおける表現の比較を通して映画の撮影現場における技術力とポストプロダクション作業の可能性を高める研究に取り組みながら、東欧の映画教育機関から輩出されたような人材群に負けない人材の育成にも取り組んでいこうと、可能性を探っている。

研究業績
「おとうと」日本批評家大賞、日本アカデミー賞受賞
「東京家族」
「小さいうち」
「母と誓せば」
「家族はつらいよ」
「家族はつらいよ2」
「男はつらいよ お祭り寅さん」
以上日本アカデミー賞受賞

社会活動
日本映画撮影監督協会会員



手塚昌明

非常勤

生年月日
昭和30年01月24日生

略歴
昭和52年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和52年05月
フリーの助監督として映画・TV等の現場に従事。
平成06年
(株)東宝映画に入社
平成14年08月
(株)東宝映画を退社
平成14年09月
(株)東宝映画と監督契約
平成18年08月
(株)東宝映画との監督契約終了
平成23年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
映画・テレビ・イベント等の演出。映像内におけるSFX・特撮技術の検証と継承及び実践。

研究業績
監督作品『ゴジラ×メガギラスG消滅作戦』
『ゴジラ×メカゴジラ』
『ゴジラ×モスラ×メカゴジラ東京SOS』
『戦国自衛隊1549』
『空へ・救いの翼』『絆・再びの空へ』

社会活動
日本映画製作者連盟主催「城戸賞」審査員
日本映画監督協会会員



寺脇 研

非常勤

生年月日
昭和27年07月13日生

略歴
昭和50年03月
東京大学法学部卒業
昭和50年04月
文部省入省
平成11年04月
文部省大臣官房政策課長
平成13年01月
文部科学省大臣官房審議官生涯学習政策担当
平成14年08月
文化庁文化部長
平成16年04月
日本大学芸術学部研究所教授(非常勤)
平成26年
日本大学芸術学部客員教授

研究領域
映画をはじめとする文化行政を担当した立場から、日本の文化政策の全体像及びその中で映画を取り巻く行政的環境と今後の方向性。韓国との文化交流に携わる立場から韓国映画の状況、産業構造及び日本映画との関係。映画評論家として8千本を超す日本映画を観てきた立場から、観客の側から見た映画の在り方について。ジャパンフィルムコミッション前理事長の立場から、日本及びアジアのフィルムコミッションの状況。近年プロデューサーとして映画製作に当たる立場から、現在の日本映画の制作、配給、興行の状況。

研究業績
「映画を追いかけて」 弘文出版
「映画を見つめて」 弘文出版
「映画に恋して」 弘文出版
「韓国映画ベスト100」 朝日新書
「新編 ロマンポルノの時代」 光文社知恵の森文庫
「昭和アイドル映画の時代」 光文社知恵の森文庫

社会活動
一般社団法人落語協会外部顧問
NPO日本映画映像文化振興センター顧問
NPO青春基地幹事
NPO「スクール・ボイス・プロジェクト」アドバイザー



花柳貴答 (鈴木 昭) 非常勤

生年月日
昭和25年12月13日生

略歴
昭和45年06月
国立劇場歌舞伎俳優養成所入所 第一期生
昭和47年04月
同所卒業 歌舞伎俳優となる
昭和48年02月
花柳流名取試験合格 花柳貴答を名乗る
昭和48年05月
八世坂東三津五郎師に入門
昭和50年02月
八世逝去の為、九世坂東三津五郎師に入門
昭和53年02月
歌舞伎俳優から日本舞踊家に転業
昭和58年02月
花柳流師範合格
平成23年11月
久留米市功労者の称号を贈られる

研究領域
日本の伝統的な演劇・舞踊の表現様式。能・狂言、民族芸能、歌舞伎、文楽=人形浄瑠璃、新派、新国劇、日本舞踊、また、講談、落語、浪曲、近年では映画、西洋の演劇・舞踊などとの関係性。ことに歌舞伎はその演出法や演技の所作・台詞廻しなどが上記の他のジャンルとの関係が深く、大きく影響を与えられ、また与えている。その表現方法の関係性の体得の仕方と伝達の仕方、刻々と変わる時代と共に探っていく。

研究業績
H4 日中国交回復20周年記念北京公演出演
H5 文化庁派遣歌舞伎レクチャー欧州巡業公演出演
H14 会津田島屋台歌舞伎 演出振付
H14 京わらべ唄ミュージカル「優女」振付
H20 NHKBS「写楽」演出、振付
H20 真贋絵金現世話 演出、振付
H21 本物の舞台芸術体験授業「二人袴」脚本補綴、演出、振付、出演
H27 東大レクチャー 神田祭の舞踊「三番叟 常盤色場」振付
その他、各地の舞踊界出演多数、各地の地芸居の脚本、演出、振付多数。

社会活動
日本舞踊協会会員
全日本郷土芸能協会会員



福田卓郎 非常勤

生年月日
昭和36年05月16日

略歴
昭和61年03月 日本大学芸術学部映画学科卒業
大学卒業後、東宝株式会社演劇演出部を経て、自ら主宰する劇団を結成。
平成01年より、シナリオライターとして数多くの映画、テレビドラマ、ラジオドラマ、戯曲を執筆する。
平成12年より日本大学芸術学部映画学科 非常勤講師

研究領域
映像作品における脚本の創作。及びその構造の分析と研究。過去から現在に至る様々な映画を通して、そこに共通する「面白さ」を創り出している要因を探る。

研究業績
映画
「就職戦線異状なし」
「愛を積む人」
テレビ
「トリック2」(テレビ朝日)
「仮面ライダーセイバー」(テレビ朝日)
「噂の女」(テレビ東京)
ラジオ
「12歳の成人式」(NHK)
「ライオン子供はみがき」ACC最優秀スポットCM賞
著作
「仰げば尊し」(社神社)
「脚本家になる方法」(青弓社)

社会活動
日本脚本家連盟 会員
日本劇作家協会 会員



三井圭司 非常勤

生年月日
昭和45年01月6日

略歴
京都芸術大学 芸術学部芸術学科 卒業
平成10年 京都芸術大学大学院 芸術研究科芸術専攻 比較芸術学コース 修了(芸術学修士)
平成14年より現在 公益財団法人東京都歴史文化財団 学芸員
平成24年 日本大学大学院 芸術研究科芸術専攻 博士後期課程 単位取得後退学

研究領域
日本及び欧米の初期写真史
日本史においては、国内への写真理論の輸入から技術の渡来、日本人による写真技術の習得、幕末～明治期の写真家および写真文化普及の研究。
世界史においては、西欧および米圏における写真発明に至る史的考察、写真技術発表と各国の対応から写真文化普及に至る研究。

研究業績
2007年から2017年に全国の初期写真を元にするシリーズ展「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史」(東京都写真美術館)のキュレーションを担当。
単著『写真の歴史入門—第1部「誕生」新たな視覚のはじまり—』(新潮社)
監修『レンズが撮らえたオックスフォード大学所蔵幕末明治の日本』(山川出版社)

社会活動
日本写真芸術学会会員
史跡上田城跡整備専門家会議委員

Image Arts



宮沢誠一

非常勤

生年月日

昭和24年08月18日生

略歴

昭和47年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
平成06年04月
日本大学芸術学部教授
平成17年09月
日本大学芸術学部次長
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和02年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

映画監督・製作・編集を行っているが、特に創作が中心である。創作領域は、劇場用劇映画・ドキュメント・PR・CM・TV・ミュージッククリップなど広範囲にわたり、デジタルシネマの製作にも取り組んでいる。

研究業績

「夏の別れ」35mm劇場用劇映画 編集担当
1981年上映
「TECHNO ADVENTURE」16mmPR映画
脚本・監督・編集担当
1981年度産業映画コンクール奨励賞
「絵の中のぼくの村」35mm劇場用映画
ネガ編集担当
1996年度ベルリン国際映画祭銀熊賞
「田中純一郎～人と仕事 映画にかけた生涯～」16mm記録映画 監督・編集担当
1999年度産業映画コンクール奨励賞
「宇宙の夏」デジタルシネマ(30分) 劇映画
製作・編集担当 2003年度WORLD FEST
HOUSTON GOLD SPECIAL JURY
AWARD (審査員特別賞)
「飛べ!ダコタ」2013年劇場用映画、DCP上映作品、118分、編集担当
「ソ満国境15歳の夏」2015年劇場用映画、DCP上映作品、94分、編集・制作担当
「あなたの安心のために」2022年 PV 90秒、日本弁護士連合会、制作・編集担当

社会活動

日本映画・テレビ編集協会
日本映画テレビ技術協会



山田 均

非常勤

生年月日

昭和24年03月06日生

略歴

昭和48年3月
千代田学園 映画録音研究科卒業
昭和48年7月
アオイスタジオ 音響技術部入社
平成2年7月
アオイスタジオ 音響技術部退社
平成2年7月
フリー録音技師
平成23年4月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

映像音響の収録から最終仕上げ全般

研究業績

劇映画「稲村ジェーン」 監督 桑田圭祐
I-MAX「小さな世界から」 監修 山田太一
劇映画「ピンポン」 監督 曾利文彦
劇映画「カミユなんて知らない」監督 柳町光男
劇映画「ソ満国境 15歳の夏」 監督 松島哲也

社会活動

日本映画・テレビ録音協会



横田正夫

非常勤

生年月日

昭和29年01月28日生

略歴

昭和51年03月
日本大学芸術学部映画学科卒業
昭和54年03月
日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士
前期課程修了
昭和57年03月
日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士
後期課程満期退学
昭和57年04月
群馬大学医学部精神神経医学教室教務員
平成04年04月
日本大学文理学部専任講師
平成06年04月
日本大学文理学部助教授
平成12年04月
日本大学文理学部教授
令和03年04月
日本大学文理学部特任教授

研究領域

アニメーションの心理学的研究を行っている。たとえば、キャラクターの好み、悪玉の印象評価の検討や作り手と創造性、ライフ・サイクルの関係など。

研究業績

アニメーションの前向き行動力:主人公たちの心理分析(単著 金子書房、2021)
Animating The Spirited(共編著、University Press of Mississippi、2020)
「アニメーションの心理学」(共編著、誠信書房、2019)
「大ヒットアニメで語る心理学:『感情の谷』から解き明かす日本アニメの特質」(単著、新曜社、2017)
「メディアから読み解く臨床心理学 漫画・アニメを愛し、健康なこころを育む」(単著・サイエンス社、2016)

社会活動

日本アニメーション学会理事
日本映像学会監事

Fine Art and Design



大熊敏之

専任

生年月日
昭和34年01月01日生

略歴
昭和57年03月
早稲田大学美術史学専攻卒業
昭和58年04月
北海道立近代美術館学芸員
平成04年04月
北海道立近代美術館主任学芸員
平成05年04月
宮内庁三の丸尚蔵館研究員
平成10年01月
宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官
平成17年10月
富山大学芸術文化学部准教授
平成23年04月
富山大学大学院芸術文化学研究所准教授
平成26年01月
富山大学大学院芸術文化学研究所教授
平成31年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
日欧近世近代美術交流史と伝統的造形技芸史を主な研究分野とする。江戸後期以降の日本美術を対象とした歴史研究にみられる記述手法の問題点を多角的に検証する一方、置物やレリーフ画、額縁等のこれまで日本美術史では論じられることの少なかった複数の造形分野の境界線上に存する造型物や書、生花、盆栽、人形、模型、手芸など美術史記述の枠外に排除されてきた多様な視覚・造型領域を史的に位置づけ直す試みを研究課題としている。

研究業績
「美術のゆくえ、美術史の現在－日本・近代・美術」(共著) 平凡社
「感覚と構成のはざまで－1930年代の日本画のモダニズム」(日本美術院百年史第6巻)
日本美術院
「工芸と美術史学：絵画性と彫刻性の相克－近代日本における浮彫表現の位相をめぐって」(日本における美術史学の成立と展開) 東京国立文化財研究所
第4回 倫雅美術奨励賞・美術史研究評論部門受賞

社会活動
富山県立近代美術館収蔵作品評価委員ほか



鞍掛純一

専任

生年月日
昭和42年09月24日生

略歴
平成02年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成03年04月
跡見学園短期大学生生活造形科実習助手
平成04年04月
日本大学芸術学部学科補助員
平成06年04月
日本大学芸術学部非常勤助手
平成07年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成09年04月
武蔵野美術大学特別講師
平成13年04月
日本大学芸術学部助手
平成16年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
鉄を主な表現素材とし、自然から受け取るものを作品に置き換えることを日常制作の元としている。近年は個人の制作活動のみならず、ワークショップをはじめ、多くの人数で一つのものを作り上げる制作方法も同時に行っており、過疎化地域におけるアート制作による地域活性化を目標としている。

研究業績
柳瀬荘アート・教育プロジェクト
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ／脱皮する家2006／コロッケハウス2009／やまのうえした2012／大地のおくりもの2015／大地のおくりもの2018／はなしるべ／脱皮する時2021
瀬戸内国際芸術祭2013夏

社会活動
KEENパートナー
星峠の棚田を守る会



笹井祐子 (奥村祐子)

専任

生年月日
昭和41年12月19日生

略歴
平成02年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成07年04月
日本大学芸術学部副手
平成12年04月
日本大学芸術学部助手
平成16年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
平面による版画・絵画表現を専門としている。絵画表現では、線によるドローイングを中心に植物や人物といった生命力をかたちに表現している。版画表現では、版を使って「写す」ことをテーマに凹版、凸版、平版といった様々な版種を使い表現している。特に版画と活字を組み合わせた表現の研究を試みている。

研究業績
「現代日本の美術の動勢 版/写すこと/の試み」富山県立近代美術館
「現代版画の潮流展」町田市立国際版画美術館・松本市美術館
「ドローイングをめぐって」茨城県つくば美術館
「一期一会」メキシコ自治大学チョッポ美術館
「第28回損保ジャパン美術財団選抜奨励展」損保ジャパン東郷青児美術館
「第77回日本版画協会展 招待作家」東京都美術館

社会活動
版画学会



瀬島 匠

専任

生年月日
昭和37年08月05日生

略歴
平成元年03月
武蔵野美術大学造形学部油絵科卒業
平成元年04月～平成06年03月
武蔵野美術大学短期大学部美術科助手
平成08年04月～平成14年03月
武蔵野美術大学短期大学部通信美術科コース非常勤講師
平成14年04月～平成31年03月
武蔵野美術大学造形学部通信教育課程油絵学科絵画コース非常勤講師
平成22年04月～平成25年03月
横浜美術大学絵画コース非常勤講師
平成23年04月～平成31年03月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成24年04月～平成25年03月
東北芸術工科大学芸術学部洋画非常勤講師
平成25年04月～平成31年03月
東北芸術工科大学芸術学部洋画コース画准教授
平成31年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
多様化する表現素材の研究
科学の進歩にとまじり、絵具となる素材も幅広く開発され、様々な表現方法が生まれてきた。伝統的な素材と新素材を組み合わせる中で、新たな可能性を持った独創的な絵画空間を追求していく。

研究業績
瀬島匠個展 落石碑 無線局跡 根室市 北海道「90」
「表現としての場」6人展 広島現代美術館「93」
瀬島匠個展 シテ・インターナショナル・デザール・パリ フランス「95」
62回独立展 安田火災美術財団奨励賞「95」
瀬島匠個展 ピカソ洗濯船 バトラーポーア・モンマルトル パリ フランス「2000」
71回独立展独立賞受賞 東京都美術館「03」
損保ジャパン大賞展 東郷青児美術館「11」
29回上野の森美術館大賞展 大賞受賞「11」
都美セレクション新鋭美術家作家展「15」
第五回 蔵と現代美術展 「響き合う空間」招待作家 川越市「07」

社会活動
フランス美術家協会会員「99～01」
独立美術協会会員「04～」

Fine Art and Design



福島唯史

専任

生年月日

昭和42年03月28日生

略歴

平成01年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成04年04月
日本大学芸術学部実習助手
平成07年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成08年04月
日本大学芸術学部助手
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成16年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

油彩画による絵画制作。
特に基底材及び溶材の研究が、油彩画の技法やマテリアルに与える影響を試みている。油彩画の生命線とも言える堅牢な絵具のつき、それに伴う絵肌の美しさを大切に思いながら、特に色面、空間感、コンポジションに重きを置いて制作している。

研究業績

第29回昭和会展日動美術財団賞受賞[94]
福島唯史展(日動画廊 東京/名古屋)[97]
前田寛治大賞展(日本橋高島屋)[98'01'04]
和の会招待出品(銀座和光)[99~'01]
立軌会同人となる[01~]
日本現代洋画の精鋭(笠間日動美術館)[01]
福島唯史展(日動画廊)[07]
昭和会受賞作家選抜展(笠間日動美術館)[11]
福島唯史展"PARIS-MAROC"(日動画廊)[11]
N+N展 油絵の魅力(練馬区立美術館)[14]
福島唯史展"GRIS CHIC"(日動画廊)[16]
稜の会(日本橋高島屋/大阪、名古屋を巡回)[21~]
福島唯史展"l'île du bonheur"(日動画廊)[21]
その他、個展、グループ展

社会活動

立軌会運営委員
前田寛治大賞展推薦委員(倉吉博物館主催)
未来展実行委員、審査委員(日動画廊主催)



飯田竜太

専任

生年月日

昭和56年08月生

略歴

平成16年03月
日本大学芸術学部美術学科彫刻コース卒業
平成18年04月
日本大学芸術学部美術学科臨時職員
平成19年01月
静岡県立沼津商業高等学校常勤講師
平成21年
八戸学院短期大学幼児保育学科専任講師(現八戸学院大学短期大学部)
平成26年03月
東京藝術大学大学院美術研究科先端藝術表現専攻修了
平成27年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成31年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域

文字や言葉を媒介とした本・雑誌・紙などを用いた彫刻作品の制作、グラフィックデザイナーと共に写真を用いた半立体作品の制作を通じて、新たな芸術分野、芸術思想、芸術思考の確立を研究する。作品素材に時間軸を封入することで、素材に意味・思想・情報を必然的に付与し、多様な方法と掛け合わせ作品を制作する。

研究業績

[どのの文字、間の無光] 八戸ブックセンター(2017年)
[釘がないので] BEPPU PROJECT KASHIMA レジデンス成果報告展(Nerholとして)(2018年)
「私たちの愛するこの街が止まらないように」富士の山ピエンナーレ(2019年)
[VOCA展2020](Nerholとして)
[New Photographic Objects 写真と映像の物質性] 埼玉県立近代美術館(Nerholとして)(2020年)

社会活動

平成19年 田中義久とNerholを結成
平成21年 第12回岡本太郎現代芸術賞 入選
令和02年 Voca賞(nerholとして) 第八次 稽会(杉戸洋、中村竜治、Nerhol(ネルホル)、ミヤギフトシ、宮永愛子、目[mé])(nerholとして)



坪井麻衣子

専任

生年月日

昭和54年11月生

略歴

平成17年03月
日本大学芸術学部美術学科絵画コース絵画専攻卒業
平成19年03月
東京芸術大学大学院美術研究科芸術学専攻美術教育研究室 修了
平成21年04月
学校法人専門学校東洋美術学校絵画科 専任講師
平成23年04月
横浜美術大学絵画コース 専任助手
平成27年04月
日本大学芸術学部助教
平成30年04月
日本大学芸術学部専任講師
令和03年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域

絵画制作
日々を過ごす中で見過ごされるほどの「心のちいさな揺れ」をテーマに、油絵具特有の幅広表現力を活かし、平面ならではの空間性、時間性を探り、詩情のある絵画の確立を目指す。

研究業績

2019.1 「美術教育の森-美術教育研究室の作家たち-」東京芸術大学美術館
2019.5 「坪井麻衣子展」東京 ギャラリー・サロンドエス
2019.9 「坪井麻衣子展」新潟 Kaede Gallery +full moon
2021.9 「坪井麻衣子展」新潟 医学町画廊 1F/楓画廊
2022.7 「坪井麻衣子展」新潟 ギャラリーあらさ

社会活動

美術教育研究会



池田光宏

専任

生年月日

昭和44年11月23日生

略歴

平成06年03月
日本大学芸術学部美術学科ビジュアルコミュニケーションデザイン専攻卒業
平成07年04月
東京芸術大学大学院美術研究科入学
平成09年03月
東京芸術大学大学院美術研究科修了
平成24年04月
長岡造形大学造形学視覚デザイン学科非常勤講師
平成26年04月
長岡造形大学造形学部視覚デザイン学科准教授
令和02年04月
日本大学芸術学部准教授
令和04年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

「見ること」「見られること」「想像すること」をテーマにアートプロジェクト、インスタレーション、グラフィックアート、コミッションワークなどを制作、研究。

研究業績

文化庁新進芸術家海外研修制度にてスウェーデンに滞在。
〈主要な展覧会〉
「大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ」、「こもれび展」水戸芸術館、「府中ピエンナーレ」府中市美術館、「CAFE in 水戸」水戸芸術館、「六本木アートナイト」六本木ヒルズ、「公開制作」府中市美術館、「Homemade Landscape」(大地の芸術祭冬)まつだい農舞台、「こどもハウス劇場」東京都現代美術館、「きっとそれも誰かの仕事」長岡市栃尾美術館、恵比寿映像祭地域連携プログラムなど。
〈主要な受賞歴〉
毎日広告賞奨励賞、環境色彩コンペティション優秀賞、新潟アートディレクターズクラブ準グランプリ、NADC賞受賞、審査員特別賞、世界ポスタートリエンナーレ トヤマ入選、東京TDC入選など。



笠井則幸

専任

生年月日
昭和47年03月24日生

略歴
平成07年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成07年04月
株式会社 アド・ギルド入社
平成08年10月
株式会社 日本デザインセンター入社
平成19年04月
和光大学表現学部専任講師
平成23年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成25年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻：グラフィックデザイン
近年、グラフィックデザインは平面のみならず、あらゆるメディアを媒介としたコミュニケーションデザインとして必要性を増している。特にタイポグラフィはメディアにより視認性が大きく変化するので、美しいデザインと時代性に沿った情報伝達の在り方を考え、実践しなければならぬ。

研究業績
文化庁メディア芸術祭推薦作品推挙
東京モーターショー トヨタブース、サインデザイン SDA賞 準優秀賞
ミッドランドスクエア名古屋 ワールドマップデザイン(トヨタ自動車) SDA賞 最優秀賞
Graphis Poster Annual 2012 Platinum award (最高賞) 受賞(NY)
第64回全国カレンダー展 日本商工会議所会頭賞/第3部門金賞受賞
日本タイポグラフィ年鑑2017 研究実験部門 ベストワーク受賞
ASIA DESIGN PRIZE グランプリ

社会活動
日本グラフィックデザイナー協会会員
日本タイポグラフィ協会会員監事
日本デザイン学会会員
ANBD JAPAN 常任理事
China International Design Educator Association 会員



佐藤 徹

専任

生年月日
昭和43年11月29日生

略歴
平成03年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成03年04月
三菱電気デザイン研究所勤務
平成11年04月
日本大学芸術学部助手
平成15年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成20年04月
日本大学芸術学部准教授
平成27年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
持続可能なライフスタイルの実現に向けて、工業製品による環境負荷やエコロジー素材、再利用法などをエコデザインの観点から研究。JIDA環境委員会にて学生指導や主催展示も行っている。また工業デザインの現場におけるコンピュータの活用状況を調査し、3Dデータによる模型製作などを実践、検証している。

研究業績
「美しい椅子がわかる本」(共著)成美堂出版社
「エコデザイン」(共著)日本デザイン学会誌特集号
「conof. シリーズ」シュレッター、電話機、デスクライトのシリーズ
「Slow coffee style シリーズ」ドリッパー、カラフェ、マグ等のシリーズデザイン
「libro シリーズ」ソファベンチ、ソファテーブル等のシリーズデザイン

社会活動
日本デザイン学会会員
日本インダストリアルデザイン協会会員
東日本ブロック エコデザイン研究会副会長
東日本ブロック 運営委員



長瀬浩明

専任

生年月日
昭和38年08月17日生

略歴
平成元年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成元年04月
日本大学芸術学部美術学科補助員
平成04年04月
東京都立工業技術センター研究員
平成07年04月
長野県情報技術試験場研究員
平成17年04月
長野県工業技術総合センター研究員
平成22年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
感性工学や人間工学に基づくユーザー志向のものづくり(プロダクトデザイン、UXデザイン)を専門としている。筋電計やモーションキャプチャ等の生体計測技術を応用した製品や試作品等の定量的検証を通じ、福祉機器や生活支援用具等の研究開発を実践している。また企業や地域と連携して製品開発やブランド構築の支援やプロデュースを手掛けている。

研究業績
「姿勢調節障害のリハビリテーション装置の開発—実証試験方法の確立のための予備的検討—」人間生活工学. Vol.9, No.1 (2008)
「Lateral Inclination of the Trunk and Falling Frequency in Parkinson's Disease Patients」Electromyography and Clinical Neurophysiology. 50 (2010)
「Postural Control While Sitting and Its Association with Risk of Falls in Patients with Parkinson's Disease」INTECH. (2011)
「動作解析とインタビューによる起立補助椅子の有効性評価」日本感性工学会論文誌. Vol.11. No.1 (2012)
「欧州における福祉機器の市場動向 —REHACARE INTERNATIONALの調査から—」日本大学芸術学部紀要第66号(2017)

社会活動
日本感性工学会会員
公益財団法人共用品推進機構理事



森 香織

専任

生年月日
昭和36年01月27日生

略歴
昭和62年03月
筑波大学大学院芸術研究科修士課程修了
昭和63年04月
東京純心女子短期大学美術科助手
平成01年04月
東京純心女子短期大学美術科専任講師
平成06年04月
東京純心女子短期大学美術科助教
平成08年04月
東京純心女子大学現代文化学部助教授
平成15年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成21年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
専攻分野：基礎デザイン・視覚伝達デザイン・デザイン教育
デザイン・造形の基盤となる形態や色彩の研究を通して美的秩序や構成を、歴史的・地域的・文化的などの多面から探求する。また、近年では大学教育におけるデザインの基礎分野について、カリキュラムや課題を通しての新しい可能性を探る試みを各国での実践例などと比較しながら構築している。

研究業績
○「グラフィックデザイン全史」(共訳) 淡交社
○「日本のかたち1—構成要因と分類—」東京純心女子短期大学紀要3
○「日本のかたちII—連続と間—」東京純心女子短期大学紀要4
○「エディトリアルデザイン：雑誌「アイデア」[MJ無線と実験](誠堂新光社)、雑誌「Agora」(日本航空)
○「造形基礎と基礎デザイン—デザイン分野における基礎教育の目的と可能性」日本大学芸術学部紀要48号

社会活動
○日本デザイン学会理事(教育部会主査)
○基礎デザイン学会理事
○日本色彩研究所評議員
○日本色彩教育研究会理事

Fine Art and Design



山本守和

専任

生年月日

昭和46年08月18日生

略歴

平成06年03月
日本大学理工学部海洋建築工学科卒業
平成08年03月
日本大学大学院理工学研究科修士課程修了
平成08年04月
大日本コンサルタント株式会社勤務
平成14年03月
日本大学大学院理工学研究科博士課程修了
平成15年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成28年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

津波発生時における避難行動に関する研究を行っている。災害時の状況、避難手法に関して、統計データや地理データなどを、地理情報システム (GIS) 及びコンピュータシミュレーションを用いて、分析している。また、コンピュータに関連する研究として、芸術作品作成を目的としたWebサイトの構築及び運用・管理、教育におけるWebサイトの利用なども行っている。

研究業績

津波発生時における自動車避難シミュレーションによる避難経路の分析 千葉県長生郡一宮町を対象として、日本建築学会環境系論文集
津波災害時における自動車避難の対象地域に関する分析、日本建築学会大会
津波災害に対する防災計画を考慮した集落の分類手法に関する研究、日本建築学会大会
芸術学部における情報講義の授業改善に関する取り組み、日本大学FD研究

社会活動

日本建築学会会員
情報処理学会会員



若原一貴

専任

生年月日

昭和46年10月12日生

略歴

平成06年03月
日本大学芸術学部 美術学科 住空間デザインコース卒業
平成06年04月
株式会社 横河設計工房 入社
平成12年05月
株式会社 若原アトリエ 設立
平成30年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
令和元年04月
日本大学芸術学部准教授
令和04年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域

専攻分野: 建築設計
テーマは「現代小住宅における新しい設計手法」。空間を構成する寸法や光のグラデーションによって生まれる多様な心地よい「居場所」について考察。また、小住宅に適した構造形式や素材および現代の生活様式を反映したプランニングなど、これからの「小住宅」におけるスタンダードになり得る設計手法を研究。

研究業績

・作品
霧ヶ丘の家(神奈川県) 2017年竣工
辻堂の家(神奈川県) 2017年竣工
文京の小住宅(東京都) 2019年竣工
岡本の小住宅(兵庫県) 2021年竣工
小谷田の小住宅(埼玉県) 2021年竣工
瑞江の小住宅(東京都) 2021年竣工
小金井の小住宅(東京都) 2022年竣工
日本建築学会賞教育賞(教育貢献) 受賞
・著書
小さな家を建てる(エクスナレッジ)
・主要論文
東京、名もなき名住宅を訪ねて(雑誌「住む」)
泰文館発行にて連載)

社会活動

目黒区美術館建築ボランティア班
一般社団法人東京建築アクセスポイント理事
一般社団法人エコハウス研究会理事
日本建築学会会員



出羽 尚

非常勤

生年月日

昭和52年07月28日生

略歴

平成12年03月
東京外国語大学外国語学部英語専攻卒業
平成14年03月
日本大学大学院芸術学研究科修了(修士)
平成17年11月
リーズ大学大学院修了(MA)
平成18年03月
日本大学大学院芸術学研究科修了(博士)
平成20年04月
武蔵大学人文学部非常勤講師
平成26年04月
宇都宮大学国際学部講師
平成29年04月
放送大学客員准教授
平成30年04月
宇都宮大学国際学部准教授

研究領域

西洋美術史・イギリス美術史
特に18、19世紀のイギリス風景画作品を主な研究対象とする。ほかにも、風景画と関連する美術理論、文芸、地誌といった領域や、自然と関係を持つ建築、庭園、デザイン、現代美術にも関心を持つ。

研究業績

「イメージ制作の場と環境」中央公論美術出版
「多文化共生をどう捉えるか」下野新聞社

社会活動

美術史学会会員
日本18世紀学会幹事



伊藤 寛

非常勤

生年月日

昭和31年04月12日生

略歴

昭和54年03月
神奈川大学工学部建築学科卒業
昭和54年12月～昭和59年12月
長谷川敬アトリエ、小宮山昭+アトリエR勤務
昭和61年11月
ロータリ財団奨学金にてミラノ工科大学建築学科留学
昭和63年03月
早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了
昭和63年04月
一級建築士事務所伊藤寛アトリエ設立
平成05年04月～
神奈川大学、早稲田大学芸術学校、武蔵野美術大学、桑沢デザイン研究所非常勤講師
平成23年04月～令和02年03月
京都芸術大学大学院教授
令和04年04月～
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

専門分野: 建築設計、特に木造住宅設計
住宅の空間が気持ちの有り様や家族の関係に与える影響は日々の暮らしの中ではごく小さなものだが、10年、20年と繰り返される中でその影響力は計り知れない。そこが住宅設計の重要な面白さだ。今日の対等で自由な人の関係を後押しするとびっきりの家がありふれた材料を使って作る事も私にとって重要なテーマである。

研究業績

「YATAI: 13人の大道芸人のためのBUTAI」
名古屋デザイン博覧会金賞(平成01年)
「黒水晶の家」東京建築士会住宅建築賞(平成17年)
「海と山と空の家」神奈川建築コンクール 最優秀賞(平成18年)
「謳う建築」展 建築倉庫WHAT(令和3年)
・著書
「住宅の普遍性を求めて」(国彰社ディテール別冊、共著)平成24年

社会活動

建築士会会員
建築士事務所協会会員



大槻孝之

非常勤

生年月日
昭和32年01月03日生

略歴
昭和54年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成03年04月
日本大学芸術学部助手
平成07年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成11年04月
日本大学芸術学部助教授
平成17年04月
日本大学芸術学部教授
令和04年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
主に鉄を素材として彫刻の制作発表を行っている。現在、彫刻と場との関係性について興味をもっている。無機的なホワイトキューブの美術の展示のために用意された空間や公園などの認知された公共の場ではなくて、日々移り変わる自然の中であるとか、歴史や文化を紡いできた日常の空間に直接に関わり、彫刻を通して特定の場を意識化していくことに彫刻の新たな可能性を探っている。

研究業績
「満ち潮を待って—II」個展 メタルアートミュージアム光の谷
「水の風景」第22回現代日本彫刻展—07
宇部市野外彫刻美術館
「満潮を待って」個展 ギャラリーGAN
「風をのせて」NEW HEAVY展 神戸市CAP HOUSE
「迷宮の小径」雨引の里と彫刻展 茨城県大和村

社会活動
鉄の造形ワークショップ(神戸市CAP HOUSE)
N+N展ワークショップ(練馬区立美術館)
日本美術家連盟会員



大西若人

非常勤

生年月日
昭和37年05月13日生

略歴
昭和61年03月
東京大学工学部都市工学科(都市デザイン研究室)卒
昭和62年03月
東京大学大学院修士課程中退
昭和62年04月
朝日新聞社に入社、宮崎支局記者
平成02年04月
朝日新聞西部本社芸部記者
平成06年04月
朝日新聞東京本社芸部記者
平成11年05月
朝日新聞大阪本社芸部記者
平成13年09月
朝日新聞東京本社芸部(のち文化部)記者
平成16年09月
朝日新聞東京本社文化部次長
平成19年09月
朝日新聞東京本社文化部記者
平成22年04月
朝日新聞編集委員

研究領域
美術、建築、写真などの領域に関し、長年取材・執筆してきた経験を踏まえ、こうした視覚表現を現代文化、社会全体のなかに位置づけることを目指す。とりわけ、領域を横断する軸として、「身体」を巡る表現に着目。一方、こうした表現が生まれる背景となっている様々なシステムや文化的、社会的意志の存在も注視している。

研究業績
朝日新聞紙上での執筆のほか、「大地の芸術祭—越後妻有アートトリエンナーレ」(現代企画室)、「リファイン建築へ 青木茂の全仕事」(建築資料研究社)、「文藝別冊 [永久保存版] 荒木経推」(河出書房新社)などに寄稿。シンポジウムなどへの参加も多数。

社会活動
ヒロシマ賞選考委員



大庭英治

非常勤

生年月日
昭和25年05月30日生

略歴
昭和49年03月
東京芸術大学美術学部絵画科卒業
昭和51年03月
東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了
昭和52年06月
フランス政府給費留学
(国立マルセイユ高等美術学校)
平成16年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成17年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成22年04月
日本大学芸術学部教授
令和03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
専攻分野: 絵画
多種多様にわたる現代絵画の表現の中で、古い時代から用いられてきた油彩絵の具を材料として、その古典的な技法をベースに、自らの「造形意識」の表現を試みている。具体的な形に拘らず、色彩の響きあい、コンポジション、マチエールなどを探究し、抽象的絵画の中に人の気配のする生活空間を描きたいと、その試行を続けている。

研究業績
個展「ヌーヴェル・ギャラリー」(フランス、1979年)
個展「ムゼウムドルフ」(ドイツ、1988年)
個展「東急Bunkamura ギャラリー」(1994年)
個展「高島屋美術画廊」(1996、1999、2001、2005、2008、2011、2015、2018、2021年)
その他、個展、グループ展、立軌展等で発表

社会活動
日本美術家連盟会員・委員
立軌会同人・運営委員
ABC(文化系フランス政府給費留学生)の会幹事



海崎三郎

非常勤

生年月日
昭和27年04月03日生

略歴
昭和50年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和59年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成12年09月
東北芸術工科大学非常勤講師
平成16年04月
跡見学園女子大学短期大学部非常勤講師
平成16年04月
共立女子大学非常勤講師

研究領域
専攻分野は彫刻であり、表現素材は鉄である。扱ひ方の比較的自在である鉄に対して、負の無垢性とそこから生じるエネルギーに焦点を置きその在り方を探求している。また、野外空間においては彫刻がもつ内と外の関係を空と大地、場所の特殊性も含めて作品化し、内側に対する志向性と現代彫刻の可能性の接点について試行している。

研究業績
「ROVER02-5」個展 ギャラリーOM
「熱より08-6」個展 ギャラリーせいほう
「左手の能力より」ねりまの美術'91—彫刻の現在— 練馬区立美術館
「ROVER03-1」TUKUBA 現代美術の磁場 2003展 茨城県つくば美術館
「ROVER03-2」NEW HEAVY展 神戸市CAP HOUSE
「ROVER05-1」麻生の道彫刻展 川崎市「能力I」雨引の里と彫刻2008 桜川市茨城

社会活動
第12回全国健康福祉祭ふくい大会美術展 彫刻部門審査員
ワークショップ 福井市立美術館

Fine Art and Design



金澤健一

非常勤

生年月日

昭和31年02月11日生

略歴

昭和54年03月
東京藝術大学美術学部工芸科卒業
昭和56年03月
東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了
平成元年～03年
東京藝術大学美術学部デザイン科非常勤講師
平成24年04月
多摩美術大学美術学部工芸科非常勤講師
平成24年04月
東北芸術工科大学美術科非常勤講師
平成28年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

工業製品としての金属を出発点とし、幾何学的な構成作品や、形と音の関わりをテーマとした作品を制作している。また、それらの作品をとおしてパフォーマンスや音楽家、舞踏家とのコラボレーションも行っている。金属という素材をいろいろな視点から観察し、造形の可能性やその展開を探っている。

美術教育研究の授業では、作家として美術教育の在り方を模索し、教える側と学ぶ側を超えた双方向的な授業形態を取り入れ、美術の本質や役割を共に考える授業としている。

研究業績

「第1回岡本太郎記念現代芸術大賞」準大賞
「はがねの変相—金澤健一の仕事」川崎市岡本太郎美術館
「共鳴する空間 金澤健一 音のかけら」新潟市新津美術館
「第20回記念 現代日本彫刻展」宇都市野外彫刻美術館 毎日新聞社賞、市民賞
「金澤健一「音のかけら」とワークショップ展」川崎市立美術館
「金澤健一展 出発点としての鉄 1982-2011」川崎市立美術館

社会活動

美術館、小学校、科学館におけるワークショップ及び大学の特別講義。



木村政司

非常勤

生年月日

昭和30年11月29日生

略歴

昭和54年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和59年06月
米国ワシントン州立大学大学院修士課程修了
MFA取得
昭和60年12月
米国スミソニアン協会国立人類歴史博物館インターン修了
昭和63年10月
(株)アーリーバード設立(代表取締役 現在非常勤)
平成05年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年09月～令和04年06月
日本大学理事・評議員
平成29年09月～令和05年03月
日本大学芸術学部長・日本大学大学院芸術学研究科長
平成30年04月～
金沢工業大学コンテンツ&テクノロジー融合研究所客員教授
令和元年09月～令和02年08月
日本大学副学長
令和03年03月～
日本大学第三学園理事
令和05年04月～
日本大学第三学園理事長
佐野日本大学短期大学客員教授

研究領域

Scientific Illustration, Communication Design

研究業績

委託研究:「大昆虫展」企画・展示・WSのデザイン開発研究2023.4～9

社会活動

○JSTサイエンスウインドウ委員会委員
○板橋区文化・国際交流財団理事
○日本サイエンスコミュニケーション協会会員
○日本グラフィックデザイナー協会会員



熊谷廣己

非常勤

生年月日

昭和30年10月08日生

略歴

昭和54年03月
日本大学生産工学部建築学科卒業
昭和56年03月
日本大学大学院生産工学研究科修士課程修了
昭和57年04月
内井昭蔵建築設計事務所勤務
平成02年04月
前川建築設計事務所勤務
平成12年04月
日本大学芸術学部助教授
平成18年04月
日本大学芸術学部教授
令和03年04月
日本大学特任教授

研究領域

専攻分野:建築設計
建築デザインにおける設計過程に着目した方法論を主な研究領域とする。創造的なデザインプロセスの開発を実践活動を通じながら取り組んでいる。

研究業績

作品
CURIOSITY
小丘舎
渡辺整形外科医院
論文
「混構造建築物における構造デザイン」日本大学芸術学部紀要42号
制作
「Design of Caps/Tableware」日本大学芸術学部紀要(創作篇)44/45号

社会活動

日本建築学会
東京建築士会
建築家・前川國男生誕100年記念展覧会発起人



鴻崎正武

非常勤

生年月日

昭和47年09月30日生

略歴

平成11年03月
東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業
平成17年03月
東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程美術専攻油画修了 学位取得(美術博士)
平成19年04月
東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻芸術学 非常勤講師
平成20年04月
女子美術大学美術学科洋画専攻非常勤講師
平成21年04月
東北芸術工科大学芸術学部美術科洋画コース専任講師
平成24年04月
東北芸術工科大学芸術学部美術科洋画コース准教授
令和04年04月
女子美術大学芸術学部美術学科洋画専攻特任准教授
令和05年04月
女子美術大学芸術学部美術学科洋画専攻特任教授

研究領域

古今東西において描かれてきたキメラ合成獣や、それらの生息する理想郷世界について、黄金背景イコンや琳派、洛中洛外図など金箔表現における技法の研究。技法講座、ワークショップや絵画、立体、コミッションアート、アーティスト・コレクティブなど、様々な形態で国内外のギャラリーや美術館、芸術祭で発表している。

研究業績

「理想郷に住む幻獣たち」東京藝術大学大学院博士論文
「東北画は可能か？」美術出版社

社会活動

相模原市市民文化祭審査委員



肥田不二夫

非常勤

生年月日

昭和28年10月16日生

略歴

昭和52年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
昭和52年04月
赤井電機株式会社勤務
平成05年04月
日本大学芸術学部専任講師
早稲田大学理工学部非常勤講師
平成10年04月
日本大学芸術学部助教授
平成16年04月
日本大学芸術学部教授
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域

専攻分野：インダストリアルデザイン
医療機器、福祉機器等これからの高齢社会における道具、機器をはじめとし、生活に関わる様々なものをユニバーサルデザインの視点から調査分析を行ない、新たな製品開発及びそのデザイン手法、方法論等の、実践的研究を行っている。

研究業績

「産学コラボレーションに於けるデザイン教育効果」第58回日本デザイン学会研究発表大会
「ハンドドライヤーから考える衛生環境」第61回日本デザイン学会研究発表大会
「医学とデザイン学の融合による次世代型呼吸器診断ツールの開発」日本大学学術研究助成金総合研究(2015.4～2017.3)
産学連携デザインプロジェクト'16「車載オーディオ&エアコン操作システムのデザイン開発」(株)ナガシマ化学工業所(2017.3)
「呼吸器プロダクトの新たな可能性について(4)」日本大学芸術学部紀要第73号(2021.3)
「UD視点による呼吸器プロダクトの可能性について-7」第69回日本デザイン学会発表大会(2022.6)

社会活動

日本デザイン学会会員
人間工学会アーゴデザイン部会会員



小林昭世

非常勤

生年月日

昭和30年10月21日生

略歴

昭和56年03月
武蔵野美術大学大学院修士課程修了
平成04年04月
武蔵野美術大学専任講師
平成08年04月
武蔵野美術大学助教授
平成12年04月
武蔵野美術大学教授
この間、(株)三菱総合研究所社会システム部、育英工業高等専門学校講師、イリノイ工科大学研究員、日本大学、名古屋大学大学院、慶応義塾大学大学院、早稲田大学等非常勤講師。

研究領域

デザイン、特に、情報デザインやインタラクティブデザインを対象とするデザイン方法論とその理論。また記号論に基づくデザイン理論研究。デザインという概念の成立と変遷に関する歴史、デザイン史。色と形についての、美術、表象文化、生物学等の学際的な思想とその歴史。

研究業績

『意味論的転回—デザインの新しい基礎理論』共訳、『現代デザイン事典2010』・『現代デザイン事典2015』共著、『かたち・機能のデザイン事典』共著、『グラフィックデザイン』共著、『デザイン科学事典』共著、『デザインに哲学は必要か』共著等

社会活動

日本デザイン学会、日本記号学会、ANBD(Asia Network Beyond Design)等。



斉藤里香

非常勤

生年月日

昭和52年07月20日生

略歴

平成12年03月
女子美術大学芸術学部絵画科洋画専攻卒業
平成14年03月
東京藝術大学大学院美術研究科版画専攻修了
平成17年04月
日本工学院専門学校非常勤講師
平成28年04月
女子美術大学非常勤講師
令和05年04月
女子美術大学短期大学部非常勤講師
令和05年05月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

専攻分野：版画
日本の伝統的な水性木版画技法を用いた木版画と立体作品の制作。
極めて触覚的である木版画の制作過程とその写像を手掛かりに、人間個々の知覚とその差異、記憶などを柱とした世界の手触りを模索している。

研究業績

第68回日本版画協会展 山口源新人賞
第29回現代日本美術展 東京国立近代美術館賞
第13回鹿沼市立川上澄生美術館木版画大賞大賞
個展「The advent」東京都庁
個展「斉藤里香展 LIMBO—辺獄—」奈義町現代美術館

社会活動

日本版画協会会員
版画学会会員



佐賀一郎

非常勤

生年月日

1976年11月03日生

略歴

2000年慶應義塾大学総合政策学部を卒業後、ニフティ株式会社勤務を経て、2003年女子美術大学大学院に入学、2009年美術博士号取得。2014年に多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科専任講師に着任、2017年より同准教授。女子美術大学短期大学部、日本大学大学院非常勤講師。

研究領域

近代日本のタイポグラフィを出発点に研究を開始しました。現在では、ビジュアルデザインとは何か／誰のための／何のためのものかを、その実務的・文化的・歴史的側面、そして機能と表現の關係に注目しつつ、少しでも明らかにしたいと考えています。近年ではデジタルアーカイブと造形教育／デザイン教育を発想源に加えて研究しています。

研究業績

展覧会企画・監修「20世紀のポスター [図像と文字の風景]」(東京都庭園美術館、日本経済新聞社、2021年)
解説「包む」(株式会社コンセント、2019年)
監訳・解説「遊びある真剣、真剣な遊び、私の人生」(ビー・エヌ・エヌ新社、2018年)
共著「弘道軒清朝体活字の世界」(女子美術大学、2016年3月)
翻訳・解説「ウィム・クロウエル」(ビー・エヌ・エヌ新社、2012年)
共著「活字印刷の文化史」(勉誠出版、2009年)

社会活動

日本デザイン学会会員
多摩美術大学アートアーカイブセンター運営委員

Fine Art and Design



作田富幸

非常勤

生年月日

昭和35年01月22日生

略歴

昭和59年03月
東京造形大学美術学部版画専攻卒業
平成09年04月
共立女子大学非常勤講師
平成12年04月
創形美術学校非常勤講師
平成19年04月
横浜美術短期大学非常勤講師
平成21年04月
東京藝術大学非常勤講師
平成26年04月
女子美術大学非常勤講師
平成30年04月
東京造形大学非常勤講師
令和04年04月
日本大学芸術学部客員教授

研究領域

専攻分野: 版画
銅版画を中心に制作をしている。個人的な経験や思考をもとに、人がみな感じている喜びや悲しみや孤独感などに肉薄し、昇華しようと考えている。

研究業績

第53回日本版画協会展、協会賞
第6回高知国際版画トリエンナーレ、大賞
第16回中華民国国際版画・素描ビエンナーレ、銀賞
第17回バルナ国際版画ビエンナーレ(ブルガリア)1等賞
個展 東急Bunkamuraギャラリー(2015)
個展 エカテリンブルグ美術館(ロシア)(2018)

社会活動

日本版画協会会員



嶋村有里子

非常勤

生年月日

昭和54年09月17日生

略歴

平成14年03月
日本大学芸術学部美術学科卒業
平成14年04月
日本大学芸術学部美術学科臨時職員
平成18年04月
日本大学芸術学部美術学科副手
平成20年04月
日本大学芸術学部美術学科助手
平成21年09月
文化庁新進芸術家海外派遣研修員
平成29年04月
日本大学芸術学部美術学科非常勤講師

研究領域

緊張感のある画面づくりのためのデッサンを探求すると共に、油絵の具という素材の力強さ・色彩の美しさを画面上に表すことを目指し、絵画を支える基底材や顔料の研究を試みている。近年では国内外での滞在制作やリサーチを通して土地の記憶に根ざした作品制作も行っている。

研究業績

個展(ハナエモリ・ギャラリー)[05]
第50回シェル美術賞展(ヒルサイドギャラリー)[05]
松井みどり審査員賞受賞
N+N展油絵の魅力(練馬区立美術館)[09'10'11']
個展(高輪画廊)[14'16'18']
ヴェロン會展(一宮市三岸節子美術館・高輪画廊・Salle des fetes du Veron)[15~]
個展(鎌倉ドローイングギャラリー)[19]
個展(始弘画廊)[20]
第1回始弘賞受賞
立軌会展(東京都美術館)[20~]
その他個展、グループ展

社会活動

立軌会同人
ヴェロン會同人



鷹尾俊一

非常勤

生年月日

昭和25年02月18日生

略歴

昭和48年03月
日本大学芸術学部美術学科中退
昭和48年04月
彫刻家
平成10年10月
創価大学教育学部非常勤講師
平成13年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成27年04月
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師

研究領域

人体彫刻、人間像を主たる研究分野としている。素材はブロンズ及び樹脂を中心に制作している。彫刻の長い歴史の中で人間像は、多くの作品と経験を持っているが、彫刻としての人間像はその内に内包される生命とその形の問題、それを形作る物質の問題、それが存在する空間の問題として捉えることが出来るだろう。この問題を変化と関係性という視点から見つめ、現代における人間像の新たな意味と可能性について探っている。

研究業績

第16回昭和会展 優秀賞 日動画廊 東京
神戸具像彫刻大賞展 優秀賞 神戸ポートアイランドパーク 兵庫
第3回高村光太郎大賞展 特別優秀賞 美ヶ原高原美術館 長野
「秘められたフォルムを刻む」鷹尾俊一彫刻展 西武アートフォーラム 東京
丸の内仲通り彫刻展 有楽町 東京
TUES1996 鷹尾俊一彫刻展 美ヶ原高原美術館 長野
鷹尾俊一彫刻展「像」 A&Dギャラリー、アートギャラリー 日本大学芸術学部 東京

社会活動

公益財団法人 東京富士美術館 理事



田口文哉

非常勤

生年月日

昭和52年05月27日生

略歴

平成12年03月
武蔵大学人文学部日本文化学科 卒業
平成15年03月
日本大学芸術学部芸術学研究科造形芸術専攻博士前期課程修了
平成21年03月
日本大学芸術学部芸術学研究科芸術専攻博士後期課程修了
平成21年12月
さいたま市 学芸員(文化部大宮盆栽美術館)

研究領域

日本のイメージ文化史(美術史)を基盤に、中近世の絵画表現を主たる研究領域として、特に図像学—図像(イメージ)の形状、形態に着目し、その変遷や表現意図等を共時的・通時的に分析—という研究方法を用いて、絵画表現の可能性を巡る研究を行っている。主たる研究内容の一つは、いわゆる「擬人化」表現について。中世の御伽草子から現代の子ども向け絵本を対象に、図像学的見地から、「擬人化」がどのように物語を語るのかを考察してきた。

二つ目は、勤務先のさいたま市大宮盆栽美術館における、日本及び海外における盆栽の歴史・文化に関する考証。美術史研究の視点から、海外研究者とも連携して盆栽文化史の構築を目指している。

研究業績

「『擬人化』の図像学、その物語表現の可能性について—御伽草子『弥兵衛鼠』を主たる対象として—」、『美術史』160号
「盆栽の図像学—浮世絵に見る江戸・明治の盆栽」、「近代盆栽」連載
「盆栽の物語—盆栽のたどった歴史」大宮盆栽美術館
「盆山 BONSAN—屏風に息づく中世の盆栽」大宮盆栽美術館
「海を越えた盆栽家 吉村西二—ニューヨーク、1958」大宮盆栽美術館

社会活動

美術史学会会員
盆栽文化等に関する出演・解説・講演活動



寺内 曜子

非常勤

生年月日

昭和29年07月27日生

略歴

昭和52年03月
女子美術大学芸術学部造形学専攻卒業
昭和53年03月
女子美術大学芸術学部造形学専攻研究科修了
昭和56年07月
英国 Saint Martin's School of Art 彫刻専攻
Postgraduate Advanced Course 修了
昭和58年09月～昭和59年08月
ヘンリー・ムーア財団フェローとして、アーティ
スト・イン・レジデンス(ロンドン)
平成02年02月～平成09年01月
英国 Winchester School of Art 非常勤講師
平成11年04月～平成13年03月
実践女子短期大学非常勤講師
平成14年10月～平成19年03月
愛知県立芸術大学芸術学部油画専攻助教授
平成19年04月～令和02年03月
愛知県立芸術大学美術学部油画専攻教授
令和02年04月
愛知県立芸術大学名誉教授

研究領域

専攻分野：美術(彫刻・インスタレーション)
「物」を創るというよりも、「事」から必然的に
表れる形や状況を提示する方法で制作をして
いる。観客の立つ展示空間ごと巨大な作品
に取り込んでしまう場所限定のインスタレー
ションで、見える世界がいかに見えないまま
にあるかを体験させる場を提供する等、素材
や媒体にこだわらずに、私たちの世界認識の
限界を具現化することを試行している。

研究業績

「The Sculpture Show」Hayward Gallery
「色彩とモノクローム」東京国立近代美術館
「空間体験」国立国際美術館
〈個展〉 かんらん舎／Victoria Miro／豊
田市美術館／Chisenhale Gallery／メン
ヒェングラッドパッハ市立美術館 他
〈パブリックコレクション〉国立国際美術館
／Victoria& Albert Museum 他多数

社会活動

「Art Award IN THE CUBE 2023」審査員
国際芸術祭「あいち2022」組織委員会アドバ
イザー会議委員



西尾 彩

非常勤

生年月日

昭和47年05月19日生

略歴

平成07年03月
武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学
科卒業
平成13年07月
Guildford College of Further & Higher
Education, Diploma in Fine Bookbinding
and Conservation 修了
平成14年07月
London College of Printing, BA Book
Arts and Crafts 修了
平成15年09月
文化庁芸術家在外研修員(英国)
平成16年09月
武蔵野美術大学非常勤講師
平成25年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

西洋の伝統的な製本技術をベースに、少数
の特装本などの製本・製函を行なっている。
本の形態や特性を生かして作品の魅力をより
高めることや、作品との接し方の可能性につ
いて、制作を通じて取り組んでいる。

研究業績

The Bookbinding Competition 2001
Best Book in the Competition
大英図書館
The Bookbinding Competition 2004
Folio Society Prize for the Set Book
大英図書館
Designer Bookbinders International
Competition 2009
ポドリアン図書館
公益財団法人服部植物研究所
展示物制作



野口 玲一

非常勤

生年月日

昭和39年08月13日生

略歴

昭和63年03月
東京芸術大学美術学部芸術学科卒業
平成04年03月
東京芸術大学大学院美術研究科修了
平成05年04月
東京都新美術館準備室(平成07年04月から東
京都現代美術館) 学芸員
平成08年10月
東京芸術大学芸術資料館(平成11年04月から
大学美術館) 助手
平成16年04月
文化庁 芸術文化課調査官
平成23年04月
三菱一号館美術館 学芸員

研究領域

日本の近世から近代の絵画史、その延長上
にある現代美術。日本近世絵画/浮世絵/版画/
日本画/近代絵画/現代美術。専門職と行政職
の経験から、フィールドワークに基づく美術
行政や美術館についての研究を行う。

研究業績

「1964年の日本美術—アンフォルメル」の影、その
後の展開—、「日本の美術—よみがえる1964
年」展図録、東京都現代美術館、1966年。「カリ
キュラムとしての自画像とその変貌」、「〈洋
画〉の青春群像—油画の卒業制作と自画像」
展図録、東京藝術大学大学美術館、2002年。
「現代美術にみる浮世絵」、「浮世絵 Floating
World 珠玉の斎藤コレクション」展図録、三
菱一号館美術館、2013年。「コンドルと暁斎
が遺したもの—フェノロサ、芳崖と対比して」、
「画鬼・暁斎—KYOSAI 幕末明治のスター絵
師と弟子コンドル」展図録、三菱一号館美術館、
2015年。「加山又造—過去と現在の対話」、「加
山又造展—生命の煌めき」展図録、アート・ベ
ンチャー・オフィスショウ、2017年。

社会活動

a r t -Link 上野・谷中 実行委員
(公財)美術文化振興協会 評議員
版画学会 運営委員
日本版画協会 外部理事
アートアワードトーキョー丸の内 審査員



藤井 匡

非常勤

生年月日

昭和45年05月11日生

略歴

平成07年03月
九州大学文学部卒業
平成07年04月
宇都市役所 学芸員(美術)
平成20年03月
京都造形芸術大学学科共通工房ウルトラフ
クトリー マネージャー
平成21年04月
名古屋芸術大学 非常勤講師
平成23年04月
京都精華大学 非常勤講師
平成24年04月
東京造形大学 准教授
平成25年04月
日本大学芸術学部 非常勤講師
令和03年04月
東京造形大学 教授

研究領域

日本の近現代彫刻史。特に、野外彫刻の興隆す
る1960年代以降を中心とする。それと関係
するかたちで、環境芸術、もの派、1980年
代以降の工芸、パブリックアート、アートプロ
ジェクト等についても考察を行う。作品その
ものの分析の他に、美術と社会の関係性つい
ても検討を行っている。また、同時代の美術に
関しては、展覧会キュレーション等のかたち
でも関与している。

研究業績

「現代彫刻の方法」美学出版
「公共空間の美術」阿部出版
「風景彫刻」阿部出版
「眞板雅文の彫刻—写真」阿部出版
「ミニマリズム後の人間彫刻」阿部出版 ほか

社会活動

屋外彫刻調査保存研究会会員
特定非営利活動法人コンテンツポラリー・ア
ート・ジャパン理事
一般財団法人プラザ財団理事 ほか

Fine Art and Design



伏見 唯

非常勤

生年月日

1982年10月05日生

略歴

2006年早稲田大学理工学部建築学科卒業。
2008年早稲田大学大学院創造理工学研究科
建築学専攻修士課程修了後、新建築社、同大
学院博士後期課程を経て、2014年伏見編集室
設立。博士(工学)。

研究領域

日本建築史。大工が記した古文書や古図面の
研究。いわゆる木割書や建地割図など、中世、
近世のものを中心に分析している。研究と並
行して、現代建築の評論や建築雑誌の編集制
作も行っている。

研究業績

『「建築史」総目次 挿図名付き』『文献探索』
2006年号、pp.399-434、2006年
『林家木割書について(1)：林家の由緒』『日本
建築学会関東支部2006年度査読付き研究報
告集2』、pp.65-68、2007年
『大徳寺大工・林家の旧蔵資料における木割書
と建地割図の比較研究』『日本建築学会計画
系論文集』79(701)、pp.1651-1661、2014年
『「木砕之注文」「重々ノ間之事」における柱間
透減の規定方法』『日本建築学会計画系論文
集』79(706)、pp.2751-2758、2014年
『木砕之注文』(共編著、中央公論美術出版、
2013年)
『世界建築史論集』(共編著、中央公論美術出
版、2015年)
『日本の住宅遺産』(世界文化社、2019年)

社会活動

日本建築学会会員



松本 有

非常勤

生年月日

昭和27年12月02日生

略歴

昭和53年03月
東北工業大学工学部工業意匠学科 卒業
昭和59年10月
フォルムデザイン有限会社を設立、
代表取締役社長
平成15年07月
株式会社フォルム に社名及び組織変更
平成17年04月
東北工業大学ライフデザイン学部兼任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部デザイン学科非常勤講師
平成22年04月
日本大学芸術学部デザイン学科ゼミ担当講師
平成22年04月
長岡造形大学
プロダクトデザイン学科非常勤講師
平成27年04月
青山学院大学
法学研究科ビジネス法専攻非常勤講師
平成27年11月
放送大学非常勤講師
令和03年04月
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師

研究領域

デザインにおける知的財産権の活用や、デザ
インマネジメント。商品開発(企画、リサーチ、
外観デザイン、内部機構、設計、量産サポート、
販売サポート)。開発分野は医療機器、家庭用
品、文具、ベビー用品、ペット用品、車両関係、
地域開発まで多岐にわたる。

研究業績

OXO社 POP コンテナ
三菱レイヨンクリンスイ社 浄水器
郵便事業株式会社 集配用キャリアボックス
貝印社 セレクト100シリーズピーラー
良品計画社 ジョイントタップコンセント
等をデザイン開発。手がけた製品は、
Goodデザイン賞、IF universal design、
Red dot design award等、国内外の賞を多
数受賞。

社会活動

特許庁/特許等取得活用支援マネジメント
強化事業 委員
巡回特許庁PR検討委員会 委員
「チーム伴走型知財経営モデル支援事業」
運営委員会・委員



八木なざさ

(篠崎なざさ) 非常勤

生年月日

昭和36年06月26日生

略歴

昭和60年03月
女子美術大学芸術学部絵画科卒業
昭和62年03月
多摩美術大学美術研究科(版画)修了
平成05年10月
横浜ファッションデザイン専門学校講師
平成10年04月
多摩美術大学非常勤講師
平成12年04月
女子美術大学短期大学部非常勤講師
平成19年04月
創形美術学校非常勤講師
平成25年04月
女子美術大学短期大学部准教授
平成28年04月
女子美術大学短期大学部教授

研究領域

主にモノトーンの平版(リトグラフ)を制作
している。近年は版によって一度定着したイ
メージを複数枚合わせることで、イメージの
解放と閉鎖を繰り返す。その行為によって一
つの静止したイメージが攪拌され、再び静止
していく過程で、様々なものの拮抗する力が
積み重なり、より緊張感が高まっていくこと
に興味を持っている。

研究業績

表層の冒険 - 抽象のミュトログアーギャラ
リー観(東京)
第1回中日現代版画展中国版画博物館(深圳)
現代日本版画展 国立ドゥブロンニク現代美術
館(クオアチア)
今日の版画・TEN - 10人の版画家がおくる
今と明日へのメッセージー
南魚沼市立今泉博物館(新潟)
第5回国際グラフィックアートトリエンナーレ
ソフィア(ブルガリア)
第12回具象版画展グランプリ
第55回版画展版画協会賞

社会活動

日本版画協会理事
版画学会会員
学生相談学会会員
日本美術家連盟会員



山中敏正

非常勤

生年月日

昭和32年生

略歴

昭和57年03月
千葉大学工学研究科工業意匠学修了
昭和57年04月
旭光学工業(株)(現リコー(株))工業デザイン
室デザイナー・研究員
平成02年10月
イリノイ工科大学デザイン方法論研究室特別
研究員
平成06年02月
筑波大学芸術学系講師
平成14年04月
デルフト工科大学工業デザイン学部特別研究員
平成17年03月
博士(感性科学)(筑波大学)
平成17年04月
筑波大学人間総合科学研究科教授
令和05年04月
筑波大学特命教授(数学マネジメント室長)
令和05年06月
筑波大学名誉教授

研究領域

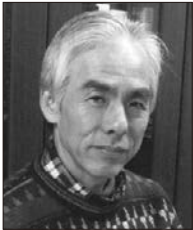
感性科学の研究とデザインプロセスにおける
感性評価、人間工学、認知科学などを用いた情
報・プロダクトデザイン方法の研究
デザイン教育の理論と実践

研究業績

学術論文・著書
LEVY Pierre, YAMANAKA Toshimasa,
Kasnei Studies Description and Mapping
through Kansei Study Keywords, Kasnei
Engineering International Journal vol.8 No.2,
Japan Society of Kansei Engineerig, 2009
Design is the Future: design discourse,
DPD: Degree Program in Design 2020-
2021, University of Tsukuba, 2021, ISBN:
9784910114149

社会活動

国際デザイン学会連合(IASDR)運営(会長:
2019~2023)
日本デザイン学会理事(会長:2012~2015)
グッドデザイン賞審査員(2001, 2003)
キッズデザイン賞審査員(2006~)
日本感性工学学会参与



吉岡正人

非常勤

生年月日

昭和28年08月15日生

略歴

昭和55年03月
 武蔵野美術大学造形学部油絵学科卒業
 昭和57年03月
 筑波大学大学院芸術研究科修了
 昭和60年04月
 埼玉大学教育学部講師
 昭和61年04月
 埼玉大学教育学部助教授
 平成04年08月
 文化庁芸術家在外研修員として渡伊（～平成05年08月）
 平成09年04月
 東京学芸大学大学院連合学校博士課程S教員併任（～平成31年03月）
 平成13年04月
 埼玉大学教育学部教授（～平成31年03月）
 平成24年04月
 日本大学芸術学部非常勤講師
 平成28年04月
 武蔵野美術大学非常勤講師（～平成31年03月）
 平成31年04月
 埼玉大学名誉教授
 平成31年04月
 早稲田大学理工学術院非常勤講師（～現在）

研究領域

専攻分野：絵画（洋画）
 主に卵テンペラと油彩による絵画作品を制作している。平面としての強さと美しさを求めており、その絵画性をもって深い精神性の追求を目的としている。古典から近代の絵画を研究し絵の具の扱い方と平面性の関係を研究している。

研究業績

二紀展に於いて文部科学大臣賞他受賞
 第3回前田寛治大賞展大賞受賞（1995年）
 個展「バラツツオペレトリオ」（イタリア1998年）
 個展「日本橋三越本店」（1991年より7回）
 「思い出のファンタジー二人展」（バラツツオペレトリオ国立美術館・イタリア）
 作品収蔵：文化庁、埼玉県立近代美術館他
 著書「モネ・名画に隠れた謎を解く」（中央公論新社・平成19年）他

社会活動

一般社団法人二紀会理事
 越生町教育委員会委員（平成7年～16年）



渡邊有葵

非常勤

生年月日

昭和56年09月05日生

略歴

平成16年03月
 日本大学芸学部美術学科卒業
 平成18年03月
 日本大学大学院芸術学研究科造形芸術専攻博士前期課程修了
 平成26年04月
 日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

色彩や線、絵肌や筆致が関係し合うバランスの中に絵画の可能性を探求している。スケッチを通して得た実感と絵画の構成要素について画面の持つ意味合いや視点の工夫について研究している。また、画家自身の皮膚とも言えるマチエール（絵肌）の研究を大切にしている。様々なものが繋がり合い関係し合っていて混沌している現実を枠におさめようとせず、あるがままに受けとめて絵画空間をつくるバランスの中に提示する。

研究業績

日本大学生産工学部賞（卒業制作賞）
 〔'06〕
 東京ワンダーウォール（東京都現代美術館）
 〔'06〕
 N+N展（練馬区立美術館）〔'10 '14〕
 CAFネビュラ展（埼玉県立近代美術館）
 〔'11 '16 '20〕
 第47回 昭和会展（日動画廊）〔'12〕
 個展（HIGURE17-15cas）〔'13 '22〕
 個展（NICHE GALLERY）〔'13 '15 '17〕
 第78回 新制作展（国立新美術館）損保ジャパン日本興亜美術財団賞〔'14〕
 第33回 上野の森美術館大賞展（上野の森美術館）〔'15 '16〕
 第79回 新制作展（国立新美術館）新作家賞〔'15 '18〕
 公募団体ベストセレクション美術（東京都美術館）〔'16〕
 第80回 新制作展（国立新美術館）絵画部賞〔'16〕
 その他個展、グループ展

社会活動

新制作協会会員
 CAF.N協会会員



渡部葉子

非常勤

生年月日

昭和36年08月18日生

略歴

昭和62年09月
 東京都美術館就職（学芸員）
 昭和63年03月
 慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程修了
 平成04年04月
 新美術館準備室に移り、平成07年03月東京都現代美術館開館に伴い同館学芸員となる。
 平成17年03月
 東京都現代美術館退職。
 平成18年04月
 慶應義塾大学アート・センター専任教員兼キュレーターとなり現在に至る。
 平成31年04月
 慶應義塾ミュージアム・コモンズ副機構長を兼任

研究領域

近現代美術史。特に1960年代末～1970年代初頭に研究的関心を置いているが、近年は展覧会史研究の観点から研究に取り組んでいる。慶應義塾大学アート・センター所管のアーカイブを通して、現代美術のアーカイブの問題にも関わり、アーカイブと展示やワークショップを結びつけた実践に取り組んでいる。また、美術館のマテリアルを教育に活かす方法論としてのObject Based Learningにも関心を広げ、その実践にも取り組んでいる。

研究業績

〔展覧会企画と出版〕『構造と記憶——戸谷成雄・遠藤利克・剣持和夫』（東京都美術館、1991年）
 『レボリューション／美術の60年代』（東京都現代美術館、1995年）
 『同時代の眼V プリンキー・パレルモ』（慶應義塾大学アート・センター以下KUAC、2015年）
 『東京ビエンナーレ'70 再び』（KUAC、2016年）
 『Standing Point 1 寺内 曜子』（KUAC、2017年）
 『河口龍夫 鯉呼吸する視線 [記録集]』（KUAC、2021年）
 『河口龍夫 無呼吸』（KUAC、2021年）

社会活動

美術史学会会員
 美学会会員
 日仏美術学会会員
 近現代建築資料館運営委員 他

Musical Arts



伊藤弘之

専任

生年月日
昭和38年04月01日生

略歴
昭和61年03月 山形大学教育学部卒業
昭和62年08月 東京音楽大学研究科中退
平成01年06月 カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部大学院修士課程修了(MAを得る)
平成06年09月 カリフォルニア大学サンディエゴ校音楽学部大学院博士課程修了(PhDを得る)
平成14年04月 日本大学芸術学部非常勤講師
平成22年04月 日本大学芸術学部教授

研究領域
作曲。「揺れるイメージ」「フラジャイルな美しさ」というコンセプトのもと、独奏、室内楽、合唱、オーケストラと多様な編成で作品を書いている。邦楽器を用いた作品もある。細部まで緻密に構成し四分音を多用する音響づくりが特徴的である。現代の記譜法の研究、作曲ツールとしてのコンピュータの使用、コンサートのプロデュース活動なども行っている。

研究業績
受賞歴: 芥川作曲賞、ヌオヴェシンクロニー国際作曲コンクール第1位、他
作品: オケストラのための「ミラー II」(サントリ音楽財団委嘱、新日本フィルハーモニー交響楽団により初演)、「弦楽四重奏曲」(武生国際音楽祭委嘱、アルディッチィ弦楽四重奏団により初演)、他多数
CD: 「伊藤弘之作品集:Swaying time, Trembling time」(ミュージックステイブ)、「伊藤弘之作品集:Swaying into Darkness」
「伊藤弘之合唱作品集」(フォンテック)、他
論文: 「Swaying Sensation and Fragile Beauty」 in *Music of Japan Today* (Newcastle: Cambridge Scholars Publishing, 2008), 6-11.

社会活動
芥川作曲賞選考委員
日本音楽コンクール(作曲部門) 審査員
武生国際作曲ワークショップ講師
アンサンブル・コンテンポラリーα副代表



大寺雅子

専任

生年月日
昭和49年02月12日生

略歴
平成08年03月 武蔵野音楽大学音楽学部音楽教育学科 卒業
平成12年08月 Florida State University, School of Music, Master's Program in Music Therapy (フロリダ州立大学大学院音楽学部音楽療法専攻修士課程・米国) 修了
平成19年03月 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻博士後期課程 修了
平成22年04月 東北大学大学院医学系研究科障害科学専攻音楽音響医学分野 助教
平成23年03月 放送大学大学院文化科学研究科文化科学専攻修士課程臨床心理学プログラム 修了
平成27年04月 四国大学短期大学部幼児教育保育科 准教授 四国大学学生相談室 相談室長
平成31年04月 日本大学芸術学部 准教授

研究領域
専門領域は臨床心理学と音楽療法。高齢者を対象とした音楽療法の事例研究や音楽療法をめぐる諸問題に関する理論研究を行ってきた。また、大学生を対象とした学生相談に携わった経験から、芸術系学生を対象とした心理的支援に関する研究に取り組んでいる。

研究業績
編著 医学的音楽療法—基礎と臨床— 平成26年07月 北大路書房
翻訳 対人援助のための受容的音楽療法 令和2年03月 北大路書房
論文 地方小規模私立大学に不本意入学した学生の不本意感にまつわる体験プロセス 令和元年11月 学生相談研究40(2)
論文 Clinical characteristics of home-based music therapy in supporting personhood in people with dementia. 令和2年09月 The Arts in Psychotherapy 70.

社会活動
臨床心理士、公認心理師、日本音楽療法学会認定音楽療法士、米国資格認定委員会認定音楽療法士(MT-BC)。米国音楽療法協会学術誌 Music Therapy Perspectives 編集委員。



川上 央

専任

生年月日
昭和43年08月08日生

略歴
平成14年03月 日本大学大学院芸術学研究科博士後期課程中退
平成24年04月 日本大学芸術学部教授

研究領域
音楽を中心とした芸術文化領域の拡張。異なる領域の技術や文化を活用し、音楽の新たな価値を生み出し社会に還元する。これまでの音楽の研究は作品分析や表現の領域が主であったが、現在は、音楽と他領域に活用し、新たな価値を見出す研究も盛んである。音楽だけにフォーカスするのではなく、社会の中で音楽がどのように存在し、どのような文化となっているのか、その価値について検討を行う。

研究業績
①音響学講座10「音響学の展開」、コロナ社(2021年)
②音響キーワードブック、コロナ社(2016年)
③製品音の快音技術、S&T 出版(2012年)
④感性をどう教えるか、桜門体育学研究、55.85-98(2020年)

社会活動
日本音楽知覚認知学会常任理事
日本音響学会のデザイン調査委員会委員



齋田正子

専任

生年月日
昭和33年09月25日生

略歴
昭和57年03月 東京芸術大学音楽学部声楽科卒業
昭和59年03月 東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
昭和63年04月 昭和音楽大学非常勤講師
平成04年03月 東京芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了(博士(音楽))
平成12年04月 日本大学芸術学部研究所助教授(非常勤)
平成20年04月 日本大学芸術学部任期制教授
平成30年04月 日本大学芸術学部教授

研究領域
学生からの研究テーマとして、修士課程ではヴェルディのオペラ、博士後期課程では19世紀イタリアバルカントオペラを取り上げ、オペラにおける発声法及び歌唱法について研究を続けている。国際文化教育交流財団の奨学生としてイタリアにて(1984~86)研鑽を積み日本における数々のオペラやコンサートへの出演を通じ、留学前からの課題としての現代における日本のオペラのあり方及び上演方法について、その発声法及び演奏法について研究を続けている。

研究業績
1. 第35回ミュンヘン国際音楽コンクール声楽部門第2位入賞他、国内外のコンクールにて入賞
2. エクソンモービル音楽賞奨励賞他数々の賞を受賞
3. 藤原歌劇団公演オペラ「椿姫」ヴィオレッタ役でデビュー後、数々のオペラコンサートに出演

社会活動
国際文化教育交流財団評議委員
日本演奏連盟会員
藤原歌劇団正団員
日本オペラ協会正会員



高久 暁

専任

生年月日
昭和37年11月14日生

略歴
昭和62年03月 東京大学理学部地学科卒業
平成元年03月 東京大学文学部第一類美学芸術学専修課程卒業
平成03年04月 東京芸術大学大学院音楽研究科修了
平成13年04月 日本大学芸術学部専任講師
平成21年04月 日本大学芸術学部教授

研究領域
西洋音楽史・演奏史。批判校訂版楽譜の作成も行う。過去に手掛けた研究主題として、近現代ギリシャ芸術音楽史研究、亡命移民ロシア人音楽家研究、日本での外来音楽家の活動に関する研究、近現代日本の作曲家研究、台湾および朝鮮半島での日本の音楽文化の影響についての研究など。またアジア諸国におけるピアノ文化に関心をもち、歴史的研究やフィールドワークを行っている。

研究業績
著書
『日本戦後音楽史』(平凡社・共著)
『青春の音楽・原田力男の仕事』(共著)
『篠原眞の電子音楽』(Engine Books・共著)
校訂・編集楽譜
ニコライ・メトネル『忘れられた調べ・第1巻』op.38(全音楽譜出版社)
マルク＝アンドレ・アムラン『コン・インティミッシモ・センチメント』(音楽之友社/Edition Peters)
訳書
サクセス『トスカニーニの時代』(音楽之友社)
ババーノ『回想・モスクワの音楽家たち』(音楽之友社)
クログ『ギリシャ近現代史』(新評論)

社会活動
日本音楽学会会員、東洋音楽学会会員、日本ギリシャ語・ギリシャ文学会会員
郭芝苑音楽協進會(台湾)理事、京都国際音楽コンクール顧問
音楽評論活動



田代幸弘

専任

生年月日
昭和33年06月15日生

略歴
昭和57年03月 日本大学芸術学部音楽学科卒業
昭和59年04月 日本大学芸術学部副手
昭和63年04月 日本大学芸術学部助手
平成05年04月 日本大学芸術学部専任講師
平成11年04月 日本大学芸術学部助教授
平成19年04月 日本大学芸術学部教授

研究領域
ピアノ奏法および教育法の研究
バロックでは、バッハ、古典派では、ハイドン、ベートーヴェン、ロマン派では、ショパン、シューマン、ブラームス、近・現代では、ラフマニノフ、スクリャーピン、ドビュッシー、ラヴェルの楽曲を研究し、様式感、心理的高揚の表現法を探究する。ピアノ、ソロ曲に限らず、室内楽曲にまで幅を広げている。

研究業績
・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成04年11月 FM東京ホール
・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成11年12月 ルーテル市ヶ谷センター
・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成17年12月 IMAホール
・田代幸弘ピアノ・リサイタル 平成19年11月 オペラシティ・リサイタルホール
・オデッサ第6回室内楽フェスティバル2台ピアノ・リサイタル 平成25年11月

社会活動
・公益財団法人日本ピアノ教育連盟監事
・北関東コンクール審査委員長
・国際デュオ協会理事
・日本演奏連盟会員
・練馬演奏協会会員



萩原貴子 (緒方貴子)

専任

生年月日
昭和45年09月25日生

略歴
平成06年03月 東京芸術大学音楽学部器楽科卒業
平成03年06月 ミュンヘン音楽大学中退
平成09年03月 東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
平成09年09月 武蔵野音楽大学非常勤講師
平成12年04月 東京芸術大学非常勤講師
平成12年04月 洗足学園音楽大学非常勤講師
平成27年09月 日本大学芸術学部非常勤講師
平成28年04月 日本大学芸術学部教授
平成28年04月 洗足学園音楽大学客員教授

研究領域
フルート奏法及び、フルート教育法研究。バロックから現代までの幅広いレパートリーに対応した演奏表現の実践。
“人の心に響く”“音を出す”ということが何であるか、特に、管楽器奏法の基礎である呼吸法、物理的に理にかなった体の動かし方と結びつけることを研究テーマにしている。

研究業績
第61回日本音楽コンクールに於いて、当時史上最年少優勝。加藤賞受賞。ソリストとして国内外の主要オーケストラや演奏家とコンチェルトや室内楽を演奏する。
CD 美空ひばりオン・フルート『愛燦燦』(日本コロムビア)
CD カルメンファンタジー2001(日本コロムビア)
CD モーツァルトフルート四重奏曲集 with ギルツブルク・モーツァルトテウム弦楽四重奏団〜トルコ行進曲〜(日本コロムビア)
CD アジアに吹く風(NHK-BSサウンドトラック)など録音活動は全24枚に及ぶ。
バンドジャーナル連載
ワンポイントレッスン

社樹活動
全日本学生音楽コンクール審査員
全日本吹奏楽コンクール審査員
大学評価・学位授与機構音楽部会委員
アジアフルート連盟理事



三戸勇気

専任

生年月日
昭和53年08月11日生

略歴
平成13年03月 日本大学芸術学部音楽学科卒業
平成15年03月 日本大学大学院芸術学研究科音楽芸術専攻修士課程修了
平成18年03月 日本大学大学院芸術学研究科芸術専攻博士課程修了(芸術学博士 取得)
平成18年04月 文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業 ポスト・ドクトラル・フェロー
平成22年04月 一橋大学大学院法学研究科情報技術助手
平成24年04月 日本大学芸術学部助教授
平成27年04月 日本大学芸術学部専任講師
平成31年04月 日本大学芸術学部准教授
令和04年04月 日本大学芸術学部教授

研究領域
音楽心理学をベースとした音の研究。
音楽の演奏における感情表現は、演奏において重要なポイントのひとつである。しかし、研鑽過程の演奏家では、この「感覚」を理解できないことが少なからず生じている。そこで、「感情」と、その感情を表現する「動作」、そしてそこから表出される「音」の関係を検討することにより、誰もがより良い演奏を目指していくための指標を提示し、演奏音そのものをデザインする契機となると考えた。その研究成果から今後の演奏音をデザインする過程までを検討を行う。

研究業績
・「モーションキャプチャを用いた演奏動作計測」、日本音響学会誌、77巻9号、2021
・「映画のシーンごとの音楽の要素と感情の分析」、日本音楽知覚認知学会2020年度秋季研究発表会、2020

社会活動
・日本音響学会 音のデザイン分野 委員
・日本音楽知覚認知学会 幹事

Musical Arts



吉野大輔

専任

生年月日
昭和50年08月16日生

略歴
平成10年03月 中央大学文学部教育学科心理学コース卒業
平成12年03月 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了
平成15年03月 日本大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程修了
平成15年04月 電気通信大学SVBL中核的研究機関研究員
平成17年04月 日本大学文理学部情報科学研究所ポスト・ドクター
平成21年04月 日本大学若手特別研究員
平成23年04月 埼玉医科大学神経精神科心理士
平成24年03月 放送大学大学院文化科学研究科臨床心理学プログラム修了
平成24年04月 日本大学芸術学部非常勤講師
平成29年04月 日本大学芸術学部准教授
令和03年04月 日本大学芸術学部教授

研究領域

実験心理学領域にて研究を行ってきたが、臨床心理学領域に転じてからは多くの心理相談業務に携わってきた。芸術表現と心理的な成長、心身症状の回復を研究テーマとしている。最近には特に意識と無意識のゆらぎ、洞察の過程、物語の役割に焦点を当てている。

研究業績

- ・Yoshino, D., Kimura, A., & Noguchi, K. Visual Illusion and Aesthetic Preference Have a Common Perceptual Structure: Prägnanz Tendency. Gestalt theory, 31, pp29-42, 2009.
- ・Yoshino, D., Idesawa, M., Kanazawa, S., & Yamaguchi, KM. Infant perception of the rotating Kanizsa square. Infant behavior and development, 33 pp196-208, 2010.
- ・自閉スペクトラム症における身体感覚への気づきの困難さに関する一考察 ～感覚統合不全がもたらす区切りのない世界と自我境界の不安定さ～ 日本大学芸術学部紀要 71, 75-80, 2020.

社会活動

臨床心理士・公認心理師・産業カウンセラー
山王教育研究所・監事
放送大学臨床心理学研究会評議員・監事



吉田行地

専任

生年月日
昭和43年10月15日生

略歴
平成03年09月 早稲田大学第一文学部中途退学
平成08年07月 洗足学園音楽大学附属指揮研究所修了
平成12年04月 洗足学園音楽大学非常勤講師
平成17年04月 桐朋学園大学非常勤講師
令和02年04月 日本大学芸術学部客員教授
令和03年04月 日本大学芸術学部准教授

研究領域

オーケストラ、吹奏楽、合唱などの指揮法と教育法の研究。様々なオーケストラや吹奏楽団を客演指揮。近年はアニメのオーケストラコンサートなどジャンルを問わない幅広い活動を通して、新たな指揮法を探求している。

研究業績

NHK アニメ「青のオーケストラ」オーケストラ音源録音
DVD 京都アニメーション「ヴァイオレット・エヴァーガーデン」オーケストラコンサート2021
DVD 榎原敬之オーケストラコンサート2005
札幌交響楽団「古典派三代作曲家の夕べ」
大阪フィルハーモニー交響楽団「ニューイヤーコンサート」2011

社会活動

2015全日本吹奏楽コンクール全国大会審査員



脇岡洋平

専任

生年月日
昭和55年08月08日生

略歴
平成11年03月 東京藝術大学音楽学部器楽科卒業
平成19年03月 国立ベルリンハンス・アイスラー音楽大学卒業
平成22年06月 国立ベルリンハンス・アイスラー音楽大学大学院コンツェルト・イグザーメン課程修了(国家演奏家資格取得)
平成23年08月 ハンガリーリスト音楽院パートタイム課程修了
平成25年04月 東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校非常勤講師
平成31年04月 日本大学芸術学部非常勤講師
令和03年04月 日本大学芸術学部准教授

研究領域

バロックから近代まで、幅広くピアノ演奏における演奏法や解釈を研究する。バロック時代の作品では、ポリフォニックな作品を、いかにして現代のピアノで魅力的に響かせるか、というテーマを、当時の時代背景や演奏習慣を土台としつつ、現代的なピアノ奏法のアプローチで再構築する。また、リスト、ラフマニノフなど、ピアノテクニクの新境地を切り開いたピアニスト作曲家におけるヴィルトゥオーゾ奏法の研究を行い、人の奥深い精神とタッチの繋がりを探る。

研究業績

- ・日本音楽コンクールを始め、カラブリア、ポルトなど、数々の国内外のコンクールで入賞を重ねる。
- ・東京文化会館小ホール、フダベストリスト博物館ホールリサイタル
- ・紀要論文「バタレフスキ版とエキエル版の記譜上の相違点から導かれる演奏表現—ショパン(バラード第1番ト短調)作品23を例として—」
- ・CD 『2台ピアノによる『海』『牧神の午後へ』の前奏曲』『夜想曲』

社会活動

練馬演奏家協会運営委員
(公財)日本ピアノ教育連盟オーディション運営委員
日本クラシック音楽コンクール、日本演奏家コンクール、ピティナピアノコンペティション、日本パッサコンクール、ドビュッシー国際コンクール等コンクールやオーディション審査員



今泉 久

非常勤

生年月日
昭和28年08月27日生

略歴
昭和51年03月 日本大学芸術学部音楽学科卒業
昭和53年03月 日本大学芸術学部芸術研究所修了
昭和58年04月 日本大学芸術学部助手
昭和63年04月 日本大学芸術学部専任講師
平成08年04月 日本大学芸術学部助教授
平成18年04月 日本大学芸術学部教授
平成31年04月 日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

指揮と打楽器を研究領域とする。指揮についてはこれまでオーケストラ、吹奏楽、オペラ、打楽器アンサンブル、フルートオーケストラ、合唱等の指揮活動を行ってきた。打楽器については独奏曲、打楽器合奏曲、オーケストラ等の打楽器パートの演奏法の研究をしている。「今泉久とパーカッション・グループ「打弾打団」」を主宰している。

研究業績

演奏会
第2回打楽器リサイタル
練馬文化センター小ホール 1987
新星日本交響楽団演奏会
五反田ゆうほうとホール 1994
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団特別演奏会 新宿文化センター大ホール2002
今泉久とパーカッション・グループ「打弾打団」演奏会 浜離宮朝日ホール 2004
フランス近代の室内管弦楽の愉しみ
石橋メモリアルホール 2004

社会活動

日本管打・吹奏楽学会会員
吹奏楽コンクール審査員
日本クラシック音楽コンクール審査員



岩宮眞一郎

非常勤

生年月日

昭和27年11月22日生

略歴

昭和50年03月
九州芸術工科大学芸術工学部音響設計学科卒業
昭和52年03月
九州芸術工科大学芸術工学専攻科音響設計学専攻修了
昭和52年05月
九州芸術工科大学芸術工学部助手(音響設計学科)
平成03年01月
九州芸術工科大学芸術工学部助教授(音響設計学科)
平成10年04月
九州芸術工科大学芸術工学部教授(音響設計学科)
平成15年10月
九州大学大学院芸術工学研究院教授(音響部門)
平成30年04月
九州大学名誉教授、日本大学芸術学部特任教授
令和05年04月
日本大学大学院芸術学研究科非常勤講師

研究領域

音の主観的印象と音の物理特性の関係の体系化、テレビや映画などの映像作品における音が果たす役割、音と映像の調和感をもたらす要因、メッセージを伝えるサイン音のデザイン手法、製品音の快適化、音環境と人間の関わり、日本の音文化の特徴、音のプロフェッショナルに必要な聴能形成訓練に関する研究に取り組んできた。音が人間の感性にアピールするチカラを解明したいと思っている。

研究業績

音のデザインー感性に訴える音をつくるー(九州大学出版会、2007)
音楽と映像のマルチモーダル・コミュニケーション 改訂版(九州大学出版会、2011)
音のチカラを感じる、楽しむ、そして活かすー(コロナ社、2018)
音と音楽の科学(技術評論社、2020)
音楽の仕組みと科学(秀和システム、2020)
映像サウンドデザインの基本(秀和システム、2023)

社会活動

日本音響学会評議員
日本音楽知覚認知学会監事



江間孝子

非常勤

生年月日

昭和31年01月05日生

略歴

昭和53年03月
国立音楽大学教育音楽学科第Ⅱ類リトミック専攻卒業
昭和53年07月～平成15年03月
国立音楽大学音楽教室講師
昭和55年03月
国立音楽大学大学院音楽研究科音楽教育学専攻修士課程修了(芸術学修士)
昭和59年09月～昭和64年03月
日本幼児教育専門学校(ヒューマンライク総合学園)非常勤講師
平成05年04月～平成06年03月
聖学院大学人文学部児童学科非常勤講師
平成06年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成13年04月～平成20年03月
江原音楽療法専門学校非常勤講師
平成14年04月～平成22年03月
聖学院大学人間福祉学部児童学科非常勤講師

研究領域

ジャック＝ダルクローズの音楽教育(リトミック)を理論実践両面から研究。日本へ導入された経緯及び当時の指導の様子等歴史的背景も探求。日本人特有の音楽と動きの関連について考察する為、フィールドワークに基づく民俗学的研究を実施。他、物語にピアノ曲を多数作曲し、語り手とのコラボを各所で開催

研究業績

共著
リトミック12か月(チャイルド本社)音楽基礎研究文献集全18巻別巻解説(大空社)
論文
リトミック教育の概念に関する諸問題「リトミック教育の現在」平成15年(開成出版)、埼玉県狭山市入曽の獅子舞における音楽と身体運動の関連について1、2『国立音楽大学大学院研究年報』第18、19号平成18、19年、小林宗作による「J＝ダルクローズ教育思想の捉え方に関する一考察」リトミック教育研究』平成27年(開成出版)

社会活動

日本音楽教育学会会員
日本ダルクローズ音楽教育学会会員



笠羽映子

非常勤

生年月日

昭和24年06月25日生

略歴

昭和47年03月
東京芸術大学音楽学部楽理科卒業
昭和51年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
昭和56年03月
パリ第4大学音楽学研究科博士課程修了
昭和58年04月
早稲田大学社会科学部専任講師
昭和60年04月
早稲田大学社会科学部助教授
平成02年04月
早稲田大学社会科学部教授
令和02年04月
早稲田大学名誉教授

研究領域

西欧近・現代の芸術音楽史及び作品研究
ドビュッシーからプーレーズに至るフランスの作曲家の作品研究及び音楽思想の研究を軸に、幅広く西欧音楽芸術の変遷を考察しつつ、日本における音楽芸術の諸問題や芸術・文化の国際交流なども探究している。

研究業績

学術論文
《La musique de Debussy au Japon》(Cahiers Debussy No 10)
《Retour sur Le Martyre de Saint Sébastien》(Cahiers Debussy No 24)
Claude Debussy、《Le Martyre de saint Sébastien》(Œuvres Complètes de Claude Debussy, SérieVI, volume 4, édition de Pierre Boulez et Eiko Kasaba, Éditions Durand, 2009)
訳書
ドビュッシー「ドビュッシー書簡集」ルシュール「伝記クロード・ドビュッシー」(以上音楽之友社)
ストラヴィンスキー「音楽の詩学」(未來社)
プーレーズ/ケージ「往復書簡」(みすず書房)他

社会活動

日本音楽学会会員
Société Française de Musicologie 会員



北岡晃子

非常勤

生年月日

昭和41年09月08日生

略歴

平成02年05月
テキサスクリスト教大学音楽学部ピアノ科卒業
平成02年09月～平成03年09月
カリフォルニア大学ロスアンゼルス校(UCLA)大学院音楽学部修士課程在籍
平成04年05月
南カリフォルニア大学大学院音楽学部修士課程修了
平成12年04月～平成13年03月
仁愛女子短期大学非常勤講師
平成12年05月
ボストン大学大学院音楽学部音楽芸術博士課程修了
平成15年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成21年04月
宮城大学共通教育センター准教授
平成24年04月
東京福祉大学准教授

研究領域

芸術に関する英語文献を解読して、音楽作品の創作、表現、技術、鑑賞、評論を研究する。日常から、音楽学、理論、音楽教育、情報音楽、音楽療法など、音楽家としての知識・教養を与えるものから作品分析や演奏解釈まで、幅広い内容と多様な形式の英語文献に触れ、通訳・翻訳も数多く手がける。特にピアノ音楽の研究講演と演奏に力を注ぎ、国内外で活動している。

研究業績

論文「Study of Beethoven's String Quartet Op.131 No.1.」
「The Piano Works of Akio Yashiro」
ブラソスバリー交響楽団演奏会「モーツァルトピアノ協奏曲」

社会活動

日本ピアノ教育連盟中央運営委員
日本音楽学会会員
Pi Kappa Lambda会員
国際ピアノデュオ協会会員

Musical Arts



佐々木 伸

非常勤

生年月日
昭和31年01月06日生

略歴
昭和53年03月
武蔵野音楽大学卒業
昭和55年07月
藤原歌劇団入団
第20回日伊声楽コンクール(東京)1位入賞後
ミラノに6年間在住
平成03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成20年
洗足学園音楽大学非常勤講師

研究領域
演奏家育成のための歌唱法指導を研究領域とするため、学生を数々の演奏会へ招致するなど、より実践的な指導を実施する。また門下生にはコンクールにて入賞等の実績を収める。演奏家育成に際し、学生個々の特性を活かした5段階の歌唱法指導が必要と考え、基礎部としての呼吸法の見直しにはじまり、それぞれの芸術性と個性を観客に理解してもらうための演奏法及び舞台マナーまでを教示する。28年間の歌唱法指導の経験に基づき、自身執筆論文でも取り上げた、イメージ伝達指導法も交えながら、学生育成に努める。

研究業績
第20回日伊声楽コンクール(東京)1位入賞。イタリアにてベニア・ミーノ・ジューリ国際コンクール2位入賞及びTV・ラジオ等に出演。オペラ「蝶々夫人」にタイトルロール出演等、オペラ公演に多数出演。論文「声楽家育成における発声テクニックのイメージ伝達」。門下生のコンクール実績一部抜粋:全日本学生音楽コンクール入選・日本クラシック音楽コンクール入賞/入選・日本声楽コンクール入選/読売新人演奏会出演等。

社会活動
藤原歌劇団団員
日本クラシックコンクール審査員



田村由貴絵

非常勤

生年月日
昭和46年2月5日生

略歴
平成06年03月
お茶の水女子大学文教育学部外国文学科フランス文学専攻卒業
平成10年03月
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業
平成13年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科声楽専攻終了(修士)
平成27年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
修士論文のテーマは「ゲーテの『若きウェルテルの悩み』とマスネの『ウェルテル』」であった。これまでドイツ語とフランス語の声楽曲全般に興味をもって歌ってきた。バロック時代から現代にいたるまでの歌曲、オラトリオ、オペラなどの声楽曲に興味の中心を置いている。それらの経験を活かしドイツ語、フランス語の声楽曲を研究のテーマとしている。自然な発声法と発語、そしてその教育についても重要なテーマである。

研究業績
二期会ニューウェーブオペラ「ジュリアスシーザー」タイトル・ロール
二期会「コジ・ファン・トゥッテ」宮本亜門演出ドラベッラ役
新国立劇場「フルキユレ」「神々の黄昏」出演など。
オラトリオやカンタータなど声楽曲でのソロistとしての出演も多数。

社会活動
二期会会員
日本声楽家協会アカデミー会員



袴田和泉

非常勤

生年月日
昭和31年12月12日

略歴
昭和54年03月
東京芸術大学音楽学部器楽科卒業
昭和56年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
昭和60年08月
ハンガリー国立リスト音楽アカデミー修了(政府給費留学生)
昭和63年02月
ドイツ国立フライブルグ音楽大学大学院アウフバウⅡソリストコース修了
平成03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成11年04月
熊本大学助教授(平成19年に准教授に配置換)
平成20年08月
熊本大学教授
平成31年04月
熊本大学大学院教授

研究領域
バロックから近現代に至る幅広いピアノ曲(室内楽を含む)の演奏法及び、教育法。楽譜から読み取った内容を音によって表現し、いかかにして楽曲の真髄に近づけるかを求め続けている。スクリャービンの作品には特に心を惹かれ、作曲語法の変遷を辿る演奏会を開催している。また近年はモーツァルトの演奏にも高い評価を得ている。

研究業績
ハンガリー、ドイツ、スイス、フランス各地で多数のソロリサイタル及び、室内楽の演奏会に出演。
袴田和泉ピアノリサイタル “スクリャービンの人生と音楽追ってVol.1～Vol.6”
南西ドイツ放送、スイスロマン放送の出演
CD「時を超えて響くピアノ」ベルウッド

社会活動
日本演奏連盟会員
公益財団法人日本ピアノ教育連盟会員
全日本ピアノ指導者協会会員
九州音楽コンクール審査員
熊本県新人演奏会実行委員会委員



原田 圭

非常勤

生年月日
昭和51年07月11日生

略歴
平成12年03月
東京芸術大学音楽学部声楽科卒業
平成15年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
平成20年03月
東京芸術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了(博士(音楽))
平成23年04月
東京芸術大学声楽科教育研究助手
平成23年04月
上野学園大学非常勤講師
平成25年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成26年04月
東京芸術大学声楽科非常勤講師
平成29年04月
千葉大学教育学部音楽科非常勤講師

研究領域
オペラにおいてはモーツァルトの作品を主軸にその歌唱法、舞台表現を研究。歌曲においてはドイツ歌曲、日本歌曲を中心に歌と語りの関係を重視し、その表現法を研究。オラトリオ作品においてはバッハ、ヘンデル等のバロックから現代まで、多くの宗教的作品の演奏様式とその歌唱表現について研究。

研究業績
大学在学中に安宅賞受賞。東京文化会館新進音楽家オーディション声楽部門合格。ウィーンにおいてリサイタル開催(シューベルト歌曲集「冬の旅」全曲)。第16回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位入賞、中田喜直賞受賞。第77回日本音楽コンクール声楽部門入選。新国立劇場「黒船」、東京二期会「魔笛」、日生劇場「夕鶴」等のオペラや「第九」、「レクイエム」、「受難曲」等のソリストとしても多数出演している。
CD モーツァルト「ドン・ジョヴァンニ」(オクタヴィア・レコード)
CD 間宮芳生「ニホンザル・スキトオリメ」(第17回佐川吉男音楽賞受賞)(オクタヴィア・レコード)
CD 信時 潔「海道東征」(キングレコード、オクタヴィア・レコード)

社会活動
東京二期会会員、榎本文化財団出演者選考委員



平野 昭

非常勤

生年月日

昭和24年09月21日生

略歴

昭和54年03月
 武蔵野音楽大学大学院音楽研究科音楽学専攻修了
 昭和54年04月
 武蔵野音楽大学音楽学科学研究員
 昭和56年04月
 武蔵野音楽大学教育文化研究所助手
 平成元年04月
 尚美学園短期大学講師・翌年助教授
 平成08年04月
 沖縄県立芸術大学音楽学部助教授
 平成11年04月
 沖縄県立芸術大学大学院音楽芸術研究科教授
 平成12年04月
 静岡文化芸術大学文化政策学部教授
 平成21年04月
 静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科長
 平成23年04月
 慶應義塾大学文学部美学美術史学教授

研究領域

西洋音楽史学及び美学。音楽学全般と音楽評論。専門研究対象は18世紀及び19世紀の音楽様式変遷、とりわけ古典派とロマン派の器楽作品の様式研究。J.S.バハから新ウィーン楽派にいたるドイツ・オーストリアの音楽史を作品研究だけではなく、社会的観点から音楽受容史と文化史の脈絡で読み直している。ベートーヴェン研究を生涯課題とし、特に交響曲、弦楽四重奏曲、ピアノソナタ創作に共通する表現語法と理念を探究したい。

研究業績

編著訳書：『音楽キーワード事典』（春秋社）
 『ベートーヴェン』（新潮社）、「鳴り響く思想：現代のベートーヴェン像」「ベートーヴェン事典」（東京書籍）、「ベートーヴェン大事典」（平凡社）、「人と作品：ベートーヴェン」（音楽之友社）他。
 論文：「19世紀のベートーヴェン受容：楽譜出版から見えてくるもの」、「21世紀のベートーヴェン像：新しい評伝の可能性」、「もうひとつのディアベリ変奏曲」、「ベートーヴェン神話の形成とその音楽」。

社会活動

日本音楽学会会員、国際音楽学会会員、日本18世紀学会会員、三田芸術学会会員。浜松市楽器博物館運営協議会委員、日本製鋼文化財団洋楽委員、芸術文化振興基金専門委員、神奈川県芸術文化プログラム委員、音楽評論活動。



ニツ木千由紀

非常勤

生年月日

昭和45年11月13日生

略歴

平成05年03月
 東京藝術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業
 平成07年03月
 東京藝術大学大学院音楽研究科器楽専攻修士課程修了
 平成11年09月
 青山学院女子短期大学児童教育学科特別講師（平成17年度までと、平成29、30年度まで）
 平成18年9月
 青山女子短期大学子ども学科非常勤講師（平成26年度まで）
 平成17年04月
 東京藝術大学音楽学部藝大フィルハーモニア管弦楽団演奏講師
 令和05年04月
 洗足学園音楽大学非常勤講師

研究領域

独奏、室内楽、オーケストラにおいて打楽器全般の演奏法・演奏表現・音色研究を基盤のテーマとして、古典から現代までの作品研究。他の楽器とのアンサンブル研究。
 オーケストラ作品・他の器楽作品を題材にしたマリンバアンサンブル表現。
 幼児音楽教育において、声楽と打楽器を連携させた合奏研究。

研究業績

パーカッションリサイタル/ルネ小平
 マリンバデュオリサイタル/ Sonorium、MUSICASA、ルネ小平
 オーケストラ/藝大定期各演奏会、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等室内楽/パーカッションミュージアム、彩の国さいたま芸術劇場光の庭プロムナードコンサート(オルガンとの共演)等
 CD/JPCアンサンブルコレクション15th アンバーサリー、2021、久石譲 WORKS III、読売日本交響楽団「アッジジの聖サンフランチェスコ」等 他CM等、録音多数
 著書/いちばんやさしいマリンバレッスン、マリンバスケールレッスン(オンキョウパブリッシュ社)

社会活動

全日本吹奏楽コンクール審査員
 日本打楽器協会新人演奏会審査員



本田聖嗣

非常勤

生年月日

昭和45年12月30日生

略歴

平成05年03月
 東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業
 平成10年06月
 パリ国立高等音楽院ピアノ科
 室内楽科ともにブルミエプリにて卒業
 平成28年04月
 日本大学芸術学部非常勤講師
 令和05年04月
 東京都立総合芸術高校講師

研究領域

ピアノ音楽、奏法の研究を中心に、クラシック音楽や西洋史等の幅広い歴史・文化史の研究を行い、人間にとっての芸術がなにをもたらしてきたか、これからどこへ向かうかを探る。演奏も物理学・生理学的側面からの分析と、美的アプローチの両面から、コミュニケーション芸術としての演奏を成立させる演奏家の立ち位置を日々研究している。

研究業績

平成6年フランス・メドックアキテーヌ国際ピアノコンクール審査員長賞受賞
 平成8年イタリア・サレルノ市国際ピアノコンクール最高位(1位なしの2位)受賞
 平成16年(CD) 馥郁たるパリの香り1
 平成19年(CD) 馥郁たるパリの香り2
 令和2年(CD) あなたなんか愛していない(フランス歌曲アルバム)
 令和3年(CD) ふるさとの歌。こころの歌。(唱歌・歌曲・オペラアルバム)
 平成15年(CD) FF VIIピアノコレクションズ

社会活動

日本演奏連盟会員
 クラシックラジオ OTTAVA プレゼンター
 オペラ紅白歌合戦〜声魂真剣勝負 司会
 日本クラシックコンクール審査員
 ヤマハジュニアピアノコンクール審査員
 耕心館ピアノコンテスト審査員



松本 明

非常勤

生年月日

昭和34年12月31日生

略歴

昭和59年03月
 東京芸術大学音楽学部器楽科卒業
 昭和61年03月
 東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了
 平成02年04月
 日本大学芸術学部非常勤講師
 平成18年04月
 川村学園女子大学教育学部非常勤講師

研究領域

ピアノ奏法の研究特にベートーヴェンからリスト、その後の19世紀後半から第2次大戦のころまでの奏法の発展過程を注視しそれを現代の演奏に生かしていく方法を探究している。
 19世紀に盛んに出版された指の技術を高めるための数多くの教本を研究することによってピアノ奏法の体系的な技術の習得を目指している。
 特にベートーヴェン、シューベルト、リスト、ドビュッシーを中心にその作品の分析と演奏方法について研究を行っている。

研究業績

東京文化会館小ホールにおいて計15回のピアノソロリサイタル。他室内楽のコンサート出演多数。
 雑誌「ムジカノーヴァ」「レッスンの友」にピアノ奏法についての執筆多数。
 紀要論文「幼児教育学生のピアノ演奏技術向上についての考察」(川村学園女子大学紀要第28巻3号2017年3月)

社会活動

日本ピアノ教育連盟会員
 全日本ピアノ指導者協会正会員
 国際ピアノデュオ協会監事
 栃木県ピアノコンクール審査員
 ビティナピアノコンペティション審査員
 教育連盟ピアノオーディション審査員
 日本クラシックコンクール審査員

Musical Arts



楊麗貞 (蛭子麗貞) 非常勤

生年月日

昭和24年03月07日生

略歴

昭和46年03月
桐朋学園大学音楽学部卒業
昭和49年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成03年04月
桐朋学園大学音楽学部非常勤講師
平成05年04月
日本大学芸術学部研究所教授(非常勤)
平成22年04月
日本大学芸術学部任期制教授
平成31年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域

古典から近現代まで幅広い音楽の研究に取り組んでいる。その中でロマン派音楽、特にショパンにおいては、大半の曲を演奏会で取り上げ思考を重ねている。演奏するにあたり、それぞれの作曲家の生きて来た背景、音楽感を考えてみる。また、実際の演奏上の奏法、レガート、強弱、ニュアンス、美しい音色、タッチ、充実感のある音、歌心…と、ピアノの可能性を十分に引き出す魅力ある演奏を追求していきたい。

研究業績

第36回日本音楽コンクール第1位
第1回日本ショパン協会賞受賞
リサイタル
東京文化会館、紀尾井ホール、カザルスホール、
N響、都響、読響、日本フィル、新日フィル、東
フィル等主要オーケストラと共演
公開講座開催
CD「ショパン名曲集」 ビクター
CD「24の前奏曲」 アートユニオン
CD「ワルツ集」 キング
CD「ショパンアルバム」 ライヴノート
CD「ショパン、4つのバラード」 ライヴノート

社会活動

日本音楽コンクールを始め、各コンクール・
オーディション審査員
毎年チャリティコンサートを企画、出演
日本演奏連盟会員
(公財)日本ピアノ教育連盟会員
日本ショパン協会理事

Performing Arts



奥山 緑

専任

生年月日
昭和37年06月07日生

略歴
昭和61年03月
お茶の水女子大学文教育学部教育学科
教育学専攻教育心理専修卒業
昭和61年04月
株式会社西武百貨店入社。銀座センソ劇場勤務。
西武百貨店退職後、翻訳業開始。
平成07年05月 舞踏・山海塾制作
平成10年09月
コロンビア大学ティーチャーズ・カレッジ
アーツ・アドミニストレーション・プログラム
修士課程留学(11年08月同課程退学)
平成11年11月
有限会社アムアーツ創立(現在非常勤)
平成16年04月
財団法人神奈川芸術文化財団演劇部門プロ
デューサー
平成18年04月
財団法人せたがや文化財団入社。世田谷パブ
リックシアター制作課長、制作部長を経る(平
成22年06月退職)
平成14年04月以降日本大学芸術学部演劇学
科、早稲田大学第一・二文学部、多摩美術大学
造形表現学部映像演劇学科、玉川大学芸術学
部パフォーミングアーツ学科で非常勤講師を
務める。
平成31年04月日本大学芸術学部教授

研究領域
演劇・舞踊企画制作プロデュース。舞台芸術マ
ネジメント。人口縮小社会における舞台芸術。

研究業績
「ジャポニスム」現代演劇部門コーディネーター
1万人のゴールドシアター2016 金色交響曲
プロデューサー
世田谷パブリックシアター「現代能案集」シリー
ズ制作
『親指ごそう』プロデュース
太陽劇団公演招聘コーディネーター
舞踏・山海塾制作
共著「アート・プロデュースの現場」(論創社)

社会活動
日本芸術療法学会/日本アートマネジメント
学会
(公財)埼玉芸術文化振興財団 理事



小沢 徹

専任

生年月日
昭和55年04月06日生

略歴
平成15年03月
日本大学文理学部体育学科卒業
平成17年03月
日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士前
期課程修了
平成20年03月
日本大学大学院文学研究科教育学専攻博士後
期課程修了
平成22年04月
日本大学芸術学部助教
平成25年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成30年04月
日本大学芸術学部准教授
令和04年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
運動生理学、健康科学。脳波を用いて、アス
リートの脳活動やタイミング調節に関与する
脳活動の研究を行ってきた。現在では、大学生
における身体活動と身体組成および機能の関
係について研究を行っている。

研究業績
・体育実技授業が大学生の非認知能力に与え
る影響 日本大学芸術学部芸術研究所紀要
2021年号
・体育実技授業による受講生の疲労度とスト
レスの検討 日本大学芸術学部紀要 72
・若年者における立ち上がりに関連する要因
の検討 日本大学芸術学部紀要 70
・大学生における現在の体格と理想の体格の
調査 日本大学芸術学部紀要 66
・日本舞踊における「腰」に関する動作の考
察 - スポーツ動作との比較 - 日本大学芸
術学部紀要 59

社会活動
日本健康行動科学会評議員
Society for Neuroscience 会員
舞踊学会会員



小林直弥

専任

生年月日
昭和44年07月10日生

略歴
平成04年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成04年04月
日本大学芸術学部演劇学科補助員
平成08年03月
日本大学大学院芸術学専攻舞台芸術専攻修了
平成08年04月
日本大学芸術学部副手
平成12年04月
舞踊文化研究所主任研究員
平成14年03月
日本大学大学院芸術学専攻舞台芸術専攻
満期退学
平成14年04月
日本大学芸術学部助手(助教)
平成18年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成21年04月
日本大学芸術学部准教授
平成26年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
日本の演劇史及び芸能史、また民俗芸能の立
場から日本芸能や日本舞踊をはじめとする我
が国の舞踊文化について研究している。また、
中国や韓国をはじめ、広くアジアの舞踊、芸
能との身体的かつ歴史的な観点からの比較研究
や実践的な文化交流を行いながら、これからの
日本の舞踊文化における創作舞踊領域の可
能性について実践的な作品創作も行いながら
研究している。

研究業績
論文『日本における舞踊文化概念から創作する
舞踊とは何か - 近代舞踊創作の方法論からの
考察 -』日本大学芸術学部芸術研究所紀要通
巻120号

社会活動
舞踊学会理事
日本演劇学会会員
民族芸術学会会員
藝能学会会員
日本舞踊協会会員
日本舞踊振興財団会員



櫻井 歓

専任

生年月日
昭和47年07月02日生

略歴
平成08年03月
東京大学教育学部教育学科教育学コース卒業
平成11年03月
東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専
攻教育学コース修士課程修了
平成16年03月
東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専
攻教育学コース博士課程満期退学
平成17年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成20年04月
日本大学芸術学部准教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授

研究領域
近代日本の思想・哲学のテキストより、人間
形成(人格の発達や変容、教育)の思想を読み
解く研究を続けている。とりわけ西田幾多郎
(1870-1945)のテキストを人間形成論として、
近代日本における個の形成の思想として読む
試みをライフワークとしている。学問的な出
自を教育学に持つ立場から、演劇的行為の
人間形成的意義、そもそも人が人となることの
演劇的性格などに関する哲学的考察にまで思
考の射程を広げようとしている。

研究業績
『今を生きる思想 西田幾多郎 分断された
世界を乗り越える』(講談社現代新書、2023年)
『西田幾多郎 世界のなかの私』[新版](朝文
社、2010年)
『「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関
係性』(世織書房、2015年、共著)
『西田幾多郎による書の制作と贈与』[北陸宗
教文化]第27号(2014年)
『歴史的生命の表現としての芸術——後期西
田哲学にみる自己形成概念の二重性』[日本
大学芸術学部紀要]第52号(2010年)

社会活動
日本教育学会会員
教育思想史学会会員
教育科学研究会「道徳と教育」部会世話人

Performing Arts



中野成樹

専任

生年月日

昭和48年08月25日生

略歴

平成07年03月
 日本大学芸術学部演劇学科卒業
 平成08年04月
 日本大学芸術学部演劇学科副手
 平成14年03月
 日本大学大学院芸術研究科舞台芸術専攻修了
 平成21年04月
 有明教育芸術短期大学専任講師
 平成26年04月
 有明教育芸術短期大学准教授
 平成28年04月
 日本大学芸術学部専任講師
 平成30年04月
 日本大学芸術学部准教授
 令和04年04月
 日本大学芸術学部教授

研究領域

舞台演出:戯曲よりドラマトウルギーの抽出とその立体化。具体的には①戯曲読解 ②演技指導 ③空間処理 ④時間編集の方法論。
 現代演劇:①いま観ることのできる演劇 ②現代をモチーフとした戯曲の上演 ③近代劇に対する戯曲・演技・美術・音響効果などの形式の分析・解説。
 小劇場:大に対する小の発想、表現、認識などの分析・解説。①大に対する小 ②中央に対する辺境 ③表に対する裏、など。

研究業績

平成22年～24年
 アジア舞台芸術祭「Waiting～」
 平成25年～29年
 としまアート夏まつり「おぼけ教室」他
 平成25年10月
 フェスティバル／トーキョー「四家の怪談」
 平成28年05月
 日本・シンガポール共同制作「DRUMS」
 平成29年10月
 フェスティバル／トーキョー「半七半八」
 令和03年07月
 中野成樹＋フランケンズ「Part of it all」
 以上全て作・構成・演出

社会活動

日本演劇学会会員



范 旅

(FAN LYU)

専任

生年月日

昭和34年07月20日生

略歴

昭和59年07月
 国立北京舞蹈学院卒業
 昭和59年09月
 中国広東省歌舞劇院入団
 昭和63年09月
 留学のため来日
 平成07年03月
 日本大学大学院芸術学研究所修士課程修了
 平成07年04月
 日本大学芸術学部演劇科副手
 平成11年04月
 日本大学芸術学部助手
 平成14年04月
 日本大学芸術学部専任講師
 平成19年04月
 日本大学芸術学部准教授
 平成24年04月
 日本大学芸術学部教授

研究領域

アジアの文化と伝統芸能の視点から、東洋的な身体表現法を中心に、その歴史と体系、現状と形態を研究する。また従来の東洋的な表現特徴を分析しながら西洋の身体論と比較し、現代における舞踊表現の可能性と作品創作法を探る。

研究業績

論文
 「胡楽・胡舞～日・中芸能史研究の課題として～」日本大学芸術学部紀要第32号
 「時代に翻弄された京劇舞台の裏表」日本大学芸術学部紀要第56号
 「身体表現の視点から“演劇の未来の表現”をどう創造するか」平成30年度学部長指定研究創作
 身体表現演劇「蛛網」総合演出・振付
 舞踊創作「ミズカガミ」/演出・振付
 現代舞踊作品「極」「砂塵」「輪」等
 身体表現演劇「ecstasy～方円の恍惚」総合演出・振付

社会活動

アジア演劇教育研究センター日本支部連絡担当



松永雅彦

専任

生年月日

昭和37年09月27日生

略歴

昭和59年03月
 日本大学芸術学部演劇学科卒業
 平成04年12月
 フランス パリに留学
 平成06年06月
 フランスダンスカンパニー
 バレエアトル ジョセフルシーロと契約
 平成11年12月
 文化庁派遣在外研修員
 フランス パリにて研修
 平成14年04月
 日本大学芸術学部非常勤講師
 平成24年12月
 パフォーマンス教育協会講師
 平成27年04月
 日本女子体育大学非常勤講師
 令和05年04月
 日本大学芸術学部教授

研究領域

舞踊における空間と時間を課題とした表現による創作法
 自己と他者におけるコンタクトワーク
 空間に於ける舞踊作品の演出とその表現方法の研究

研究業績

東京新聞主催全国舞踊コンクール
 創作部門第1位
 文部大臣奨励賞 東京都知事賞
 石井猿堂受賞
 「心と身体のコンタクト」
 パフォーマンス教育第7号
 身体表現演劇「蜘蛛の糸」振付
 中国国立中央戯劇学院
 主な創作作品
 対話—それは心のパズル
 RAIL—私を見つけて
 Harmonization—言葉の足跡

社会活動

(一社)現代舞踊協会理事
 パフォーマンス教育協会会員
 東京新聞主催全国舞踊コンクール審査員



松山 立

専任

生年月日

昭和55年05月09日生

略歴

平成16年03月
 明治大学文学部演劇学専攻卒業
 平成20年03月
 明治大学大学院文学研究科演劇学専攻博士前期課程修了。
 平成21年09月
 エセックス大学大学院イースト15演劇学校 MA in Acting International修了
 平成22年04月～平成23年03月
 多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科 副手
 平成23年04月～平成29年03月
 多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科 助手
 平成29年04月～平成30年03月
 青山学院女子短期大学子ども学科 助教
 平成30年04月～令和04年03月
 日本大学芸術学部専任講師
 令和04年04月～
 日本大学芸術学部准教授

研究領域

演技論、俳優トレーニング

研究業績

著書
 「演劇の課題2」(共著、三恵社)
 論文
 「俳優トレーニングにおける受容と変容の問題」日本大学芸術学部紀要72号
 「感性をどう教えるか」桜門体育学研究第55集

学会発表・シンポジウム

「俳優教育の『時』と『場!』」2022年度日本演劇学会研究集会
 「撮る、のこす、使う!～舞台公演映像の利活用をめぐるシンポジウム～」2022年国際演劇協会日本センター

社会活動

日本演劇学会会員
 戯曲の読書会「本読み会」主宰



山口英峰

専任

生年月日
昭和53年07月生

略歴
平成14年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成14年04月
フリーランスの舞台技術者として活動を開始
平成22年04月
神奈川芸術劇場開設準備室 勤務
平成23年04月
公益財団法人神奈川芸術文化財団 入職
KAAT 神奈川芸術劇場 舞台技術課 配属
平成26年11月
文化庁新進芸術家海外研修員として
カナダケベック州に滞在
平成31年04月
日本大学芸術学部専任講師
令和04年04月
日本大学芸術学部准教授

研究領域
舞台芸術創作においてはプロダクションマネジメントを中心とし、現代演劇やコンテンポラリーダンス等に関わっている。また、公共劇場から派生する地域活動や舞台芸術の労働環境についての調査研究も行なっている。

研究業績
・「舞台芸術の創造過程におけるマネジメントの役割について」日本大学芸術学部紀要 創作編 VOL.44
・演出/振付/美術/衣裳 森山開次
「竜宮-亀の姫と季の部屋-」
・「The Role and the Theatre in Society Today」ATEC第4回世界演劇教育大会 論文集 -メディア芸術と演劇-
・山田うん 作/振付/演出「オバケッタ」
・作 アーサー・ミラー 翻訳 時田耀子
演出 桐山知也「THE PRICE」
・演出/振付 平原慎太郎 指揮 キハラ良尚
ロバート・ウィルソン/フィリップ・グラス
「浜辺のアインシュタイン」

社会活動
みなと芸術センター技術専門参事
公益社団法人 劇場演出空間技術協会会員
全国高等学校総合文化祭 演劇部門審査員



大久保恵児

非常勤

生年月日
昭和28年02月11日生

略歴
昭和52年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
以後、ホログラフ作家を目指し渡米。
昭和55年
(株)ノーマンインターナショナル(セールスプロモーション)入社
昭和57年
(株)共立 舞台照明契約社員
以後フリーランスとして多数の音楽イベントツアー、ミュージカル等々にオペレーター・プランナーとして従事する。
平成12年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成18年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部准教授
平成24年04月
日本大学芸術学部教授
平成30年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部特任教授

研究領域
各ジャンルに於ける舞台照明デザイン。舞台上で使用される光に関わる視覚表現全般についてのデザインを対象としている。

研究業績
串田和美演出「コビュ王」、照明デザイン
加藤直演出「周辺飛行」<ボクたちの安部公房>-イメージの展覧会より-照明デザイン
加藤直演出「地図マニア」-ボクたちのNowhere Land韓国公演(韓国ソウル 中央大学校アートセンター大劇場)照明デザイン。
加藤直演出「地図マニア・扉編」(日中韓合同公演)照明デザイン

社会活動
照明学会会員



加藤みや子

(駐地みや子) 非常勤

生年月日
昭和23年05月14日生

略歴
昭和43年04月
桑沢デザインスクール卒業
昭和52年10月~同53年10月
文化庁在外派遣研修員としてNY、パリで研修。帰国後、加藤みや子ダンススペースを設立。
平成01年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
平成15年12月~平成16年02月
在外研修特別派遣として米仏で研修。
平成16年09月
日本女子体育大学非常勤講師
平成19年04月
お茶の水女子大学非常勤講師
平成25年04月
日本大学大学院芸術学研究所非常勤講師
平成25年09月
日本女子体育大学非常勤講師

研究領域
・地域含めたコラボレーション活動の展開
振付家ソロダンサーとして多くの先駆的な作品を発表。ヨーロッパ、アメリカ等巡演。08年にはブラジルの五都市を国際交流基金主催事業として巡回講演を行う。Hot Head Worksを立ち上げ、ジャンルを越えて地域アーティストが集結するフェスティバルのディレクションし「ダンス-人間史」プロジェクト開始。
・ダンスアーカイブ研究

過去の発見と今の繋がりを検証。ダンス・アーカイブ in JAPANの一員の企画運営委員。
・五感ダンスワークショップとアウトリーチ活動
未来に向い五感フル活用のワークショップを地域や学校で展開。創造力を育む教育の大切さを伝えている。

研究業績
東京新聞主催全国舞踊コンクール三部門第一位文部大臣賞江口隆哉賞ニムラ舞踊賞等受賞
「からだの知性が次代の文化を創造する」
gapan forram 21
「帰点-KITEN-」第53回舞踊批評家協会賞受賞
「植物の睡眠」江口隆哉賞受賞
社会活動
加藤みや子ダンススペース主宰
現代舞踊協会常務理事



神永光規

非常勤

生年月日
昭和23年09月05日生

略歴
昭和47年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和49年03月
日本大学大学院芸術学研究所修士課程修了
昭和53年04月
日本大学芸術学部助手
昭和57年03月
日本大学芸術学部専任講師
平成元年04月
日本大学芸術学部助教授
平成07年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
平成31年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
専攻分野: 演出論・日本近代演劇史
劇性が多様化し、骨太な人間が創出するドラマが稀薄となっている今日、近代人が刻んだ劇的世界を検証することは大切である。そこから自己実現への道筋が見えてくるからである。演出者とは、自他の関係において潜在下の能力をいかに惹き出すかの一点に極まる。ドラマが現代に劇場性をとり戻し、その力をいかに発揮するか普遍的問いかけとしている。韓国を中心にアジアのコモンセンスを追求している。

研究業績
「演出者・岡倉士朗の軌跡」
日本大学芸術学部紀要
「農民劇作家・大島萬世」『芸術学』
「講座日本の演劇 近代の演劇Ⅰ・Ⅱ」(共著) 勉誠社
「講座日本の演劇 現代の演劇Ⅱ」(共著) 勉誠社
「20世紀の戯曲Ⅱ 現代戯曲の展開」(共著) 社会評論社

社会活動
東洋演劇学会(在ソウル)設立など日韓演劇学術交流

Performing Arts



川村 毅

非常勤

生年月日
昭和34年12月22日生

略歴
昭和58年
明治大学政治経済学部経済学科卒業
昭和61年
株式会社劇団第三エロチカ設立、代表取締役
就任(平成14年株式会社ティファクトリー
に社名変更)
平成08年
早稲田大学第二文学部非常勤講師
平成08年
アジア・カルチュラル・カウンシル グラン
ティ
平成11年
ニューヨーク大学ゲストディレクター及び客
員研究員
平成11年
早稲田大学第一文学部客員教授
平成14年
京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科准教授
平成19年
京都造形芸術大学舞台芸術学科教授及び学科長
平成20年
日本大学芸術学部演劇学科非常勤講師
平成28年
京都芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員
平成30年
桐朋学園芸術短期大学演劇専攻非常勤講師

研究領域
現代演劇に於ける劇作・演出分野

研究業績
『新宿八犬伝 第一巻 -犬の誕生-』
1985年度第30回岸田國土戯曲賞受賞
『4』
2012年度第16回鶴屋南北戯曲賞、第63回文
化庁芸術選奨文部科学大臣賞【演劇】受賞

社会活動
日本劇作家協会会員
日本演出者協会会員
日本文藝家協会会員



千早正美

非常勤

生年月日
昭和25年11月11日生

略歴
昭和48年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和60年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成06年04月
日本大学芸術学部助教授
平成12年04月
日本大学芸術学部教授
平成29年04月
日本大学芸術学部教授(再雇用)
令和03年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
専門分野: 演出、舞台監督、劇場技術
上演芸術における舞台監督(舞台監督論・テ
クニカルディレクター論)の在り方を研究し
ている。また、多目的ホール概念から専門
ホールへの移行、創造空間への試み、コミュニ
ティ文化の核としてのホールを中心に公立
文化ホールから公共劇場へのテアトロジーを
考察している。

研究業績
「大学における照明教育について」 舞踊学
「スタッフへの道・舞台監督を志す人へ」 テ
アトロ
「写実舞台における照明デザインの考え方～
構想と設計～」 日本大学芸術学部紀要
「光学技術と舞台芸術」 化学工学
「光と演出・中村吉蔵『剃刀』における照明の
一考察」 日本大学芸術学部紀要
「科学技術用語辞典」(共著)三修社
「舞台・テレビジョン照明 基礎編 2021」(共著)
日本照明家協会

社会活動
公益社団法人日本照明家協会理事
日本舞台監督協会
舞踊公演等における演出・舞台監督
一般社団法人NBAバレエ工団評議員



法月敏彦

非常勤

生年月日
昭和26年07月01日生

略歴
昭和50年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
昭和52年03月
日本大学大学院芸術学研究科文芸学専攻修了
昭和52年04月
玉川大学文学部芸術学科助手(専任講師、助教
授、教授、芸術学部教授を経て平成29年3月定年
退職)
昭和55年
国立劇場芸能調査室嘱託
平成06年以降
英国ミドルセックス大学、日本大学芸術学部、
群馬県立女子大学大学院、明治大学文学部、共
立女子大学文芸学部、桜美林大学等で非常勤
講師
平成29年04月
桜美林大学芸術文化学群教授(令和04年03月
定年退職)
平成31年03月
日本大学より博士(芸術学)の学位取得

研究領域
日本演劇史を中心とする芸術史・芸術論の研
究を行っている。とくに人形浄瑠璃文楽・歌舞
伎から近代劇・現代劇に及ぶ広範囲の領域を
研究対象とし、主に観客の受容という視点から
演劇の本質を巨視的に追究している。

研究業績
共著『近代歌舞伎年表』八木書店
編著『浄瑠璃大系図』国立劇場
編著『増補浄瑠璃大系図』国立劇場
編著『六二連 俳優評判記』国立劇場
単著『演劇研究の核心 一人形浄瑠璃・歌舞伎
から現代演劇』八木書店

社会活動
文部科学省研究振興局拠点採択委員・プログ
ラムオフィサー
文化庁芸術祭執行委員審査委員・文化庁芸術
選奨推薦委員
日本学術振興会科学研究費委員会専門委員
アーツカウンシル東京外部評価委員
ほかを歴任



藤崎周平

非常勤

生年月日
昭和32年06月29日生

略歴
昭和55年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成02年12月
日本大学芸術学部助手
平成06年12月
日本大学芸術学部専任講師
平成13年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授
令和05年04月
日本大学芸術学部非常勤講師

研究領域
現代演劇における演技及び方法の研究。
近代以降の主にナチュラルイズムの表現のため
の基幹となったスタンラフスキーの方法論
及び、その派生であるメソッド演技の実践
研究。それらの方法を土台とした演技訓練法
の開発など。

研究業績
A・チェーホフ作『かもめ』演出における一
考察 日本大学芸術学部紀要23号
Animal Exercise - その内容と実践につい
て - 日本大学芸術学部紀要33号
「役」と「演じる役者」の関係について 日本
大学芸術学部紀要45号
演劇の「専門」学科における「基礎」教育をめ
ぐる問題 演劇学会紀要44号
新演技の基礎のキソ(単著)
竹内敏晴のレッスンを検証する - スタンラ
フスキーの「身体的行動の方式」をめぐって
日本大学芸術学部研究所紀要2022年度
社会活動
日本演劇学会副会長



松澤慶信

非常勤

生年月日
昭和33年04月20日生

略歴
昭和58年03月
慶應義塾大学法学部法律学科 卒業
昭和61年03月
慶應義塾大学文学部哲学科美学美術史学専攻 卒業
平成元年03月
慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程哲学 専攻 修了
平成05年03月
ロンドン・ラバン・センター 留学修了
平成14年04月
日本女子体育大学及び大学院准教授
平成23年04月
日本女子体育大学及び大学院教授

研究領域
舞踊を美学芸術学の概念を使って舞踊学を打ち立て、舞踊を使って美学芸術学の概念を洗い直したい。例えば、舞踊の芸術思潮をformalismの観点から整理し、deconstructiveをコンテンポラリーダンスを事例に概念規定する。また舞踊という芸術の鑑賞体験が、理性的理解、感性的了解、身体的承、そして共振性によることを考察して、その特異性から、舞踊芸術を他芸術と比較して逆照射する。

研究業績
ナンシー・レイノルズ他著『20世紀ダンス史』監訳 慶應義塾大学出版会
アニエス・イズリーヌ著『ダンスは国家と踊る』共訳 慶應義塾大学出版会
ウィリアム・フォーサイズ著『インプロヴィゼーション・テクノロジーCD-ROM (日本版)』監訳 慶應義塾大学出版会 (論文)
「舞踊におけるロマン的なものの美学的考察」日本女子体育大学紀要47巻
「舞踊教育と教育舞踊、そしてコンテンポラリーダンスのテクニックに関して」早稲田大学演劇博物館

社会活動
舞踊学会会員
日本美学会会員
国際美学会会員



丸茂祐佳 (丸茂美恵子) 非常勤

生年月日
昭和29年11月19日生

略歴
昭和52年03月
日本大学芸術学部演劇学科卒業
平成元年04月
東京国立文化財研究所芸能部調査員
平成07年03月
日本大学大学院芸術学研究科修士課程修了
平成09年04月
日本大学芸術学部専任講師
平成12年03月
韓国国立韓国芸術総合学校舞踊院招聘講師
平成13年03月
日本大学より博士(芸術学)取得
平成15年04月
日本大学芸術学部助教授
平成19年04月
日本大学芸術学部教授
令和02年04月
日本大学芸術学部非常勤講師
令和02年04月
桜美林大学芸術文化学群特任教授

研究領域
動作分析を中心に日本舞踊の本質と理論を探っている。近年はモーションキャプチャを用いた舞踊研究に従事し、日本舞踊の身体的科学的な解明を試みた。それらの成果を進展させ、現在、舞踊と美術、文系と理系の融合によって日本舞踊の身体の源流を探り、日本舞踊学の確立を目指している。

研究業績
単著
「女舞の伝統－日本舞踊成立史の研究」(近刊予定) 桜美林大学出版会
「二世花柳壽應 一期一會」花柳壽應
「舞曲扇林－日本舞踊 基本と本質－」私家版
「おどりの譜－日本舞踊 古典技法の復活－」国書刊行会
「舞踊 正派若柳流史 第Ⅱ期」正派若柳会
「日本舞踊 西川流史」西川流宗家

社会活動
文化審議会委員(文化功労者選考分科会)
文化庁芸術選奨選考委員
国立劇場舞踊公演専門委員などを歴任



宮尾慈良 非常勤

生年月日
昭和23年11月09日生

略歴
昭和51年03月
早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻修士課程修了
昭和55年06月
ハワイ大学大学院博士課程留学
ハワイ・イースト・ウエスト・センター研究員
平成03年04月
東京女学館大学助教授
平成09年04月
早稲田大学文学部非常勤講師
慶應義塾大学文学部非常勤講師
平成12年03月
博士(芸術学)取得

研究領域
日本演劇の歴史は、アジアから渡来した外来文化と固有文化の混交からなりたってきた。豊かな文化や新たな芸能は、今日では世界演劇を代表する能、狂言、文楽、歌舞伎などに発達した。現在、視点を変えて、アジア演劇のなかで、日本演劇は独自性をもつかどうかを考察してみる。アジア演劇における精神性を研究するには、民俗に根ざした芸能の伝承形態を分析することによって、明確にすることができる。

研究業績
「アジアの人形劇」三一書房
「アジア舞踊の人類学」PARCO出版
「宇宙を映す身体－アジアの舞踊」新書館
「アジア演劇人類学の世界」三一書房
「アジア人形博物館」大和書店
「舞踊の民族誌」彩流社
「東南アジア演劇史の研究」鼎書房
「比較芸能論」彩流社
翻訳書
「世界の舞踊」アンドレー・グロー 同朋舎出版・角川書店
「日本首斬集(全3巻)」彩流社
「近世戯画集『狂斎百圖』を読む」東京堂出版
「アイヌ説話集－1888年の幻の説話－」バジル・チェンバレン・ジョン・パチェラー・新興社

五十音順 (敬称略)

●博士前期課程と●博士後期課程を担当する教員が見分けられるようになっています。

Pは掲載頁の場所を示します。

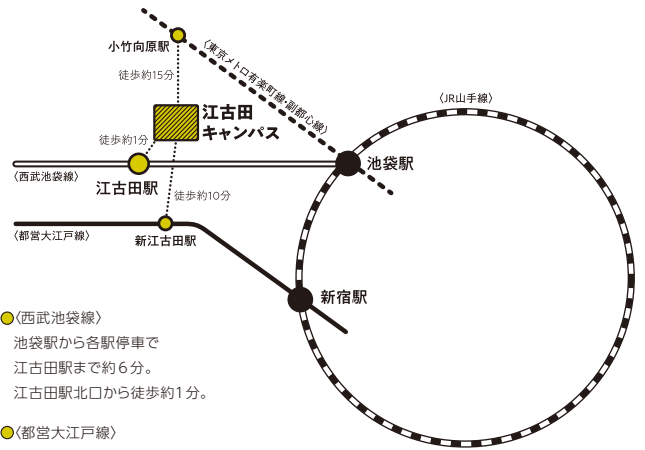
博士前期 博士後期

Table listing faculty members under '博士前期' and '博士後期' columns with corresponding page numbers (e.g., 相内啓司 21, 青木敬次 10).

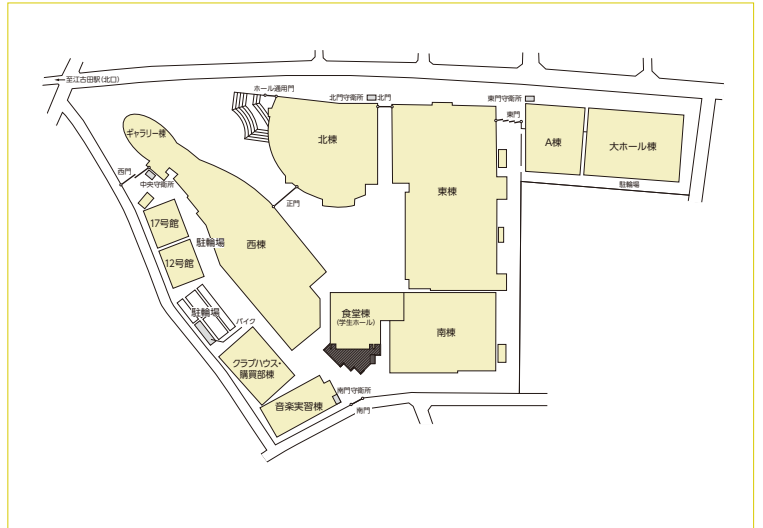
博士前期 博士後期

Table listing faculty members under '博士前期' and '博士後期' columns with corresponding page numbers (e.g., 坪井麻衣子 28, 手塚昌明 24).

江古田キャンパス



- (西武池袋線) 池袋駅から各駅停車で江古田駅まで約6分。江古田駅北口から徒歩約1分。
●(都営大江戸線) 新宿駅から新江古田駅まで約15分。新江古田駅A2出口から徒歩約10分。
●(東京メトロ有楽町線・副都心線) 池袋駅から小竹向原駅まで約6分。小竹向原駅2番出口から徒歩約15分。



GSA

Art Direction, Design & Digital Operation

by Masashi Kimura,

Department of Design

Text : General Affairs Section & Academic

Affairs Section

Printing Company : TASP

Many thanks to

The People Who Understand

the Art & Design

Nihon University Graduate School of Art

September 2023.

GSA

<https://nihon-u-gsa.com>

日本大学大学院芸術学研究科

東京都練馬区旭丘 2-42-1 〒176-8525

Telephone.03・5995・8202 Facsimile.03・5995・8209

NIHON UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL OF ART

2-42-1, Asahigaoka Nerima-ku, Tokyo 176-8525 JAPAN